

豊島区

# 長崎一丁目周辺遺跡 2

— 都道補助第172号線整備事業に伴う調査 —



2024・3

東京都埋蔵文化財センター



## 長崎一丁目周辺遺跡の調査

長崎一丁目周辺遺跡は、豊島区长崎一丁目に所在し、武蔵野台地北東部にあたる豊島台と呼ばれる台地に立地しています。周囲には、豊島区要町に位置する粟島神社境内の弁天池を水源とし、現在は暗渠化している谷端川やばたがわが流れています。谷端川は遺跡の西側を南流したのち西武池袋線椎名町駅付近で大きくU字を描いて北上に転じますが、この屈曲部分に囲まれた半島状の台地の先端部分が、本遺跡の範囲にあたります。

本遺跡は中世・近世の散布地（包蔵地）と把握されており、これまでも試掘調査や本調査が行われてきています。その成果としては、主に中世から近世にかけての礎石建物跡・溝・畝間溝・井戸などの土地利用の痕跡などが検出されており、これらは旧長崎村に関連するものと考えられています。

今回の発掘調査は、東京都第四建設事務所による都道補助第172号線（長崎）整備事業に伴う事前調査の第2期調査として行われました。調査地点は、本遺跡の北部から北西部にかけて大きく3地点に分かれて点在します。発掘調査は令和4年7月から令和5年3月まで、整理調査は令和5年4月から11月まで行われました。

検出された遺構・遺物は、主に近世から近代以降に属します。主な遺構は溝・畝間溝・井戸・土坑・ピットなど、遺物は縄文土器・石器・近世以降の陶磁器・土製品・瓦・金属製品・ガラス製品・骨角製品・動物骨などです。ウマの骨1個体分が土坑から出土しており、死亡後に埋葬や処理が行われたようです。第二次世界大戦期の貯水施設の可能性があるコンクリートタイル・モルタル製の構造物や、焼夷弾の部品など、戦争に関係する可能性がある遺構・遺物が検出されたことも特筆されます。



写真1 今回の調査地点

令和2年度の第1期調査では、古代朝鮮の寺院の基壇の瓦である埴ハル片が出土しました。これは、調査地周辺で昭和初期から戦前にかけて芸術活動や交流の場となった「長崎アトリエ村」に関連すると考えられる遺物ですが、今回の調査ではそれに類する遺物は確認されませんでした。

#### 縄文時代

縄文時代の遺物は、早期から前期の土器片や石鏃が出土しています。いずれも近世以降の遺構の覆土から出土しており、耕作などに巻き込まれて原位置から動いているものと考えられます。縄文時代に属すると明確に判断できる遺構は、今回の調査では検出されませんでした。

#### 古代

古代の遺物は、奈良・平安時代の土器片が出土していますが、これら後世の遺構の覆土から出土しています。長崎一丁目周辺遺跡では、過去の調査で古墳時代末から奈良時代初頭の竪穴住居跡が1軒検出されていますが、今回の調査では近世より遡ると考えられる遺構は検出されませんでした。

#### 近世以降

D-1・2区では、主に近世に属する遺構・遺物が検出されています。土坑（98号遺構）からは、ウマの上あご・下あご・足などの骨や歯が出土しました。遺存状態が悪く、元の形状があまり残っていなかったことや、土坑が調査範囲外に及ぶため覆土全てを掘削できなかったことから断定はできませんが、ウマ1個体分の骨が埋められていたと考えられます。江戸の近郊の農村では、全身骨格が崩壊した状態のウマが遺跡から出土する例が知られており、これらは死亡した牛馬を埋葬もしくは処理した痕跡であると考えられます。98号遺構から出土したウマも、こうした当時の動物利用の一例を示しているのかもしれませんが、骨に共存する遺物から、遺構の年代の上限は幕末と考えられます。

D-3・4区はローム層まで現代の掘削が及んでおり、遺構・遺物はほとんど検出されませんでした。D-5区では植栽痕と溝の可能性のある遺構が検出されています。

E区では主に近世・近代に属する遺構・遺物が検出されています。E-1a区では、ビット（252p）から緑泥片岩製の板碑片及び多数の摺鉢片が出土しました。板碑片は表面や側面に摩耗がみられ、表面に刻まれた銘文などは明瞭ではありません。砥石などに転用されたと考えられます。長崎地区は豊



写真2 出土した縄文土器



写真3 98号遺構出土のウマ (1)



写真4 98号遺構出土のウマ (2)

鳥区内でも現存する板碑数が最も多い地域で、E区では他のピットからも板碑片の可能性のある緑泥片岩片が出土しているほか、長崎一丁目周辺遺跡の過去の調査でも板碑片が数多く出土しています。搦鉢は17世紀後半の丹波産です。

また、E-1区の中央部では、一辺が7mを超える大規模なコンクリート構造物（127号遺構）を検出しました。東側約半分を攪乱によって失っていますが、平面形はほぼ方形だったと考えられます。壁はいずれも斜めに立ち上がり、底面は平坦です。遺構の上端から底面までは0.76mを測ります。壁・底面共にコンクリート製の正方形のタイルを敷き詰めてモルタルを塗って構築されていますが、北壁・西壁・底面と南壁で用いられているタイルの大きさが異なります。北西の角には階段のような突出部が存在しています。第二次世界大戦期にこの場所に池が存在していたという証言から、空襲による火災に備えて築かれた貯水施設であったのかもしれませんが。

E-1b区は大半が攪乱され、遺構は部分的に畝間溝の下端が検出された程度に留まっています。E-2区も北側は攪乱されて遺構・遺物の検出が乏しいものの、南側では浅い溝・土坑・ピットが検出されています。ピットは南北方向に延びる溝（114・115号遺構）に沿うように列状に分布しており、中には何基ものピットが集中し重複しているところもあります。



写真5 252p出土の板碑片・搦鉢



写真6 127号遺構



写真7 127号遺構南壁断面タイル



写真8 127号遺構北西角突出部



写真9 E-2区南側の溝状遺構とピット列

F区では、主に近代に属する遺構・遺物が検出されています。土坑の多くは、焼けた土や被熱して変形したり発泡した遺物を覆土に含んでいるのが特徴的です。F区は昭和20年4月13日の空襲で焼失した範囲にはば隣接しており、焼けた土や遺物は空襲による火災後の片付けの際に埋められたと考えられます。表土からは、焼夷弾を束ねて取めた親爆弾の弾頭のノーズブロック（重り）も出土しています。

耕作土もしくは盛土と考えられる黒褐色の土層の面では東西方向の畝間溝が検出されており、耕作地としての土地利用をうかがわせません。ローム面上では、F-1・2区を貫く東西方向の浅い溝（18・45号遺構）に沿って、複数の深いピットが群集しています。これらが何の痕跡であるのかは明確ではありませんが、土地を区画する溝が、時期によっては柵に作り替えられていたのかもしれない。



写真10 焼夷弾ノーズブロック



写真11 被熱で変形したガラス製品



写真12 10号遺構から焼土と共に出土した遺物



写真13 9号遺構出土の火鉢等



写真14 F-2区の畝間溝

## < Nagasaki-itchohome-shuhen site - English Summary >

This report is on the recent excavation survey of the Nagasaki-itchohome-shuhen site, which date back to the early modern period and the modern times or later.

These ruins are located at Nagasaki 1-chome, Toshima Ward, on a plateau called Toshimadai, which is in the northeastern part of the Musashino Plateau. Our previous surveys mainly detected traces of land use such as foundation stone building ruins, ditches, ridges, and wells from the early modern period or later.

This was a preliminary excavation investigation for the Tokyo Metropolitan Government No. 4 Construction Office's prefectural road No. 172 (Nagasaki) maintenance project. The area covered by the excavation is near the zone of the excavation survey conducted in FY2020.

This survey revealed earthenware and stone tools from the Jomon period, as well as earthenware from ancient times and remains and relics from the early modern period or later. Among the remains found were ditch-like remains, earthen pits, furrows, wells, and pit groups. The excavated relics include ceramics, earthenware, roof tiles, earthenware products, metal products, and glass products. Most of these findings were remains and relics, presumably from modern times. It is therefore expected to reflect the way people lived in those days.

Other remains and relics revealed are considered to be related to air raids towards the end of WWII.



## 序 言

豊島区長崎一丁目に所在する「長崎一丁目周辺遺跡（豊島区№10遺跡）」は、武蔵野台地東端部の豊島台と呼ばれる台地上に位置しています。U字を描いて台地上を流れる谷端川に囲まれた半島状の台地の先端部分が、本遺跡の範囲にあたります。

今回の発掘調査は、東京都第四建設事務所による都道補助第172号線（長崎）整備事業に伴う事前調査であり、合計1,363㎡を調査しました。令和2年度に行われた発掘調査に継続する形で、前回調査の近隣の範囲を調査対象としています。

今回の調査では、縄文時代の土器・石器、古代の土器、近世以降の遺構と遺物が検出されました。主体となるのは近世以降の遺構と遺物で、遺構としては溝状遺構や土坑、畝間溝、井戸、ピット群などが、遺物としては陶磁器、土器、瓦、土製品、金属製品、ガラス製品などが主に検出されています。特に近代に属すると考えられる遺構・遺物が大半を占めており、当時の生活の復元の一助となることが期待されます。また、調査地点は第二次世界大戦末期に空襲を受けた範囲にも近く、調査の中では空襲に関連すると考えられる遺構・遺物も検出されています。

今回の調査成果をまとめた本報告書が多くの方々に広く活用され、地域の歴史を復元する資料として学術研究の一助となることを期待しています。また、本報告書が埋蔵文化財に対する都民の皆様のご関心とご理解を深めていただく上でお役に立てば幸いです。

本報告書の刊行にあたり、ご協力とご指導を賜りました東京都第四建設事務所、東京都教育庁地域教育支援部、豊島区教育委員会に厚く御礼申し上げます。ならびに、調査期間中にご理解とご協力をいただいた近隣住民の皆様をはじめ、調査の内容に関して、様々なご教示をいただきました研究者の方々に心より感謝を申し上げます。

令和6年3月

公益財団法人東京都教育支援機構  
理事長 坂東 真理子

## 例 言

- 1 本書は、都道補助第172号線（長崎）整備事業に伴う豊島区長崎一丁目周辺遺跡（豊島区No.10遺跡）の調査報告（東京都埋蔵文化財センター調査報告第383集）である。
- 2 発掘調査及び整理調査事業は、東京都第四建設事務所、東京都教育庁地域教育支援部、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（現公益財団法人東京都教育支援機構）で協定を締結し、東京都第四建設事務所の委託を受け、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センターが調査を実施した。なお、東京都埋蔵文化財センターは、令和5年4月1日に公益財団法人東京都スポーツ文化事業団から公益財団法人東京学校支援機構（現公益財団法人東京都教育支援機構）に事業移管されている。
- 3 試掘調査は、令和3年12月6日～令和年12月15日にかけて、東京都第四建設事務所の委託を受け、豊島区教育委員会の指導により特定非営利活動法人としま遺跡調査会が実施した。
- 4 遺跡所在地：東京都豊島区長崎一丁目地内
- 5 調査面積：1,363㎡
- 6 発掘調査：令和4年7月20日～令和5年3月16日  
一次整理：令和4年8月23日～令和5年3月31日  
二次整理及び報告書作成期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
- 7 本事業における事業者との事業調整等は東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。  
埋蔵文化財担当統括課長代理 鈴木徳子  
埋蔵文化財係担当学芸員 石井香代子
- 8 調査担当者  
調査課課長 西山博章  
調査研究員 橋本望
- 9 調査協力  
株式会社ジオダイナミック、生田建設株式会社
- 10 本報告書の執筆は、西山・橋本が担当し、執筆者を文末に記した。編集は西山・橋本が行った。遺物等に関しては、長佐古真也・大綱信良の助言を得た。
- 11 本報告に関わる現地指導および委託等は以下のとおりである。なお、山根洋子氏と株式会社パレオ・ラボからは、本件に係る玉稿を賜った。  
動物遺体の同定：山根洋子（港区立郷土歴史館）  
土壌サンプルのテフラ分析：株式会社パレオ・ラボ  
文献資料：渋谷葉子（財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所）
- 12 遺構写真については調査研究員が、遺物写真については調査研究員の指導の下、株式会社ジオダイナミック柳谷・長佐古真也が撮影した。金属製品のX線写真撮影は長佐古真也が行った。
- 13 金属製品・木製品の保存処理については、長佐古真也が行った。
- 14 出土遺物及び発掘調査・整理に関する図面・写真記録類は、豊島区教育委員会が保管している。

15 本文用例等

- ・土色の表記には、農林水産省農林水産技術会議事務局他監修「新版標準土色帖」を用い、土色・マンセルノーション（マンセル表記法）で表現した。
- ・各挿図の縮尺は図中に示した。図中の方位記号は真北を示す。
- ・本文中で使用した地図は以下の通りである。

「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」（東京都教育委員会）

「電子地形図 25000」（国土地理院）

「基盤地図情報数値標高モデル」（国土地理院）

「地理院地図 Vector」（国土地理院）

「地図・空中写真閲覧サービス」（国土地理院）

「鴨下亨氏所蔵絵図」（鴨下亨氏）

- ・出土遺物の注記記号（遺跡略号）については、「長 172 II」とした。

16 本書で使用した標高は T P（東京湾平均海面）を使用し、単位はメートルである。

17 発掘調査及び整理に関して、下記の方々と機関にご指導・ご協力を賜った。記して感謝いたします。（順不同・敬称略）

鴨下亨、成田涼子、東京都第四建設事務所、公益財団法人東京都道路整備保全公社、東京都教育庁地域教育支援部管理課、豊島区教育委員会

18 本報告の著作権は、公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センターが保有する。

19 挿図凡例



# 目次

## 長崎一丁目周辺遺跡の調査

序言

例言

目次

巻頭写真目次

挿図目次

表目次

I	発掘調査の概要	
1	調査に至る経緯	1
2	調査の方法と経過	1
1)	調査の方法	1
2)	発掘調査の経過	4
3)	整理調査の経過	5
II	遺跡の環境	
1	地理的環境	7
2	歴史的環境	8
III	層序	12
IV	遺構と遺物	
1	中世以前の遺構・遺物	16
2	近世以降の遺構・遺物	16
1)	遺構	16
2)	遺物	21
V	自然科学分析	
1	長崎一丁目周辺遺跡出土の動物遺体	97
2	豊島区長崎一丁目周辺遺跡のテフラ分析	99
VI	調査の成果	
1	中世以前	106
2	近世以降	106
	引用・参考文献	111
	写真図版	113
	報告書抄録	135

## 巻頭写真目次

写真1 今回の調査地点…………… i	写真8 127号遺構北西角突出部…………… iv
写真2 出土した縄文土器…………… ii	写真9 E-2区南側の溝状遺構とビット列…………… iv
写真3 98号遺構出土のウマ(1)…………… ii	写真10 焼夷弾ノーズブロック…………… v
写真4 98号遺構出土のウマ(2)…………… ii	写真11 被熱で変形したガラス製品…………… v
写真5 252p出土の板碑片・挿鉢…………… iii	写真12 10号遺構から焼土と共に出土した遺物…………… v
写真6 127号遺構…………… iii	写真13 9号遺構出土の火鉢等…………… v
写真7 127号遺構南壁断面タイル…………… iv	写真14 F-2区の畝間溝…………… v

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置…………… 3	第30図 植栽痕(4)(1/40)…………… 47
第2図 グリッド設定図(1/800)…………… 6	第31図 植栽痕(5)・井戸(1)(1/40)…………… 48
第3図 遺跡周辺の地形分布図(1/15,000)…………… 7	第32図 井戸(2)・レンガ拵(1/40)…………… 49
第4図 遺跡の位置と周辺の遺跡(1/25,000)…………… 8	第33図 コンクリート構造物(1)(1/50)…………… 50
第5図 長崎一丁目周辺遺跡調査履歴…………… 10	第34図 コンクリート構造物(2)(1/60)…………… 51
第6図 D区基本層序(1/80)…………… 13	第35図 ビット(1)(1/40)…………… 52
第7図 E区基本層序(1/80)…………… 14	第36図 ビット(2)(1/40)…………… 53
第8図 F区基本層序(1/80)…………… 15	第37図 ビット(3)(1/40)…………… 54
第9図 全体図(1/600)…………… 25	第38図 ビット(4)(1/40)…………… 55
第10図 D-1・2区全体図(1/80)…………… 27	第39図 ビット(5)(1/40)…………… 56
第11図 D-3～5区全体図(1/150)…………… 28	第40図 ビット(6)(1/40)…………… 57
第12図 E区全体図(1/200)…………… 29	第41図 ビット(7)(1/40)…………… 58
第13図 F区全体図(1/150)…………… 30	第42図 ビット(8)(1/40)…………… 59
第14図 溝状遺構(1)(1/40・1/100)…………… 31	第43図 ビット(9)(1/10・1/40)…………… 60
第15図 溝状遺構(2)(1/40)…………… 32	第44図 ビット(10)(1/40)…………… 61
第16図 溝状遺構(3)(1/40)…………… 33	第45図 遺構出土の遺物(1)(1/1・1/3)…………… 71
第17図 土坑(1)(1/40)…………… 34	第46図 遺構出土の遺物(2)(1/3・1/6)…………… 72
第18図 土坑(2)(1/40)…………… 35	第47図 遺構出土の遺物(3)(1/3)…………… 73
第19図 土坑(3)(1/40)…………… 36	第48図 遺構出土の遺物(4)(1/3)…………… 74
第20図 土坑(4)(1/40)…………… 37	第49図 遺構出土の遺物(5)(1/3・1/6)…………… 75
第21図 土坑(5)(1/40)…………… 38	第50図 遺構出土の遺物(6)(1/3・1/6)…………… 76
第22図 土坑(6)(1/10・1/40)…………… 39	第51図 遺構出土の遺物(7)(1/3・1/6)…………… 77
第23図 土坑(7)(1/40)…………… 40	第52図 遺構出土の遺物(8)(1/3・1/6)…………… 78
第24図 土坑(8)(1/40)…………… 41	第53図 遺構出土の遺物(9)(1/3)…………… 79
第25図 土坑(9)(1/40)…………… 42	第54図 遺構出土の遺物(10)(1/3・1/6)…………… 80
第26図 土坑(10)(1/40)…………… 43	第55図 遺構出土の遺物(11)(1/3・1/6)…………… 81
第27図 植栽痕(1)(1/40)…………… 44	第56図 遺構出土の遺物(12)(1/3・1/6)…………… 82
第28図 植栽痕(2)(1/40)…………… 45	第57図 遺構出土の遺物(13)(1/3・1/6)…………… 83
第29図 植栽痕(3)(1/40)…………… 46	第58図 遺構出土の遺物(14)(1/1・1/3・1/6)…………… 84

.....	84	.....	89
第59図 遺構出土の遺物(15)(1/1・1/3) …	85	第64図 遺構外出土の遺物(4)(1/3・1/6) …	90
第60図 遺構出土の遺物(16)(1/3・1/6) …	86	第65図 分析試料中の鉱物の顕微鏡写真 ……	104
第61図 遺構出土の遺物(17)・遺構外出土の遺物(1) (1/3・1/6) ……	87	第66図 1φ篩残渣中のスコリア粒子の顕微鏡写真 ……………	105
第62図 遺構外出土の遺物(2)(1/1・1/3) …	88	第67図 鹿絵図 ……	109
第63図 遺構外出土の遺物(3)(1/1・1/3・1/6)	88	第68図 鹿絵図トレース ……	109

## 目 次

第1表 全体工程表 ……	2	第8表 遺物観察表 ……	91
第2表 周辺の遺跡一覧表 ……	9	第9表 出土動物一覧 ……	98
第3表 長崎一丁目周辺遺跡調査履歴一覧表 …	11	第10表 分析試料とその特徴 ……	99
第4表 遺構観察表 ……	62	第11表 試料の湿式篩分け・重液分離の結果 …	102
第5表 ビット観察表 ……	66	第12表 4φ篩残渣中の鉱物組成 ……	102
第6表 ビット出土遺物一覧表 ……	70	第13表 篩残渣中のスコリア・軽石 ……	102
第7表 一括出土・合計遺物一覧表 ……	70		

## 図 版 目 次

<p>図版 1 1. 調査区 D-1 区 2 面東側全景 (東から) 2. 調査区 D-2 区全景 (西から)</p> <p>図版 2 1. 調査区 D-1 区 2 面西側全景 (北から) 2. 調査区 D-3 区全景 (南から) 3. 調査区 D-4 区全景 (南から) 4. 調査区 D-5 区全景 (東から) 5. 調査区 E-1a 区 2 面全景 (西から)</p> <p>図版 3 1. 調査区 E-1b 区 2 面全景 (東から) 2. 調査区 E-2 区 2 面全景 (西から)</p> <p>図版 4 1. 調査区 F-1 区全景 (東から) 2. 調査区 F-2 区 2 面全景 (東から)</p> <p>図版 5 1. D-1 区北壁土層断面 (南から) 2. E-2 区南西部南壁土層断面 (北から) 3. F-1 区北壁土層断面西側 (南から) 4. E-2 区旧石器時代調査坑北壁土層断面 (南から) 5. E-2 区旧石器時代調査坑西壁土層断面 (東から) 6. F-1 区旧石器時代調査坑東壁土層断面 (西から) 7. 18 号遺構・45 号遺構土層断面 A-A' (東から) 8. 18 号遺構土層断面 B-B' (西から)</p> <p>図版 6 1. 18 号遺構・45 号遺構土層断面 D-D' (西から) 2. 18 号遺構土層断面 E-E' (西から) 3. 18 号遺構土層断面 F-F' (西から) 4. 45 号遺構土層断面 G-G' (西から) 5. 18 号遺構土層断面 H-H' (西から) 6. 18 号遺構土層断面 I-I' (西から) 7. 18 号遺構土層断面 J-J' (東から) 8. 36 号遺構土層断面 (西から)</p> <p>図版 7 1. F-1 区 18 号遺構・45 号遺構完掘 (東から) 2. F-2 区 18 号遺構完掘 (西から) 3. 74 号遺構完掘 (北から) 4. 77 号遺構・78 号遺構完掘 (西から) 5. 114 号遺構・115 号遺構・ビット群全景 (南から)</p> <p>図版 8 1. 84 号遺構完掘 (北から) 2. 2 号遺構完掘 (南から) 3. 6 号遺構完掘 (西から) 4. 8 号遺構完掘 (北から) 5. 9 号遺構遺物出土状況 (北から) 6. 10 号遺構土層断面 (南から) 7. 14 号遺構遺物出土状況 (西から) 8. 17 号遺構完掘 (北から)</p> <p>図版 9 1. 31 号遺構完掘 (東から)</p>	<p>2. 32 号遺構土層断面 (南から) 3. 33 号遺構土層断面 (南から) 4. 34 号遺構土層断面 (南から) 5. 40 号遺構土層断面 (西から) 6. 44 号遺構完掘 (南から) 7. 52 号遺構土層断面 (北から) 8. 53 号遺構土層断面 (北から)</p> <p>図版 10 1. 54 号遺構・55 号遺構完掘 (東から) 2. 56 号遺構完掘 (東から) 3. 79 号遺構・80 号遺構完掘 (東から) 4. 90・94・108・144 号遺構完掘 (南から) 5. 97 号遺構完掘 (南から) 6. 98 号遺構動物骨出土状況 2 回目 (北から) 7. 98 号遺構動物骨出土状況 6 回目 (北から) 8. 99 号遺構完掘 (東から)</p> <p>図版 11 1. 102 号遺構完掘 (東から) 2. 104 号遺構完掘 (西から) 3. 105 号遺構完掘 (北から) 4. 109 号遺構土層断面 (北から) 5. 110 号遺構完掘 (南から) 6. 113 号遺構完掘 (南から) 7. 117 号遺構・119 号遺構完掘 (東から) 8. 121 号遺構完掘 (東から)</p> <p>図版 12 1. 125 号遺構完掘 (南から) 2. 126 号遺構完掘 (東から) 3. 128 号遺構完掘 (東から) 4. 139 号遺構完掘 (南から) 5. 35 号遺構土層断面 (北から) 6. 57 号遺構完掘 (西から) 7. 64 号遺構・73 号遺構完掘 (南から) 8. 65 号遺構・103 号遺構完掘 (西から)</p> <p>図版 13 1. 72 号遺構完掘 (南から) 2. 106 号遺構完掘 (東から) 3. 11 号遺構完掘 (西から) 4. 1 号遺構完掘 (南から) 5. 59 号遺構蓋撤去後完掘 (南から) 6. 131 号遺構完掘 (北から) 7. 143 号遺構完掘 (北東から) 8. 3 号遺構土層断面 (南から)</p> <p>図版 14 1. 127 号遺構完掘 (東から) 2. 127 号遺構南西角突出部構造検出状況 (南東</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- から)
3. 127 号遺構掘方 (北から)
- 図版 15
1. 12p 土層断面 (西から)
  2. 20p・21p 土層断面 (北から)
  3. 22p 完掘 (南から)
  4. 23p・25p・26p 完掘 (北から)
  5. 24p 完掘 (東から)
  6. 27p 完掘 (南から)
  7. 30p 完掘 (南から)
  8. 31p 完掘 (南西から)
  9. 37p 土層断面 (西から)
  10. 37p 完掘 (西から)
  11. 39p 完掘 (西から)
  12. 40p 土層断面 (西から)
  13. 40p 完掘 (西から)
  14. 41p 土層断面 (東から)
  15. 41p 完掘 (東から)
  16. 43p 完掘 (西から)
  17. 44p 土層断面 (西から)
  18. 50p 完掘 (西から)
- 図版 16
1. 51p 完掘 (西から)
  2. 54p・56p・57p 土層断面 (西から)
  3. 56p 土層断面 (北西から)
  4. 54p 完掘 (西から)
  5. 56p 完掘 (西から)
  6. 55p・86p 土層断面 (北西から)
  7. 86p 完掘 (北から)
  8. 58p・18・45 号遺構土層断面 (西から)
  9. 59p 完掘 (西から)
  10. 67p 土層断面 (西から)
  11. 67p 完掘 (西から)
  12. 70p 土層断面 (西から)
  13. 70p 完掘 (西から)
  14. 78p 土層断面 (東から)
  15. 78p 完掘 (東から)
  16. 79p 土層断面 (東から)
  17. 79p 完掘 (東から)
  18. 81p 土層断面 (北西から)
- 図版 17
1. 81p 完掘 (北西から)
  2. 82p・83p 土層断面 (南から)
  3. 82p・83p 完掘 (南から)

4. 84p 土層断面 (西から)
  5. 84p 完掘 (西から)
  6. 95p 土層断面 (東から)
  7. 95p 完掘 (東から)
  8. 108p 完掘 (東から)
  9. 109p 完掘 (東から)
  10. 130・131p 他土層断面 (北から)
  11. 155p・156p 土層断面 (北から)
  12. 130p・158p 他完掘 (北から)
  13. 163p 土層断面 (東から)
  14. 177p・178p 土層断面 (南から)
  15. 181p 土層断面 (北西から)
  16. 184p 土層断面 (北から)
  17. 195p 完掘 (南東から)
  18. 197p 完掘 (南東から)
- 図版 18
1. 204p 土層断面 (南西から)
  2. 204p 完掘 (南西から)
  3. 206p・211p 土層断面 (北から)
  4. 207p・211p 他土層断面 (北から)
  5. 206p・223p 完掘 (北から)
  6. 207p・211p・212p 完掘 (北から)
  7. 209p 土層断面 (西から)
  8. 235p～237p 土層断面 (西から)
  9. 246p・247p 土層断面 (西から)
  10. 209p 他完掘 (西から)
  11. 229p・231p 土層断面 (東から)
  12. 252p 土層断面 (南から)
  13. 252p 遺物出土状況 (南から)
  14. 252p 完掘 (南から)
  15. 256p 完掘 (北から)
  16. 257p 完掘 (北から)
  17. 259p 完掘 (西から)
  18. 263p 完掘 (北から)
- 図版 19
1. 近世遺物集合写真
  2. 40 号遺構出土近代以降遺物集合写真
  3. 2 号遺構出土近代以降遺物集合写真
  4. 2 号遺構出土ガラス製品集合写真
  5. 金属製品集合写真
  6. 銭貨集合写真
  7. 代用陶器集合写真
  8. 電気製品集合写真



## I 発掘調査の概要

### 1 調査に至る経緯

東京都の木造住宅密集地域改善のための不燃化プロジェクトの策定により、特定整備路線として、東京都建設局（以下、建設局）による補助第172号線の整備事業が進められている。当該事業地の一部は周知の埋蔵文化財包蔵地である長崎一丁目周辺遺跡（豊島区No.10遺跡）に該当するため、東京都第四建設事務所（以下、四建）は豊島区教育委員会（以下、区教委）と協議し、令和元（2019）年10月から11月にかけて試掘調査を実施した。試掘調査の結果、区教委より本調査が必要との判断がなされ、本調査対象範囲のうち903㎡の範囲について、第1期の発掘調査が令和2年8月から令和3年1月にかけて公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）によって実施され、同年10月に発掘調査報告書（東京都埋蔵文化財センター調査報告第364集）が刊行されている。

その後、残りの周知の埋蔵文化財包蔵地についても調査可能な範囲が確保できたことにより、改めて区教委による試掘が令和3年12月に実施され、1,363㎡が本調査の対象範囲となった。

これを受け、事業者である四建より令和4年3月7日付で東京都教育委員会（以下、都教委）に埋蔵文化財の取扱いに関する照会（3四建工一第218号）があり、都教委は同年3月8日付で第四建設事務所所長宛に、本調査は都教委が対応する旨の回答（3教委管第2902号）を通知している。本調査の実施については同日付で埋文センター所長宛に、埋蔵文化財調査の取扱いについての通知が送られ、埋文センターが調査を実施することとなった。

上記の手続きを経たのちに第2期の本調査実施の協議が進められ、令和4年3月30日付で建設局、都教委、埋文センターの3者による「補助第172号線（長崎）整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書その2」が締結された。調査委託については建設局（四建）と埋文センターとの間で、令和4年5月13日に委託契約が締結され、実施に向けての準備に着手した。

委託契約締結の後、埋文センターは令和4年5月30日付で株式会社ジオダイナミックと「豊島区长崎一丁目その2地区埋蔵文化財発掘調査工事」（4ス文事埋文第168号）の請負契約を締結し、現地での準備作業に着手した。

調査着手に先立ち、令和4年6月13日付で埋文センターは都教委宛に発掘届（4ス文事埋文第2138号）を提出し、令和4年7月13日付で都教委より発掘調査についての通知文（4教委管第1505号）を受けている。

これらの手続き及び準備作業が完了した令和4年7月20日より発掘調査を開始した。（西山）

### 2 調査の方法と経過

#### 1) 調査の方法

##### 発掘調査の方法（第2図）

（1）グリッドの設定：調査区全域に、令和2年度に行われた調査に準じて世界測地系の第IX系国土

座標基準点を利用した5×5mのグリッドを設定した。Y軸にアルファベットの大文字でA～Xまで、X軸に1～35までの名称を付番した。なお、Y軸の名称は第1期調査に準じているが、X軸の名称は第1期調査と異なっている。調査対象地は、第1期調査に準じてD～F区に大別し、調査状況に合わせてさらに細分した。

(2) 表土掘削・遺構確認：表土層および攪乱層の除去作業には、重機を用いた。各遺構面の構成層の掘り下げについては、人力による掘り下げ作業を行った。遺構面は2面を数え、それぞれの面で遺構確認作業を行った。最終的な確認面はソフトローム層上面で、E-2区・F-1区において旧石器時代の試掘坑を掘削し、ローム層の堆積状態を記録した。

(3) 遺構番号：遺構については、種別・時代にかかわらず連番で付番し「○号遺構」とした。近世以降の遺物が出土した攪乱は、原則として遺構として扱っている。ピットについては、連番で付番し豊島区の通例に従って「○p」とした。

(4) 遺構調査：検出された遺構は主軸方向・切り合い関係を考慮した上で、2分割・4分割をして掘り下げた。土層断面の観察・写真撮影・手作業による断面実測作業を行い完掘した後、さらに写真撮影・平面図の実測作業を行った。また、必要に応じてエレベーション図の作成を行った。なお、井戸については崩落の危険性を考慮して掘削を途中で中断し、その時点までの記録に留めたものがある。

(5) 遺構平面図の作成：遺構の測量図化作業については、トータルステーションシステムを用いた。エレベーション図については、トータルステーションシステムと手作業の実測作業を併用した。

(6) 遺物の取り上げ：遺構出土の遺物については、数量が多いため原則として一括して取り上げているが、出土遺物の少ない遺構ではトータルステーションシステムによる3次元位置の記録作業を行い、必要に応じて微細図を作成した。表土・攪乱出土の遺物は一括して取り上げ、包含層出土の遺物については、トータルステーションシステムによる3次元位置の記録作業と一括取り上げ作業を併用した。

(7) 写真の撮影：写真の撮影に関しては、デジタルカメラ・35mmモノクロ及びカラーリバーサルフィルムにより土層断面や遺構全景等の記録・図面にかかわる撮影を行った。また必要に応じてデジタルカメラによる3次元写真測量のための撮影を行った。遺物の写真撮影についてはデジタルカメラを使用した。写真の保存には、RAW形式とJPEG形式のファイルを作成した。35mmモノクロフィルムは現像した写真と共にアルバムに、カラーリバーサルフィルムはマウントしてスライドケースに収納した。記録類は区教委で保管している。

第1表 全体工程表

	令和4年												令和5年												令和6年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
着工																											
D-1区																											
D-2区																											
D-3区																											
D-4区																											
D-5区																											
E-1a区																											
E-1b区																											
E-2区																											
F-1区																											
F-2区																											
一次整理																											
二次整理																											
報告書編集・印刷																											

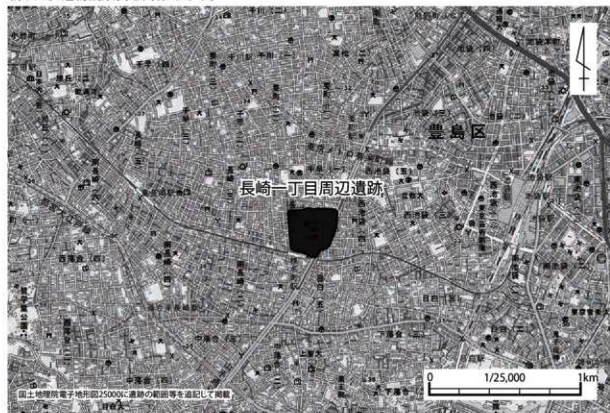
### 整理調査の方法

(1) 遺構図面整理：現場作成図面と遺構台帳の確認・整理を行った後、遺構の種類・遺存状態・出土遺物・年代等を勘案し、報告書に個別掲載するものを抽出した。個別報告の遺構に関しては、平面図・土層断面・土層説明・エレベーション図・写真を用意し、デジタルデータによる図版作成を行った。

(2) 遺物整理：出土遺物は水洗作業後注記作業を手書きで行ったが、一部の遺物についてはインクジェット式注記用機器を用いた作業を実施した。遺物の注記は、冒頭に補助第 172 号線（長崎）整備事業二期目の調査を表す「長 172 II」を記入し、その後に遺構・ピット番号・調査区（一括の場合）の別、さらに点上げの場合は点上げ番号を記入した。遺物は、遺構別に分けた後に材質別（陶器、磁器、土器、瓦、ガラス製品、骨角製品、骨、石器・石製品、木製品、金属製品、レンガ、電気製品）に分類した。掲載遺物の写真撮影および集合写真の撮影は株式会社ジオダイナミックが行った。

(3) 遺物の抽出：遺物の抽出については、復元率の高いもの、遺構の年代を判断する上で重要な物や希少性に富むものを基準とした。一括資料については、復元率の高いものや希少性が高いものを中心に掲載した。また、出土量の多い遺構や遺存度の高い遺物がまとまっている遺構、特徴的な遺物を伴う遺構については、遺物の集合写真を掲載した。

(4) 図版の掲載：遺構図版については種別ごとに番号順に図面を掲載し、個別図版を掲載しない遺構については全体図のみに掲載した。種別が異なる遺構が重複しレイアウト上一一括して掲載する必要がある場合は、先に掲載される遺構の側にまとめて掲載した。遺構観察表は番号順に掲載した。遺構写真については断面写真か完掘写真、もしくはその両方を掲載した。遺物図版は冒頭に中世以前の遺物を掲載し、近世以降の遺物は遺構出土遺物については遺構別に、一括遺物については調査区別に掲載した。遺物観察表も同様である。



第1図 遺跡の位置

## 2) 発掘調査の経過（第1表）

発掘調査は、令和4年7月から令和5年3月までの予定で開始した。四建・都教委・区教委、ならびに工事請負会社である株式会社ジオダイナミックとの事前協議、周辺住民への挨拶と「埋蔵文化財発掘調査のお知らせ」の配布を経て、7月より現地での調査事務所設置作業や仮設道路工等の準備工を開始した。

調査は令和4年7月20日にF-2区の掘削作業から開始した。前日までに地表面を被覆する舗装を切断・撤去し、2層と呼ばれる黒褐色土層（1面）までの表土を重機で掘削した。なおD-3～5区は調査区及び周辺のスペースが狭小なため人力で表土掘削を行った。遺構確認及び精査と包含層の調査は、人力で行った。1面の調査終了後、人力でソフトロー層上面（2面）までの掘削を行い、遺構確認及び精査を人力で行った。

発掘調査実施期間中には、四建・都教委・区教委・埋文センターによる定例会を月一度開催し、調査の進捗ならびに協議事項の確認を行った。また各区の終了時には、前記4者による終了確認作業を行い調査の完了書類を作成した。

以下、調査実施順に記載する。F-2区は令和4年7月20日より発掘調査を開始し、発生残土はF-1区に仮置きした。238.7㎡を調査して8月31日までに終了し、F-1区に仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した（終了確認日令和4年8月31日）。検出された遺構は、近代以降の溝状遺構・畝間溝・土坑・井戸・植栽痕等29基、ピット30基である。出土した遺物は、近代以降の瓦・陶器・磁器・金属製品・ガラス製品・レンガ等である。なお、F-2区南東角付近のネットフェンス外の範囲は、近接した調査範囲ではルーム層まで削平及び遺構・遺物の検出も乏しく、それと同様の遺存状況と考えられたため都教委によって調査不要と判断された。

D-4区は令和4年9月1日より発掘調査を開始し、発生残土は調査区の仮囲いの内側に仮置きした。39.8㎡を調査して9月29日までに終了し、仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した（終了確認日令和4年9月29日）。検出された遺構は近代以降のコンクリートブロック塀1基である。出土した遺物は近代以降の陶器・磁器・ガラス製品・瓦等である。

D-5区は令和4年9月1日より発掘調査を開始し、発生残土は調査区の仮囲いの内側に仮置きした。34㎡を調査して9月29日までに終了し、仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した（終了確認日令和4年9月29日）。検出された遺構は近代以降の溝状遺構の可能性のある遺構・植栽痕2基、ピット3基である。出土した遺物は近代以降の陶器・磁器・ガラス製品・瓦等である。

F-1区は令和4年9月6日より発掘調査を開始し、発生残土はF-2区に仮置きした。211.3㎡を調査して10月28日までに終了し、F-2区に仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した（終了確認日令和4年10月28日）。検出された遺構は近代以降の溝状遺構・畝間溝・土坑・井戸・植栽痕等31基、ピット71基である。出土した遺物は縄文時代の土器・石器、近代以降の陶器・磁器・金属製品・ガラス製品・レンガ・瓦等である。なお、F区北側のネットフェンス外の範囲は、範囲が狭小かつネットフェンス内の調査区から続く重要な遺構等が検出されなかったことから、都教委によって調査不要と判断された。

D-1区は令和4年10月11日より発掘調査を開始し、発生残土はE-1区に搬出し仮置きした。116.8㎡を調査して11月22日までに終了し、D-2区掘削の発生残土を用いて埋め戻した（終了確

認日令和4年11月22日)。検出された遺構は近世以降の溝状遺構・土坑・植栽痕等27基、ビット52基である。出土した遺物は縄文時代の土器、古代の土器、近世以降の陶器・磁器・金属製品・ガラス製品・レンガ・瓦等である。

D-3区は令和4年10月26日より発掘調査を開始し、発生残土は調査区の仮囲いの内側に仮置きした。37.6㎡を調査して11月22日までに終了し、仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した(終了確認日令和4年11月22日)。検出された遺構は時代不明のビット3基である。出土した遺物は近代以降の陶器・磁器・金属製品・ガラス製品等である。

E-2区は令和4年11月14日より発掘調査を開始し、発生残土はE-1区に仮置きした。306.567㎡を調査して令和5年1月30日までに終了し、仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した(終了確認日令和5年1月30日)。検出された遺構は近世以降の土坑・溝状遺構・植栽痕等28基、ビット71基である。出土した遺物は近世以降の陶器・磁器・金属製品・ガラス製品・レンガ・瓦等である。

D-2区は令和4年12月2日より発掘調査を開始し、発生残土はD-1区に埋め戻した。48.8㎡を調査して令和4年12月20日までに終了し、E-1区に仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した(終了確認日令和4年12月20日)。検出された遺構は近世以降の土坑・植栽痕等6基、ビット17基である。出土した遺物は近世以降の陶器・磁器・瓦・動物骨等である。

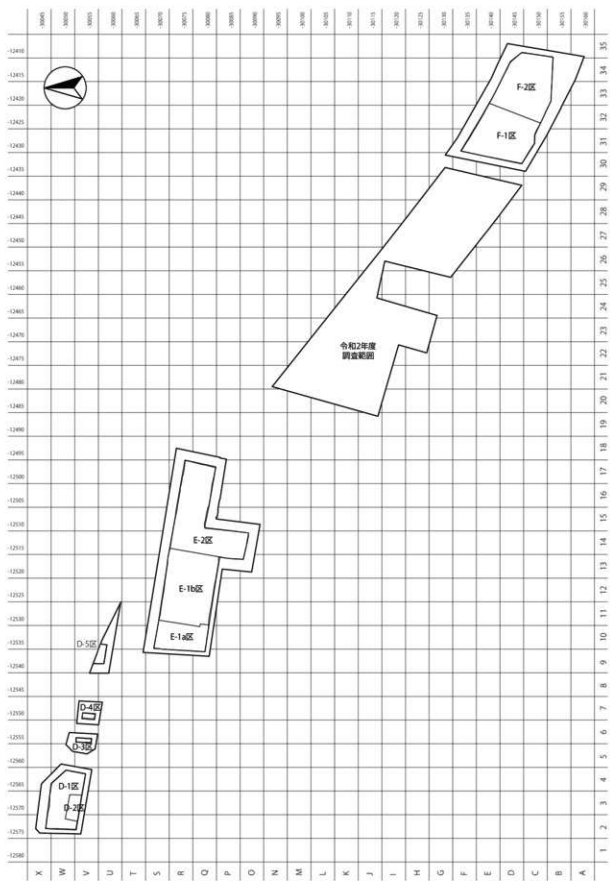
E-1区は令和5年2月7日より発掘調査を開始し、コンクリートブロック構造物(127号遺構)及びそれを破壊する大規模な擾乱を検出した。127号遺構及びその周囲の遺構を先行して調査するため、擾乱が127号遺構を切っているラインでE-1区をE-1a区・E-1b区に区分した。E-1a区の発生残土はE-2区に仮置きした。94.594㎡を調査して令和5年2月28日までに終了し、E-1b区と合わせてE-2区に仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した(終了確認日令和5年2月28日)。検出された遺構は近世以降の土坑・溝状遺構・植栽痕・コンクリートブロック構造物・井戸等9基、ビット24基である。出土した遺物は近世以降の陶器・磁器・瓦・金属製品・石製品等である。

E-1b区は令和5年2月9日より発掘調査を開始し、発生残土はE-2区に仮置きした。234.839㎡を調査して令和5年3月16日までに終了し、E-1a区と合わせてE-2区に仮置きしていた発生残土を用いて埋め戻した(終了確認日令和5年3月16日)。検出された遺構は近世以降の土坑・竅間溝・井戸等8基、ビット8基である。出土した遺物は近世以降の陶器・磁器・瓦・金属製品・ガラス製品等である。

上記の調査工程を完了したのち、令和5年4月5日までに全ての発掘作業を終了した。なお、全ての調査区において埋め戻し後に防塵舗装を復旧している。

### 3) 整理調査の経過

発掘調査と併行して、令和4年8月23日から令和5年3月31日まで遺物の水洗と注記を中心とする一次整理作業を現地長崎一丁目2分室で行った。令和5年4月1日～11月17日まで長崎一丁目2分室にて、報告書作成のための二次整理作業を行った。なお令和5年4月14日から19日にかけて、現地事務所を移転している。二次整理作業は、主に遺構図版の作成と遺物図版の作成、原稿執筆、およびこれに係る編集作業である。令和5年11月27日には、都教委を経由して区教委に遺物・記録図面等を移管した。令和5年11月21日より埋文センター本部事務所に報告書編集作業を実施した。(橋本)

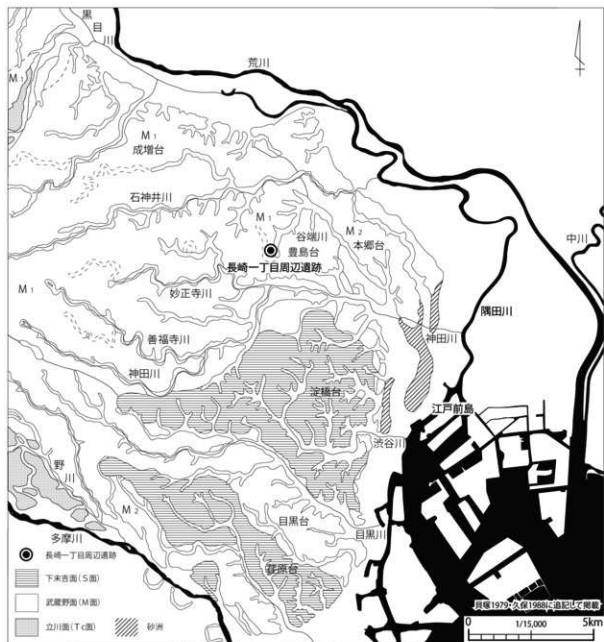


第2図 グリッド設定図 (1/800)

## II 遺跡の環境

## 1 地理的環境

長崎一丁目周辺遺跡は、武蔵野台地北東部にあたる石神井川と妙正寺川・神田川に挟まれた豊島台と呼ばれる台地上に位置しており（第3図）、調査地点付近の標高は32m前後を測る。本遺跡の西側には、豊島区要町に位置する粟島神社境内の弁天池を水源とする谷端川が南流している。谷端川は、西武池袋線椎名町駅付近で大きくU字を描き北上に転ずる。この屈曲部分に囲まれた半島状の台地の先端部分が、本遺跡の範囲にあたる。谷端川は現在暗渠化しており、かつては水量の少ない河川で



第3図 遺跡周辺の地形分布図 (1/15,000)

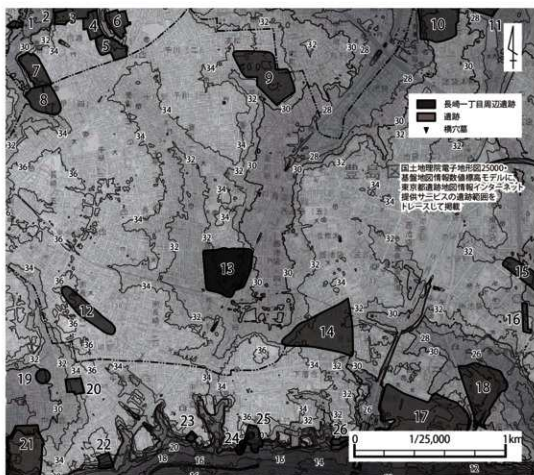
あったとみられる。谷端川の流量が増加するのは千川上水から分水を得た18世紀以降で、谷端川周辺の低地が水田として利用されていた時期には、これらの水田への農業用水の供給源として機能していたと考えられる(第67・68図)。

長崎地域は、中世には「長崎村」として成立していたことが知られている。第67・68図は幕末期の長崎村周辺を描いた鹿絵図の一部とみられ、土地利用の在り方や各ランドマーク間の距離、他村との境界などが記されている。現在と同じ位置に「金剛院」や「鎮守十羅刹(長崎神社)」が位置しているほか、徳川将軍家の御鷹場であった「鼠山」「御用地」の記述も見える。南側には「目白坂通往来道」が描かれ、これは近世に江戸と武蔵国多摩郡清戸を結んでいた清戸道にあたると考えられる。清戸道は、現文京区の江戸川橋付近を起点とし、目白坂を上って台地上に出たのが長崎村を通過して現清瀬市に至る道で、近郊農村から江戸への商品作物の輸送や、尾張藩主の鷹場への往来に使われていた(豊島区教育委員会2004『椎名町1』)。

## 2 歴史的環境

### 旧石器時代

谷端川沿いにおいては旧石器時代の遺跡は知られておらず、近隣で旧石器時代の遺物が出土している板橋区向原遺跡(5)は石神井川沿い、豊島区学習院大学周辺遺跡(17)、新宿区落合遺跡(21)は妙正寺川・神田川沿いに位置している。向原遺跡ではⅢ層で剥片や礫が集中する遺物ブロックが検



第4図 遺跡の位置と周辺の遺跡(1/25,000)





代から奈良時代に及ぶ複合遺跡であるが、弥生時代後期には竪穴建物跡や方形周溝墓が検出されており、拠点的な集落が形成されていたと考えられる。

#### 古墳時代～古代

落合遺跡では、古墳時代後期から奈良時代にかけて再び集落形成がなされ、出土した土師器に「落合型環」の型式名が付されている。長崎一丁目周辺遺跡(13)では、ほぼ同時代である古墳時代末から奈良時代初頭のカマドを伴う竪穴住居跡が1軒検出されており、律令国家形成期に短期間の人類活動が営まれた可能性が指摘されている。また、第1期調査では古代朝鮮の寺院の敷瓦である埴が出土しているが、これは後述する「長崎アトリエ村」に関連する遺物と考えられる。

#### 中世

長崎一丁目周辺遺跡では、中世後期の井戸や土坑が検出されており、これらは水場遺構として位置づけられている。16世紀には長崎をはじめとした豊島区の各地名が成立していることから、水利の不便さからこれまで人類活動が低調だった豊島台にこの時期から村落が定着し始めたと考えられる。また、中世の供養塔である板碑は、板碑の分布が薄い豊島区において、長崎地区に例外的に多数



現存することが知られている。

### 近世

先述の通り、長崎地域は中世に成立した長崎村として知られていた。長崎一丁目周辺遺跡では近世中期の溝状遺構や畑作関連以降の検出から、屋敷地の成立に伴って既存の遺構が廃絶し、集落の再編や畑地・区画の造成が一斉に行われた可能性が指摘されている。椎名町遺跡(12)では近世以降の区画溝や建物跡等が検出され、長崎村の一角に位置する椎名町の清戸道に面した路村としての土地利用の一端が明らかになっている。旧感応寺境内遺跡(14)では大名安藤家下屋敷や感応寺などの消長が近世以降の土地利用の変遷として把握されている。

### 近代以降

第1期の長崎一丁目周辺遺跡の調査では、「長崎アトリエ村」に関連すると考えられる遺物が数多く出土している。アトリエ村は、昭和初期から戦前期にかけて長崎・千早町・要町などに建てられたアトリエ付きの借家が集まる地域で、若手の芸術家などの活動や交流の場となったことで知られている。また、防空壕と考えられる遺構や統制陶器など第二次世界大戦期の遺構・遺物も数多く検出されている。(橋本)

第3表 長崎一丁目周辺遺跡調査履歴一覧表

No.	地区名	発掘調査者	調査報告	土器時代	縄文遺構及び出土遺物
1	区跡1-15-14地区	「長崎市本署」	試掘	古墳	縄文中期より最古の出土
2	ライオンシティ・横浜駅前地区(旧市・西海路4-40-17地区)「長崎市本署」	試掘	古墳	鉄	
3	エスピア2地区	本報告	試掘		
4	区跡1-27-1地区	本報告	試掘		
5	中江マンション地区	本報告	試掘	「古代」土器類	
6	新学芸住宅地区	本報告	試掘	古墳、銅製鏡、土坑 / 中世前期 瓦製瓦葺(古墳)かわらけ	
7	区跡1-13-12地区	「長崎市本署」	試掘	中世～近代 溝状遺構 / 中世前期 銅製鏡	
8	山手1丁目地区	「長崎市本署」	本調査	中世～近代 「古代」土器類(中世前期)坪井、ビット器 「近代」礎石遺構など	
9	区跡1-9-21地区	本報告	試掘		
10	ユアプロジェクト分譲住宅地区	本報告	古墳	方形土坑、銅製鏡、溝状遺構(古墳)陶磁器	
11	区跡1-5-13地区	本報告	試掘		
12	一ツ宮公園より南地区	本報告	試掘		
13	区跡1-17-16地区	「長崎県文化財調査センター」	本調査	古墳	銅製鏡、溝状遺構、瓦方形土坑(「古代」土器)陶磁器
14	西海路4-38-7地区	本報告	試掘		
15	グランフォース内海産地区(旧市:ホンタメリカ地区)	「長崎市本署」	本調査	古墳～近代 溝、銅製鏡、坪井 / 「古代」土器 「近代」瓦葺	
16	区跡1-2-10地区	本報告	試掘		
17	福栄駅前地区	「長崎市本署」	本調査	古墳～中世 溝状遺構 / 「古代」土器類、鉄製器	
18	区跡1-15-6地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳以降 溝状遺構 / 「古代」土器	
19	区跡1-28-3地区	本報告	試掘	古墳以降 溝状遺構 / 「古代」瓦	
20	区跡1-11-7地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	近代以降 溝状遺構、溝状遺構(「古代」礎石)	
21	東久保駅前1丁目地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳～近代 ビット器、銅製鏡、瓦方形土坑 / 古墳～近代 陶磁器、土器	
22	ドミールスクラ地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳～近代 坪井、ビット器	
23	オープンハウスヴィンセントポイント5分譲住宅地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	近代 「古代」土器類(古墳～近代)陶磁器、土器	
24	区跡1-18-19地区	本報告	試掘	古墳～近代 銅製鏡、礎石遺構 / 「古代」土器類 「近代」陶磁器(「近代」陶磁器)	
25	幸徳駅前地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 坪井 / 「古代」土器類、土坑、金製銅器	
26	区跡1-17-3地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 銅製鏡 / 「古代」土器 「近代」陶磁器、瓦葺	
27	区跡1-28-2地区	本報告	試掘	古墳～近代 「古代」礎石	
28	区跡1-6-6地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳～古墳 土坑、銅製鏡 / 「古代」土器 「近代」陶磁器	
29	区跡1-12地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	礎石～近代 溝状遺構 / 「古代」土器類 「近代」陶磁器	
30	区跡1-18-19地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	中世～近代 中世前期 / 中世 陶磁器(古墳)陶磁器、土器 「近代」セラミック製品	
31	区跡1-10-22地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 溝状遺構 / 「古代」土器	
32	区跡1-6-4地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	近代 「古代」陶磁器、金製銅器	
33	区跡1-28-6地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 中世前期 / 中世 銅製鏡(古墳)陶磁器、土器 「近代」陶磁器	
34	区跡1-9地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 溝状遺構 / 「近代」礎石 「近代」陶磁器、土器、セラミック製品	
35	区跡1-12地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	瓦葺瓦し 溝状遺構	
36	区跡1-14-2地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 坪井 / 溝状遺構、溝状遺構 / 「近代」礎石	
37	区跡1-14-14地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 溝状遺構 / 「古代」陶磁器、土器、セラミック製品	
38	福崎1丁目1号(長崎)警察官舎	「長崎」(日清)本署	本調査	中世～近代 溝状遺構、土坑 / 「古代」土器 「近代」陶磁器等 「近代」陶磁器等	
39	区跡1-15-9地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 溝状遺構 / 「近代」陶磁器、土器、金製銅器 「近代」礎石、土器	
40	区跡1-15-14地区	「長崎県文化財調査センター」	試掘	古墳 中世前期 / 「近代」陶磁器、土器	
41	福崎1丁目1号(長崎)警察官舎	本署	本調査	古墳～近代 溝状遺構、土坑 / 「近代」陶磁器等 「近代」陶磁器等	

### Ⅲ 層序

#### 調査区層序断面図（第6～9、10～13図）

第6図にはD区、第7図にはE区、第9図にはF区の層序断面図を掲載した。E・2・F・1区では旧石器時代の遺物の存否確認と土層堆積を観察するため、深い遺構や攪乱を利用して旧石器時代調査坑を掘削し、層序断面の記録を行った。

調査区は、多くの範囲でローム層まで攪乱が及んでいる。特にD・3・4区やE・2区の北半は地表面から1m前後の深度まで攪乱されており、遺構・遺物の検出も乏しかった。各調査区では、表土である1層の下に均質で混入物の少ない黒褐色土層（2層）が部分的に確認されている。また、ソフトローム層（Ⅲ層）直上の漸移層であるⅡd層も、攪乱のため確認された範囲は限られている。以下、各層位の特徴について記述する。

#### 1層

1層はアスファルト・砕石を除去した後に現れる表土層である。礫・レンガ片・コンクリート片・ロームブロックなどを多量に含み、近現代の攪乱層と考えられる。

#### 2層

2層は表土とローム層の間に位置する黒褐色土を基調とする土層である。D・E・F全ての調査区で、攪乱が深くまで及んでいない範囲で部分的に2層が確認されていることから、ローム層に及ぶ攪乱を受ける以前は調査区の全域に2層が堆積していた可能性が考えられる。上部はより暗色で混入物が少ないのに対し、下部はローム粒・ブロックをより多く含み明色である。2層上面で畝間溝が確認できることから、盛土・耕作土と考えられる。

#### Ⅲ層

Ⅲ層はソフトローム層である。E・2区では遺存状況が悪く区分できなかったが、F・1区では締りや混入物で2層に区分された。Ⅳ層との境は波状を呈するが、E・2区では北東に向かって緩やかに傾斜している。

#### Ⅳ層

Ⅳ層はハードローム層である。E・2区では締りや混入物によって2層に区分され、北に向かってわずかに傾斜している。

#### V層

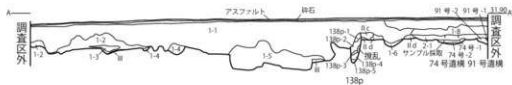
V層は第一黒色帯である。Ⅳ・Ⅵ層と比較して土色はわずかに暗い程度で、混入物も大差はない。

#### Ⅵ層

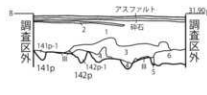
Ⅵ層はATを含むハードローム層である。上下の層との層界はほぼ平坦である。

#### Ⅶ層

Ⅶ層は第二黒色帯である。今回の調査の旧石器時代調査坑ではⅦ層まで確認したが、旧石器時代に帰属する遺物は出土しなかった。(橋本)



- D区基礎
- 1-1 10YR5/2 黒褐色土層 黏性中強、締り中強、径10-30mmの礫10%、径100mmのコンクリート片5%、径1-4mmのローム土層3%、径10-20mmの白磁石3%、径20-50mmのガラス片1%を含む。
  - 1-2 10YR2/3 黒褐色土層 黏性強、締り強、径1-4mmのローム土層5%、径5-10mmのロームフラック5%、径2-3mmの炭化灰3%、径3-40mmの礫3%を含む。
  - 1-3 10YR5/2 黒褐色土層 黏性中強、締り中強、径1-2mmのローム土層10%、径2-3mmの礫5%を含む。
  - 1-4 10YR5/2 黒褐色土層 黏性強、締り強、径1mm以下のローム土層10%、径5-10mmの礫10%、径5-20mmのロームフラック5%、径10-20mmの白磁石1%を含む。
  - 1-5 10YR5/4 暗褐色土層 黏性強、締り強の強い、径1-2mmのローム土層12%、径5-40mmのロームフラック10%、径2-20mmの礫10%、径1-10mmの炭化灰3%、径1-2mmの白磁石3%、径30mmの瓦片1%を含む。
  - 1-6 10YR5/2 黒褐色土層 黏性強、締り強の強い、径2-4mmの炭化灰3%、径2-3mmのローム土層2%、径10mmのロームフラック1%、径5mmの礫1%を含む。
  - 2 10YR5/2 黒褐色土層 黏性中強、締り中強、径1mm以下のローム土層10%、径5-20mmのロームフラック5%を含む。
  - 3 10YR5/3 暗褐色土層 黏性強、締り強、黒褐色土3%、径1-2mmのローム土層3%を含む。
  - 4 10YR5/4 暗褐色土層 黏性強、締り強、黒褐色土5%、径1-2mmのローム土層3%を含む。
  - 5 10YR5/6 暗褐色土層 黏性強、締り強、径1-2mmのローム土層5%、径5-10mmのロームフラック3%、黒褐色土3%、炭化灰3%を含む。



- D区基礎
- 1 10YR5/2 黒褐色土層 黏性強、締り中強、径10-100mmのコンクリート片15%、径10%、径2-3mmのローム土層5%、径10-20mmの白磁石3%、径20-50mmのガラス片1%を含む。
  - 2 黒褐色土層 黏性強、締り強の強い、径10-20mmの礫20%を含む。
  - 3 10YR5/3 暗褐色土層 黏性中強、締り中強、径1-2mmのローム土層10%、径10%、径5-10mmのロームフラック5%、径5-10mmの炭化灰1%を含む。
  - 4 10YR5/6 暗褐色土層 黏性強、締り中強、黒褐色土20%、径30mmの礫1%、径20mmのコンクリート片1%を含む。
  - 5 10YR2/2 黒褐色土層 黏性強、締り強、径1mm以下のローム土層3%を含む。
  - 6 10YR5/4 暗褐色土層 黏性強、締り強、径1mm以下のローム土層3%を含む、黒褐色土3%、炭化灰3%を含む。
  - 7 10YR5/6 暗褐色土層 黏性強、締り強、径1-2mmのローム土層5%、径5-10mmのロームフラック3%、黒褐色土3%、炭化灰3%を含む。



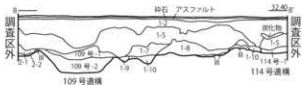
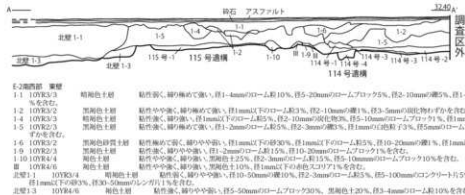
- D区基礎
- 1 10YR5/2 黒褐色土層 黏性強、締り強の強い、径10-100mmのコンクリート片15%、径10%、径2-3mmのローム土層5%、径10-20mmの白磁石3%、径20-50mmのガラス片1%を含む。
  - 2 10YR5/6 暗褐色土層 黏性強、締り強の強い、径10-20mmの礫20%を含む。
  - 3 10YR5/3 暗褐色土層 黏性中強、締り中強、径1-2mmのローム土層10%、径10%、径5-10mmのロームフラック5%、径5-10mmの炭化灰1%を含む。
  - 4 10YR5/6 暗褐色土層 黏性強、締り中強、黒褐色土20%、径30mmの礫1%、径20mmのコンクリート片1%を含む。
  - 5 10YR2/2 黒褐色土層 黏性強、締り強、径1mm以下のローム土層3%を含む。
  - 6 10YR5/4 暗褐色土層 黏性強、締り強、径1mm以下のローム土層3%を含む、黒褐色土3%、炭化灰3%を含む。
  - 7 10YR5/6 暗褐色土層 黏性強、締り強、径1-2mmのローム土層5%、径5-10mmのロームフラック3%、黒褐色土3%、炭化灰3%を含む。



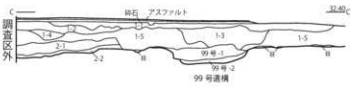
- D区基礎
- 1 10YR5/7/1 黒褐色土層 黏性強、締り強の強い、径2-3mmの礫10%、径1mm以下のローム土層5%、径1-3mmのローム土層3%を含む。
  - 2 10YR5/3 暗褐色土層 黏性中強、締り強の強い、径1-2mmのローム土層10%、径2-5mmの炭化灰10%、径2-4mmの礫5%を含む。
  - 3 10YR5/3 暗褐色土層 黏性中強、締り強の強い、径1mm以下のローム土層15%、径10-20mmの白磁石10%を含む。
  - 4 10YR5/3 暗褐色土層 黏性強、締り中強、径1mm以下のローム土層10%、径5-10mmの炭化灰10%、径2-4mmの礫10%、径20mmのコンクリート片5%を含む。
  - 5 10YR5/3 暗褐色土層 黏性強、締り強、径10-100mmのコンクリート片10%、径1-2mmのローム土層5%、径2-3mmの炭化灰1%を含む。
  - 6 10YR5/1 黒褐色土層 黏性中強、締り強、径1mm以下のローム土層10%、黒褐色土5%、径3mmのロームフラック3%を含む。



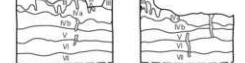
第6図 D区基本層序 (1/80)



- E-2 地層部 基礎**
- 1.1 109K3.3 褐色色土層 粘性強く、締り極めて強い、径1-4mmの砂と粗10%、径5-20mmの砂と粗10%、径2-10mmの礫2%、径1-2mmの砂2%、径1-2mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.2 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗3%、径2-10mmの礫1%、径3-5mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.3 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗5%、径2-10mmの礫2%、径5-10mmの砂と粗10%、径1mm以下の炭化物わずかなを含む。
  - 1.4 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗5%、径2-3mmの礫3%、径1mm以下の砂と粗3%、径5mmの砂と粗10%、径2-10mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.5 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗5%、径2-3mmの礫3%、径1mm以下の砂と粗3%、径5mmの砂と粗10%、径2-10mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.6 109K3.2 黒褐色砂質土層 粘性極めて強く、締り中強、径1mm以下の砂と粗30%、径1mm以下の砂と粗5%、径10-20mmの礫1%、径1mm以下の炭化物わずかなを含む。
  - 1.7 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗5%、径10-20mmの礫1%、径10-20mmの砂と粗10%、径10-20mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.8 109K3.4 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗15%、径10-20mmの礫1%、径10-20mmの砂と粗10%を含む。
  - 1.9 109K3.4 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗20%、径2-3mmの礫3%、径5mmの砂と粗10%、径2-10mmの炭化物わずかなを含む。
  - 2.0 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗5%、径2-3mmの礫3%、径1mm以下の砂と粗3%、径5mmの砂と粗10%、径2-10mmの炭化物わずかなを含む。
  - 2.1 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗5%、径2-20mmの砂と粗10%、径2-20mmの礫1%を含む。
  - 2.2 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗15%、径5-10mmの砂と粗10%、径5-10mmの礫1%を含む。
  - 2.3 109K3.4 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗15%、径5-10mmの砂と粗10%、径5-10mmの礫1%を含む。

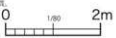


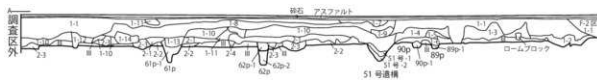
- E-2 地層部 基礎**
- 1.1 109K3.3 褐色色土層 粘性強く、締り極めて強い、径1-4mmの砂と粗10%、径5-20mmの砂と粗10%、径2-10mmの礫2%、径1-2mmの砂2%、径1-2mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.2 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗3%、径2-10mmの礫1%、径3-5mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.3 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗5%、径2-10mmの礫2%、径5-10mmの砂と粗10%、径1mm以下の炭化物わずかなを含む。
  - 1.4 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗5%、径2-3mmの礫3%、径1mm以下の砂と粗3%、径5mmの砂と粗10%、径2-10mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.5 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗5%、径2-3mmの礫3%、径1mm以下の砂と粗3%、径5mmの砂と粗10%、径2-10mmの炭化物わずかなを含む。
  - 1.6 109K3.2 黒褐色砂質土層 粘性極めて強く、締り中強、径1mm以下の砂と粗30%、径1mm以下の砂と粗5%、径10-20mmの礫1%、径1mm以下の炭化物わずかなを含む。
  - 1.7 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-4mmの砂と粗15%、径10-40mmの砂と粗10%、径10-40mmの礫1%を含む。
  - 1.8 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-3mmの砂と粗10%、径10-20mmの礫1%を含む。
  - 1.9 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗15%、径10-20mmの礫1%、径10-20mmの砂と粗10%を含む。
  - 1.10 109K3.4 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗20%、径2-3mmの礫3%、径5mmの砂と粗10%、径2-10mmの炭化物わずかなを含む。
  - 2.1 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗5%、径2-20mmの砂と粗10%、径2-20mmの礫1%を含む。
  - 2.2 109K3.3 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗15%、径5-10mmの砂と粗10%、径5-10mmの礫1%を含む。
  - 2.3 109K3.4 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗15%、径5-10mmの砂と粗10%、径5-10mmの礫1%を含む。



- E-2 区画石礫層時代調査層部・基礎**
- 1.1 109K3.6 褐色土層 粘性中強、締り中強、径1-2mmの砂と粗3%、径2-4mmの礫1%を含む。
  - 1.2 109K3.6 褐色土層 粘性中強、締り中強、径2-20mmの砂と粗3%、径2-4mmの礫1%を含む。
  - 1.3 109K3.6 褐色土層 粘性中強、締り中強、径2-20mmの砂と粗5%、径2-4mmの礫1%を含む。
  - 1.4 109K3.6 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗5%、径2-10mmの礫2%、径10-30mmの砂と粗10%、径1-3mmの炭化物2%、径1-3mmの黒色土2%、径1-3mmの礫1%を含む。
  - 1.5 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1-2mmの砂と粗5%、径2-3mmの礫3%、径1mm以下の砂と粗3%、径5mmの砂と粗10%、径2-10mmの炭化物わずかなを含む。
  - 2.1 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗5%、径2-20mmの砂と粗10%、径2-20mmの礫1%を含む。
  - 2.2 109K3.2 褐色色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗15%、径5-10mmの砂と粗10%、径5-10mmの礫1%を含む。
  - 2.3 109K3.6 褐色土層 粘性中強、締り極めて強い、径1mm以下の砂と粗1%を含む。

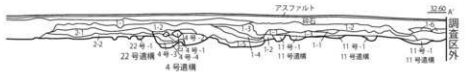
第7図 E区基本層序 (1/80)





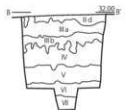
F-区土層

- 1.1 10YR2/3 粘粉色土層 粘り極めて強く、締り強い、団1-4mm以下、土粒10%、団10-100mmのコンクリート片10%、団10-30mmのロームブロック5%、団5-30mmの礫3%、団1mm以下の白色砂り3%、団5mmの炭化物わずかなを含む。
- 1.2 10YR2/3 粘粉色土層 粘り強く、締りやや強い、団1mm以下の中粒15%、団5-50mmのロームブロック5%、団10-20mmのコンクリート片3%、団3-4mmの礫1%を含む。
- 1.3 10YR2/3 粘粉色土層 粘り強く、締り強い、団1-2mm以下、土粒5%、団10mmのロームブロック5%、団10mmの炭化物1%、団2-3mmの礫1%を含む。
- 1.4 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締り極めて強い、団2-3mm以下、土粒10%、団10mmのロームブロック5%、団1mm以下の礫1%を含む。
- 1.5 10YR2/3 粘粉色土層 粘り強く、締り強い、団1-2mm以下、土粒15%、団5-30mmのロームブロック10%を含む。
- 1.6 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締りやや強い、団1-2mm以下、土粒10%、団5-10mmのロームブロック5%、団1-2mmの炭化物5%を含む。層4(層7)を受けた土層か。
- 1.7 10YR2/3 粘粉色土層 粘り強く、締り極めて強い、団5-10mmの礫10%、団10-20mmのコンクリート片40%、団1-2mmの土粒10%、団1-10mmの炭化物5%を含む。
- 1.8 10YR2/3 粘粉色土層 粘り強く、締り極めて強い、団3-10mmの礫15%、団1mm以下の中粒10%、団5-10mmのロームブロック5%、団1-2mmの炭化物3%を含む。
- 1.9 10YR2/3 粘粉色土層 粘り極めて強く、締り極めて強い、団10-30mmの礫40%、団1-2mmの土粒10%、団5-10mmの礫10%、団1mmの炭化物わずかなを含む。
- 1.10 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締り強い、団1mm以下の中粒3%、団5-10mmの礫3%を含む。
- 1.11 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締りやや強い、団1mm以下の中粒5%、団1mm以下の礫1%を含む。層4(層7)の礫を受けた10層。
- 1.12 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締りやや強い、団1mm以下の中粒5%、団5-10mmの礫3%、団1mm以下の礫1%を含む。
- 1.13 10YR2/2 粘粉色土層 粘りやや強く、締りやや強い、団1mm以下の中粒5%、団5-10mmの礫5%、団1-2mmの炭化物5%、団1mm以下の礫1%を含む。
- 1.14 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締りやや強い、団1mm以下の中粒5%、団5-10mmの礫3%、団1mm以下の礫1%、団10mmのレンガ片1%を含む。
- 1.15 7.5Y5/5 粘粉色土層 粘り極めて強く、締り極めて強い、黒褐色土20%、団5-20mmの礫10%を含む。
- 2.1 10YR2/2 粘粉色土層 粘りやや強く、締り強い、団1-2mm以下、土粒5%を含む。
- 2.2 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締り強い、団1-2mm以下、土粒10%、黒褐色土10%、団5-10mmのロームブロック5%を含む。層6(層7)。
- 2.3 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締り強い、団1mm以下の中粒25%、黒褐色土15%、団5-10mmのロームブロック5%を含む。
- 2.4 10YR2/3 粘粉色土層 粘りやや強く、締りやや強い、団1mm以下の中粒15%、団10mmのロームブロック10%を含む。層6。
- 2.5 10YR2/4 粘粉色土層 粘り強く、締りやや強い、黒褐色土10%、団1mm以下の中粒3%を含む。



F-区土層

- 1.1 10YR2/4 粘粉色土層 粘性やや強く、締り強い、団10-20mmの礫20%、団3-5mmのローム礫10%、団10%、団20-30mmのロームブロック5%、団40-50mmのレンガ片1%を含む。
- 1.2 10YR2/3 粘粉色土層 粘性強く、締り強い、団1mm以下の中粒20%、団5%、団1mmの礫1%を含む。
- 1.3 10YR2/4 粘粉色土層 粘性強く、締り強い、団10-50mmのコンクリート片50%、団1-2mmの土粒10%、団1mm以下の白色砂り1%を含む。
- 1.4 10YR2/3 粘粉色土層 粘性やや強く、締り強い、団1-5mmのローム礫10%、団2-3mmのコンクリート片10%、団1mm以下の白色砂り10%、団10-10mmの礫3%、団20mmのレンガ片1%を含む。
- 1.5 10YR2/3 粘粉色土層 粘性やや強く、締りやや強い、団10mmのコンクリート片20%、団2-3mmのコンクリート片20%、団1-2mmの礫10%、団1-2mmの炭化物3%、団1-2mmのレンガ片1%を含む。
- 1.6 10YR2/4 粘粉色土層 粘性やや強く、締り極めて強い、団5-10mmのコンクリート片20%、団2-3mmのコンクリート片10%、団5-10mmの礫10%、団2-3mmの炭化物5%、団1-2mmのレンガ片1%を含む。
- 1.7 10YR2/4 粘粉色土層 粘性強く、締り極めて強い、団1-2mmのコンクリート片20%、団1-2mmの炭化物5%、団1mm以下の礫1%を含む。
- 2.1 10YR2/3 粘粉色土層 粘性やや強く、締りやや強い、団5-10mmのコンクリート片20%、団1mm以下の中粒10%、黒褐色土10%を含む。
- 2.2 10YR2/2 粘粉色土層 粘性やや強く、締りやや強い、団10-20mmのコンクリート片10%、団1mm以下の中粒5%を含む。
- 2.3 10YR2/4 粘粉色土層 粘性やや強く、締りやや強い、団10-30mmのコンクリート片30%、団1mm以下の中粒10%を含む。



F-区旧石器時代調査結果

- II 10YR2/4 粘粉色土層 粘性強く、締り強い、黒褐色土5%を含む。
- III 10YR2/4 粘粉色土層 粘性強く、締り強い、黒褐色土3%、団1mmの赤色スチアツブ3%を含む。均質シムル。
- IV 10YR2/4 粘粉色土層 粘性強く、締りやや強い、団10-30mmのコンクリートブロック5%、黒褐色土5%、黒色スチアツブ2%、赤色スチアツブ1%を含む。古礫の粗粒部を呈する。II層以上に比べてやや小さい10-15mmの平頭型ブロックを含む。
- V 10YR2/4 粘粉色土層 粘性極めて強く、締り極めて強い、黒褐色土5%、団1-2mmの黒色スチアツブ3%、団1mm以下の赤色スチアツブ2%を含む。
- VI 10YR2/4 粘粉色土層 粘性極めて強く、締り極めて強い、黒褐色土5%、団1-2mmの黒色スチアツブ3%、団1mm以下の赤色スチアツブ3%、団1mmの褐色スチアツブ1%を含む。
- VII 10YR2/4 粘粉色土層 粘性極めて強く、締り極めて強い、団1mmの黒色スチアツブ3%、団1mm以下の赤色スチアツブ2%、団1mm以下の褐色スチアツブ1%を含む。



第8図 F区基本層序(1/80)

## IV 遺構と遺物

### 1 中世以前の遺構・遺物（第45図、第8表）

中世以前の遺構・遺物の検出は乏しい。土坑の中には、覆土の観察から縄文時代など古い時代の遺構である可能性が考えられるものもあるが、いずれも遺物を伴わなかったためそれらの帰属時期は確定できていない。遺物は縄文土器の小片が主で、接合するものはない。いずれも近世以降の遺構の覆土に混入する形で出土した。第45図1は燃糸文系、2～4は条痕文系、5は諸磯a式と考えられる。

### 2 近世以降の遺構・遺物

遺物が出土しない遺構や、後世の攪乱により近世と近代以降の遺物が共存して出土する遺構が多いため、本報告書では近世と近代以降の遺構・遺物を一括して扱う。近現代の中形碗の分類は長佐古(2007)に基づき観察表に記載した。

#### 1) 遺構

##### A 溝状遺構

##### 18・45号遺構（第14図、第4表）

2面（ルーム面）上で検出された、F区を東西に貫く浅い溝状遺構である。18号遺構はF区の東西の調査区外に、45号遺構はF区の西側の調査区外にそれぞれ延びる。第1期調査においてC-2区南東端で検出された4・11号遺構（溝状遺構）は、方位や深度等から同一の遺構であろうか。45号遺構はF-1・2区の境界付近で深度が浅くなり、F-2区では検出されなかった。両遺構の境界は明瞭ではないが、45号遺構が18号遺構を切る。他の遺構との切り合いでは、44p・52p・54p・56p・70pを切り、55p・67～69p・78～84p・86p・87p・94p・95pを切る可能性がある。また6・40号遺構・12p・24p・41p・50p・57p・58p・59pに切られ、37p・39p・40p・43pに切られる可能性がある。16p・27～29p・74p・76p・91～93p・97pとは前後関係が不明である。帰属時期は、40号遺構から代用陶器が出土しているため第二次世界大戦期以前と考えられる。

##### 36号遺構（第15図、第4表）

溝状遺構の可能性のある遺構である。大半が調査区外に位置するため全容は定かではないが、調査区東壁で緩やかな立ち上がりが確認される。35号遺構（植栽痕）に切られる。

##### 74号遺構（第15図、第4表）

2面で検出された南北方向の浅い溝状遺構である。調査区外に延びる北半が段状に低くなっているほか、南半も遺構中央部が溝状にやや低くなる。75号遺構との前後関係は不明だが、68号遺構（植栽痕）には切られているか。覆土は2層に分けられ、2層は段状に下がった北半のみで確認される。

##### 77号遺構（第15図、第4表）

東西方向の溝状遺構で、他の溝状遺構と比較して深度が深く、断面は三角形を呈する。調査区の際から約2.8mの位置で南側にほぼ直角に屈曲し、65号遺構に切られる。近世の陶磁器の碗や皿、瓦質の焙烙などが出土している。



## 78号遺構（第15図、第4表）

77号遺構と同様の東西方向の溝状遺構と思われるが、攪乱に切られ本来の平面形は詳らかではない。近世の陶器の皿が出土している。

## 88号遺構（第16図、第4表）

74号遺構に平行するように南北に走る浅い溝状遺構である。18世紀代に属する陶器の播鉢や碗、徳利などが出土している。土壌のテフラ分析では、87号遺構と共に74号遺構と同様の結果が示されている（第V章第2節）。

## 114・115号遺構（第16図、第4表）

南北方向の浅い溝状遺構である。調査区の際にかかり本来の幅は詳らかではない。114号遺構は南側の調査区外に延び、北端が浅い土坑状に落ち込む。磁器の皿や瓦質土器などが出土し、近世に帰属する可能性がある。両遺構共に直上に2層が確認されず、表土掘削後のローム面上で検出されているため、削平によって遺構の上位部分を失っているものとみられる。

## B 土坑

## 2号遺構（第17図、第4表）

平面形がほぼ正方形を呈し、一辺や深度が1mを超える大型の土坑である。壁面は比較的丁寧整形され平坦だが、底面は工具痕とみられる凹凸が多数みられ、起伏が著しい。北壁上部には開口部の幅約20cm、高さ約15cm、奥行き約10cmのくぼみがあり、昇降時の足かけであろうか。2号遺構の覆土からは多数の遺物が出土しているが、主体となるのはガラス製品で、完形や復元率の高いガラス瓶が多数出土しているのが特徴的である。遺物は近代以降の幅の広い時代に帰属し、特定のタイミングで一括して廃棄されたものと考えられる。

## 6号遺構（第17図、第4表）

長方形の土坑で、18号遺構（溝状遺構）を切る。磁器製の湯たんぼが出土している。

## 8号遺構（第17図、第4表）

楕円形の土坑である。鉄製の蹄鉄や引手が出土している。

## 9号遺構（第17図、第4表）

平面形が円形を呈する土坑である。堆朱風の火鉢や七輪の破片が多数出土した。覆土は単層で、遺物の復元率も高いことから一括して廃棄された可能性が高い。

## 10号遺構（第17図、第4表）

平面形が長方形を呈する土坑である。割れた瓦やガラス片など多量の遺物が出土した。覆土は焼土粒を含み、多くの遺物が被熱していることから近代の火事後の片づけ遺構であろう。

## 14号遺構（第18図、第4表）

常滑製の甕が斜位で出土した土坑である。遺構の周囲は著しく攪乱され、甕も上半を壊されていることから、本来の位置を保っていない可能性が高い。復元された甕の口縁部にはモルタルが付着していることから、便槽である可能性がある。

## 17号遺構（第18図、第4表）

一部が突出した長方形を呈する土坑で、西壁はオーバーハングする。床面に極めて硬い範囲がある。覆土に焼土粒を含み、遺物も被熱していることから火事後の片づけ遺構であろう。

31号遺構（第18図、第4表）

円形の土坑である。磁器の碗の他、電気製品が多く出土している。

32号遺構（第18図、第4表）

方形の土坑で、底面のビット状の落ち込みは、32号遺構構築前に存在したビットの底部の可能性がある。覆土は単層で焼土粒を含み、遺物も被熱していることから近代の火事後の片づけ遺構であろう。

33号遺構（第19図、第4表）

不整楕円形の土坑で、西側が段状を呈し北側の壁面がオーバーハングする。近代の廃棄土坑か。

34号遺構（第19図、第4表）

方形の土坑で、底面にビット状の落ち込みがみられる。覆土は単層で焼土粒を含み、遺物も被熱していることから近代の火事後の片づけ遺構であろう。

40号遺構（第19図、第4表）

長方形の土坑で、底面に溝状の落ち込みがみられる。近代の廃棄土坑と考えられる。

44号遺構（第19図、第4表）

不整形の土坑で、瓦質土器の植木鉢が出土している。

52～56号遺構（第20図、第4表）

方形の土坑群である。当初単一の遺構として調査したため前後関係は詳らかではないが、覆土及び出土遺物の様相は共通している。覆土は単層で焼土粒を含み、遺物も被熱していることから近代の火事後の片づけ遺構であろう。

80号土坑（第21図、第4表）

大型の土坑と思われるが、調査区際に位置し平面形は不明である。覆土は東から西に向かって傾斜して堆積しており、79号遺構（植栽痕）を切る。79号遺構と共に陶磁器の碗や皿など多数の遺物が出土しているが、遺物の年代の下限は79号遺構が18世紀後半、80号遺構が17世紀後半となっている。

90・94・108・144号遺構（第22図、第4表）

土層断面の観察から、94→144→108→90の順に土坑が複数重複しているとみられる。

97・107号遺構（第22図、第4表）

97号遺構は長方形を呈するが、南側は攪乱に切られている。底面が一部方形に落ち込んでいる。107号遺構は97号と覆土が相似している。

98号遺構（第22図、第4表）

深度約1mに迫る大型の土坑である。調査区外に延びるため遺構全体の平面形は不明だが、調査区内では隅丸方形を呈する。覆土中位～下位からウマが出土した。遺存状態が悪く、原形をとどめない四肢骨などが多かったが、ウマの上顎骨・下顎骨・中足骨・距骨などが同定されている。上顎歯・下顎歯は比較的遺存状態が良い。これらは解剖学的位置を保っていた同一個体のウマの骨と考えられ、調査区外に残りの部位の骨が存在する可能性が高い。第59図2は動物骨とほぼ同じ標高から出土しており、その帰属時期から遺構の上限年代は幕末であると考えられる。

99号遺構（第23図、第4表）

大半が調査区外に位置する土坑である。底面には複数の小規模なビットが散発的に位置している。

102号遺構（第23図、第4表）

中央部が落ち込み、段状を呈する土坑である。第 59 図 3 は覆土中位から出土した。

104号遺構（第 23 図、第 4 表）

不整形の土坑で、中央部底面にはバックホーの爪跡が残る。近代の廃棄土坑とみられ、陶磁器や瓦片などが出土している。

105号遺構（第 24 図、第 4 表）

不整形の土坑で、中央部が長方形に落ち込む。落ち込みの底面には周縁付近に小規模なピットが分布している。近代の廃棄土坑とみられ、陶磁器や土管、ガラス製品などが出土している。第 59 図 4 は落ち込み部分の覆土から出土した。

109号遺構（第 23 図、第 4 表）

大半が調査区外に位置するが、121 号遺構と認識した落ち込みよりさらに深くなると思われたため、別遺構とした土坑である。磁器が出土したが帰属時期は不明である。

110号遺構（第 24 図、第 4 表）

一部を攪乱に切られた不整形の土坑である。陶磁器の碗や土器の土鍋、泥面子（第 59 図 5～7）などが出土し、19 世紀から幕末に帰属する。

113号遺構（第 24 図、第 4 表）

壁面の一部がオーバーハングする土坑である。覆土はほぼ単層であるとみられ、青磁の小片や土器のかわらけなどが出土し、19 世紀から幕末に帰属する。

117・119号遺構（第 25 図、第 4 表）

壁面の大半がほぼ垂直に立ち上がる長方形の土坑である。平面形及び床面のレベルによって 2 基の土坑に区分した。土器・陶器・金属片などが出土したが帰属時期は不明である。

121号遺構（第 25 図、第 4 表）

E-2 区の南西端が広範囲で落ち込んでおり、遺物も多数出土したことから土坑とした。覆土は調査区西壁で観察された 2 層が南に傾斜して堆積している。

125号遺構（第 25 図、第 4 表）

不整楕円形の土坑で一部は調査区外に位置する。陶磁器の碗や播鉢など近世に帰属する遺物が主体的だが、近代の磁器の端反碗（第 59 図 10）なども出土したため近代に区分した。

126号遺構（第 26 図、第 4 表）

E-1b 区の大規模な攪乱に切られる土坑である。廃棄土坑とみられ、磁器の碗やガラス製品などが出土した。遺物から近代に帰属する。

128号遺構（第 26 図、第 4 表）

浅い土坑である。肥前系の磁器碗などが出土しており、遺物から近世に帰属する。

139号遺構（第 26 図、第 4 表）

長方形の土坑で、底面が段状に落ち込むほかピット状に落ち込む場所もある。近世の磁器の碗や皿、ガラス製品、金属製品などが出土した。

C 植栽痕

35号遺構（第 27 図、第 4 表）

ローム面で検出された植栽痕である。遺構底面中央が盛り上がり、36 号遺構を切る。

#### 57号遺構（第27図、第4表）

34・49号遺構に切られる植栽痕である。第45図2・3は縄文土器である。

#### 64・72・73号遺構（第28・31図、第4表）

3基の植栽痕が重複する。64号遺構からは近世の二合半タイプの徳利（第58図9）のほか、第58図10～12など小型のインク瓶の可能性のあるガラス製品が多数出土している。72号遺構からは近世の陶磁器の碗や徳利などの他、ウシもしくはウマの脛骨が出土している。

#### 65・103・106号遺構（第29・30図、第4表）

3基の植栽痕が重複していると考えられる。65号遺構からは第58図13・14など近世の遺物が主体的に出土している。

#### D 畝間溝

##### 11・15・25～28・37～39・41～43・48・50・61～63号遺構（第13図、第4表）

F区で検出された東西方向の畝間溝である。11号遺構a～f・37号遺構は1面（2層）の黒褐色土上で確認されたが、それ以外は2層が削平されたローム面上で確認された。

##### 136～138・141・142号遺構（第12図、第4表）

E-1b区で検出された東西方向の畝間溝である。本来は1面上の遺構だと思われるが、E-1b区は全体的にローム面まで削平が及んでおり、溝の底面付近のみが遺存している。136号遺構からは近世の陶器の灯明受け皿などが出土している。

#### E 井戸

##### 1号遺構（第31図、第4表）

埋め戻されていた井戸である。攪乱によって本来の平面形は定かではないが、大谷石の切石を用いた枠が一部遺存する。断ち割り調査を行い、埋土を検出面より約2.7mの深度まで確認したが、埋土下位は滞水しており安全を考慮して底面までは調査していない。

##### 59号遺構（第31図、第4表）

コンクリート製の蓋と埋土によって埋め戻されていた井戸である。蓋より下位は埋め戻されておらず、下半は湛水していた。蓋から水面までは約2m、水面から底面までは約2.7mを測る。蓋より上位の平面形は隅丸方形を呈するが、蓋より下位はほぼ円形である。蓋の平面形はほぼ正八角形を呈し、2枚に分割されている。蓋は接合部に沿って二か所に穿孔され、一つには塩ビ管が通されて井戸底部に達していた。埋め立てた後もポンプ等で水を汲み上げていたと考えられる。安全上、確認面より約2mの深度までしか調査していないが、蓋より下位の壁面には工具痕が残されている。蓋から約50cmの範囲までは横位に近い斜位、それ以下は縦位の手斧状の工具によるとみられ、斜位の工具痕が縦位の工具痕を切っている。

##### 131号遺構（第32図、第4表）

埋め戻されていた井戸である。E-1b区の大規模な攪乱底面で検出したが、位置関係から127号遺構（コンクリート構造物）の掘方に位置していたと考えられる。断ち割り調査を行い、埋土を検出面より約1.5mの深度まで確認した。近世の陶器の皿などが出土している。

##### 143号遺構（第32図、第4表）

埋め戻されていた井戸である。127号遺構（コンクリート構造物）の掘方から検出された。断ち割

り調査を行い、埋土を検出面より約 2.5m の深度まで確認した。近世の磁器の碗が出土している。

#### F レンガ拵・コンクリート構造物・コンクリートタイル拵・礎石・建物基礎

##### 3号遺構（第32図、第4表）

レンガとモルタルで構築された拵と考えられる構築物である。型枠の痕跡が確認できないことから、掘削した掘方に直接レンガとモルタルを埋設したと考えられる。用いられているレンガは刻印が刻まれている割合が多く、刻印のパリエーションも豊かであることから別の構築物に使われていたレンガを再利用している可能性がある。本遺構に隣接する南側の掘り込みは調査区外まで伸びており、配管等が接続されていたと考えられる。

##### 127号遺構（第33・34図、第4表）

底面は水平に、壁面は斜めに配置されたコンクリートタイルがモルタルで覆われた構造物である。東半分を大規模な攪乱によって失っているが、本来の平面形は正方形に近い方形だったと考えられる。現存する遺構上端の最大長は 7.58m、上端から底面表面までは 0.76 m を測るが、さらに上段のタイルが存在していた可能性もあり、本来の深度はさらに深くなるであろう。掘方を掘削した後、盛土→砕石→モルタルの順に埋設し、コンクリートタイルを敷き詰めてその隙間や表面にモルタルを塗布することで構築されたと考えられる。底面北西角では垂直に据えられたタイルの内側にモルタルを充填し、階段状の突出部を作り出している。ローム混じりの客土で埋め立てられており、覆土からはガラス製品・金属製品などが出土した。掘方では溝状の掘り込みがみられ、131・143号遺構（井戸）が検出されている。第60図9・10は本遺構の掘方から出土した。

##### 30号遺構（第11図、第4表）

D-4区の調査区の大半を占める、コンクリートブロック拵である。内部は南北に分かれ、南側がやや大きく底盤がより深い。上半が破壊され、ブロック内側の鉄筋が確認できる。遺構南北に隣接する攪乱は配管等が接続されていた痕跡であろう。

##### 69・70・71号遺構（第10図、第4表）

D-1区2面（ローム面）上で検出された礎石の可能性のある礎である。配置は散発的で他の遺構との関連は見いだせない。

##### 4号遺構（第13図、第4表）

F-2区1面上で検出された建物基礎の可能性のある遺構である。花崗岩の角礫が集中して検出され、調査区外へ延びる。角礫は整形された痕跡がみられず、栗石や他の遺物も検出されていない。他に同様の遺構は検出されず、配置の傾向などは見いだせない。

#### G ビット

##### 252p（第43図、第5・6表）

陶器片 34 点及び板碑片 1 点が出土した。陶器は丹波産の播鉢で、大半の破片が板碑片と共に折り重なるように覆土中位に位置していた。接合すると復元率は 7 割前後となり、遺構間接合はみられなかった。覆土は単層で、遺物は意図的に埋納された可能性が考えられる。

##### 2) 遺物

##### 2号遺構（第45～48図、第8表）

第45図8～11は磁器である。8は小碗で、ゴム印・手描で達磨と蚊を描き、「京□（司?）」は

作家名か。9・10はセットとみられる小碗と蓋である。11は底面に統制番号が記されたいわゆる統制陶器である。12は七輪、13は焔炉の目皿である。第46図1は行火の火入れで、脚部の底面が摩耗している。2は土製の十能で、底面に文字と数字が刻まれている。3は2と近似した形状だが、内部が目皿状で底面が中空になっている。4・5・第47図1～7・第48図1～4はガラス製品である。5のパトローネの内部にはフィルムが遺存していた。6は英語のプリントされた缶である。

### 3号遺構（第48・49図、第8表）

第48図7は磁器の小碗である。8は陶器の植木鉢かと思われるが、表裏面が著しく敲打されている。9～11は対となる真鍮製の捻縮である。第49図1～7はレンガで、3号遺構の構造材である。

### 5号遺構（第48図、第8表）

第48図12は磁器の小皿で、底面に陽刻銘とゴム印による番号の双方がみられる。

### 6号遺構（第48・50図、第8表）

第48図13は磁器製の湯たんぽである。第50図1は電気部品と考えられる。

### 8号遺構（第50図、第8表）

第50図2は蹄鉄で、前側に蹄鉄のずれを防止する三角形の鉄唇がある。3は軍筒の引手である。

### 9号遺構（第50・51図、第8表）

第50図4は堆朱風の火鉢である。上げ底の底面のトンネル状の部位は空気を取り込み口と思われる。第51図1の底部の切り欠きはトンネルに合致する形状で、第50図4の内部に第51図1、さらにその内部に2が収まる。3も含めて一体の暖房器具として使用されていたか。4は香水瓶であろう。

### 10号遺構（第51・52図、第8表）

第51図5・6はティーカップで、5は鉄道の動輪と「弘」を組み合わせたマークがプリントされ、鉄道弘済会に関係する可能性がある。6は半纏の紋章がある。7はクロム青磁の小碗、8はコバルト釉で染付された小碗である。9・10は陶器、11はゾウをかたどった土器のペン立てか。第52図1は砥石、2は代用陶器の卸金である。

### 14号遺構（第52図、第8表）

第52図3は常滑焼の大甕で、口縁部内側にモルタルが付着し返し状に膨らむことから便槽か。

### 17号遺構（第52・53図、第8表）

第52図4～7は磁器である。6は外面の口縁部に1mm単位の目盛りや体部にメートル法の換算表がプリントされていることから、メートル法の普及用の製品であろうか。第53図1は陶器の火鉢、2は置き時計の一部、3は電気部品で第53図8とネジピッチが一致する。

### 31号遺構（第53図、第8表）

第53図4・5は磁器の中碗、6～8は電気部品である。6はスイッチ、7は被覆碍子か。

### 32号遺構（第53～55図、第8表）

第53図9～11は磁器で、11は本来は一對の稲荷か。第54図1は硬質陶器の水盤、2はガスコンロのミニチュア、3は菓子瓶である。4・5は鯨髭製の可能性がある歯ブラシである。6～9は鉄製品、10・11・第55図1は電気部品である。

### 33号遺構（第55図、第8表）

第55図2は陶器の火鉢で、内面底部に被熱による発泡がみられる。

## 34号遺構（第55図、第8表）

第55図3～6は磁器で、3はクロム青磁の小碗である。4は鉄帽や旭日旗が描かれ、第二次世界大戦後の復員に、5は油槽船泰南丸の昭和17年の進水に関連するか。7は硬質陶器の中皿、8は陶器の火鉢で外面底部に「信」と数字が刻まれている。9は硯、10は電気部品か。

## 40号遺構（第56・57図、第8表）

第56図1～3は磁器で、3は輸出向けか。4は万古焼の急須である。5は代用陶器のガスコンロのバーナー部分で、本来は一回り大きい台座部と一体だったと思われる。6は煙道部を持つ土器の焔炉である。7は丸瓦、8・10は染料瓶、9は薬瓶である。第57図1は鉄製品の十能、2は電気部品であろうか。

## 44号遺構（第57図、第8表）

第57図3は瓦質土器の植木鉢で、内面が被熱していることから火鉢に転用されたか。

## 52号遺構（第57・58図、第8表）

第57図4・5は統制陶器で、4は小碗、5はソーサーである。6・7は陶器で、6は火鉢で底面の穿孔は下部の台との固定用か。8は代用陶器のガスコンロ、9は平瓦、第58図1は椀である。

## 53号遺構（第58図、第8表）

第58図2は磁器の中皿、3は土器の帯留め、4は象牙製の箸、5・6は真鍮で5は蚊帳の吊輪、6は校章で帽子などにあしらわれるものか。

## 54号遺構（第58図、第8表）

第58図7はピストル状のスターターである。

## 64号遺構（第58図、第8表）

第58図8は磁器の小碗、9は二合半の徳利である。10～12は口縁部を意図的に破損していると思われるガラス瓶で、インク瓶の可能性もある。

## 65号遺構（第58図、第8表）

第58図13・14は磁器で、13は皿、14は香油瓶である。

## 79号遺構（第59図、第8表）

第59図1は三鳥手の鉢である。

## 98号遺構（第59図、第8表）

第59図2は磁器の小碗で、呉須で染付されている。

## 102号遺構（第59図、第8表）

第59図3は五合徳利の底部である。

## 105号遺構（第59図、第8表）

第59図4は磁器の中皿で、いわゆるイゲ皿である。

## 110号遺構（第59図、第8表）

第59図5～7は泥面子である。5の文様は笠もしくは「十」、「小」などが考えられる。

## 121号遺構（第59図、第8表）

第59図8は火打石の小片で、火打石の形状を整えた際の剥片であろう。9は仕上げ砥石である。

## 125号遺構（第59図、第8表）

第59図10は磁器の小碗、11は丸瓦を転用した持紙か。12は寛永通宝、13は炭素棒か。

126号遺構（第60図、第8表）

第60図1～3は磁器の碗である。4は陶器の便器で、丹治製陶所のマークが刻まれている。5・6はガラス瓶で、6は薬瓶か。

127号遺構（第60図、第8表）

第60図7は陶器の便器部品で、外面が青磁色、断面が赤色の西瓜便器と呼ばれる。8～10はガラス製品で、9は目薬瓶である。10は著しく摩耗していることから石蹴り遊び用か。

139号遺構（第60図、第8表）

第60図11は5面を使用している荒砥石である。

252p（第61図、第8表）

第61図1は陶器の搦鉢で、成形後手びねりで注口部を作り出している。2は緑泥片岩製の板碑片で、側縁を著しく欠損しているほか、碑面や側縁の一部に研磨痕がみられる。刻まれている内容は判然としないが、天蓋や主尊種子、蓮座の一部か。

D-1区一括（第61図、第8表）

第60図3・4は磁器瓶で、統制陶器である。5は土器のペーゴマ、6は瓦を転用した持砥、7は電気部品である。

D-4区一括（第61図、第8表）

第61図8・9は文様の近似した磁器で、8は中碗、9は小皿である。10・11はガラス瓶で、10は香水瓶、11は醤油瓶である。

D-5区一括（第61図、第8表）

第61図12は磁器の仏飯器であろう。

E-1区一括（第62図、第8表）

第62図1・2は磁器で、1は中碗、2は糊瓶である。3・4はガラス瓶で、3は三ツ矢サイダー瓶、4は化粧品瓶である。5～9は銭貨で、5・7は半銭硬貨、6は二十銭銀貨、8は寛永通宝、9は文久永宝である。10は電気部品で、コンセントの差込口を備えた電球のソケット部である。11は木製の下駄で、裏面に斜位～横位の加工痕が残る。

E-2区一括（第63図、第8表）

第63図1は陶器の貯金箱で、郵便ポストを模している。2は模倣ジェラール瓦である。3～5はガラス製品で、3はインク瓶、4はラムネ瓶、5は犬？を模した置ききか。6は寛永通宝である。

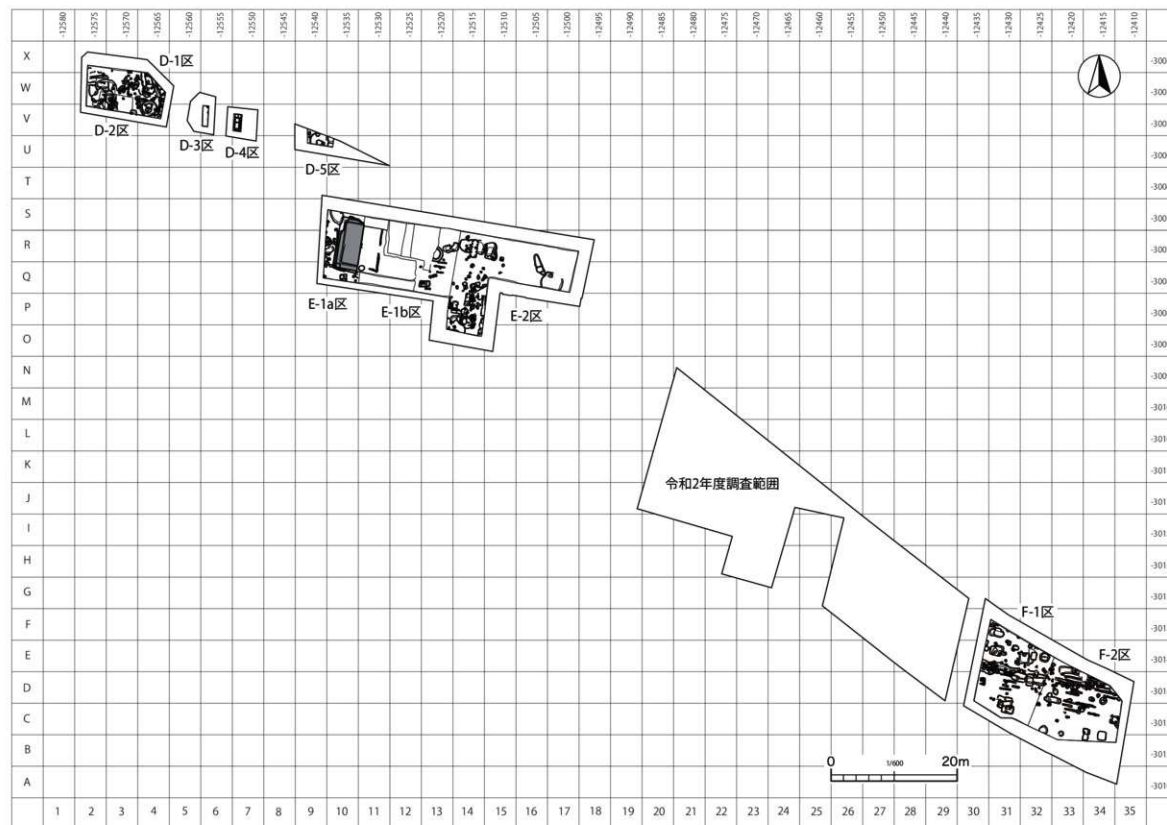
F-1区一括（第63・64図、第8表）

第63図7～9は磁器で、8は統制陶器の中碗である。10はガラス瓶で、11・12は鉄製品、第64図1は焼夷弾のノーズブロック（弾頭部の重り）、2は電気部品である。

F-2区一括（第64図、第8表）

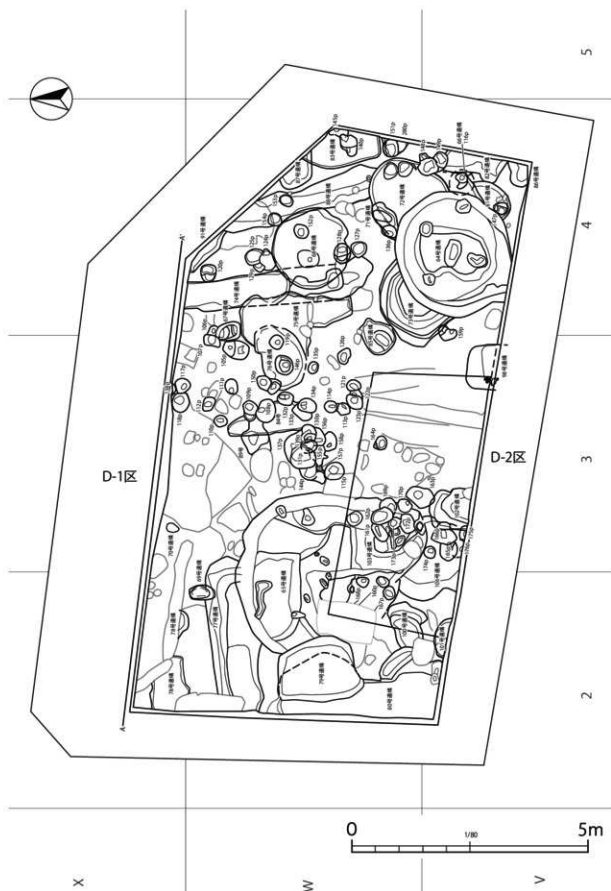
第64図3は磁器の小碗で、第52図6と同一の製品である可能性がある。4は薬瓶であろうか。5は二枚のガラス板の間に紙が挟まれたコースターで、本来は枠となる部品も存在していたと思われる。6は真鍮製のペーパーナイフである。日本タイプライター株式会社の建物新築を記念して配られたと考えられ、刃部にインチとセンチメートルの目盛りが刻まれている。7～9は電気部品で、9は被覆磚子か。  
(橋本)



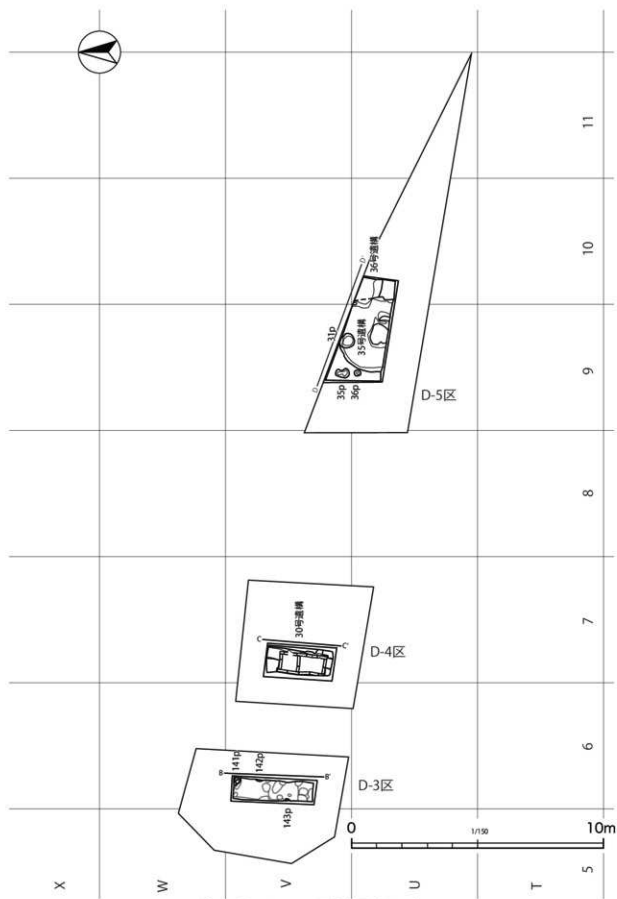


第9図 全体図 (1/600)





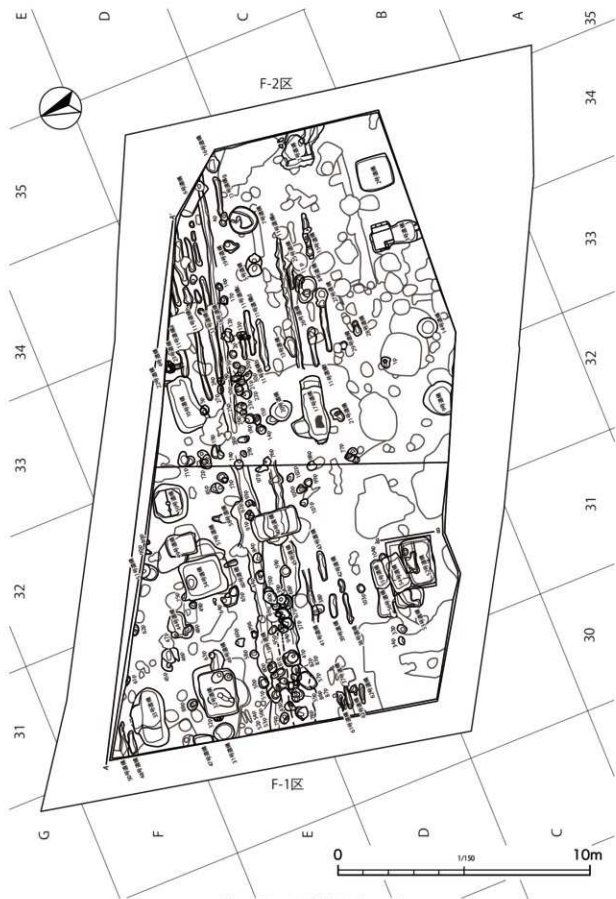
第10図 D-1・2区全体図 (1/80)



第11图 D-3~5区全体图 (1/150)

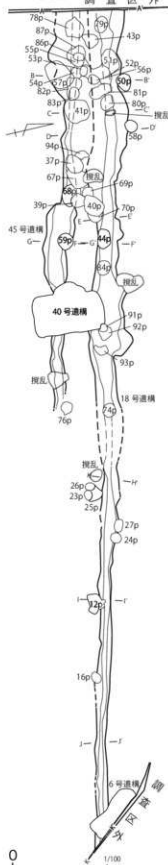


第12図 E区全体図 (1/200)



第13图 F区全体图 (1/150)

18・45号遺構 調査区外



32.60 A



18号遺構 A A  
1 10YR2/3 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-2mmの石と土粒5%、径5-20mmの石と土粒10%を含む。  
2 10YR4/6 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、黒褐色土20%、径1-4mmの石と土粒10%、径5mmの石と土粒5%を含む。断面は概ね以下の通り。

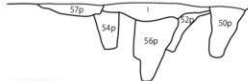
45号遺構 A A  
1 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1mm以下の石と土粒3%を含む。  
F-1 45号遺構 A A  
1 10YR2/3 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-3mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。  
2 10YR2/2 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-2mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。  
3 10YR2/2 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-2mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。  
4 10YR2/2 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-2mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。  
5 10YR2/2 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-2mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。

E 70p 18号遺構 32.00



18号遺構 E E  
1 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1mm以下の石と土粒1%を含む。

B 18号遺構 32.00



18号遺構 B B  
1 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-3mmの石と土粒5%を含む。

G 45号遺構 59p 32.10



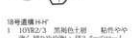
45号遺構 G G  
1 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1mm以下の石と土粒1%を含む。

C 45号遺構 41p 18号遺構 32.00



18号遺構 C C  
1 10YR2/3 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1mm以下の石と土粒3%、径5-20mmの石と土粒10%を含む。  
45号遺構 C C  
1 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1mm以下の石と土粒1%を含む。

H 18号遺構 32.00



18号遺構 H H  
1 10YR2/3 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-3mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。

D 45号遺構 18号-4 18号遺構 58p 32.00



18号遺構 D D  
1 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-3mmの石と土粒5%を含む。  
2 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1mm以下の石と土粒3%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。  
3 10YR2/4 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、黒褐色土20%、径1-2mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。  
4 10YR2/3 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-2mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。  
5 10YR3/4 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径2-3mmの石と土粒5%、黒褐色土20%を含む。  
6 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1mm以下の石と土粒5%を含む。

I 18号遺構 32.10



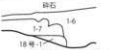
18号遺構 I I  
1 10YR2/3 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-3mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。

J 18号遺構 32.10



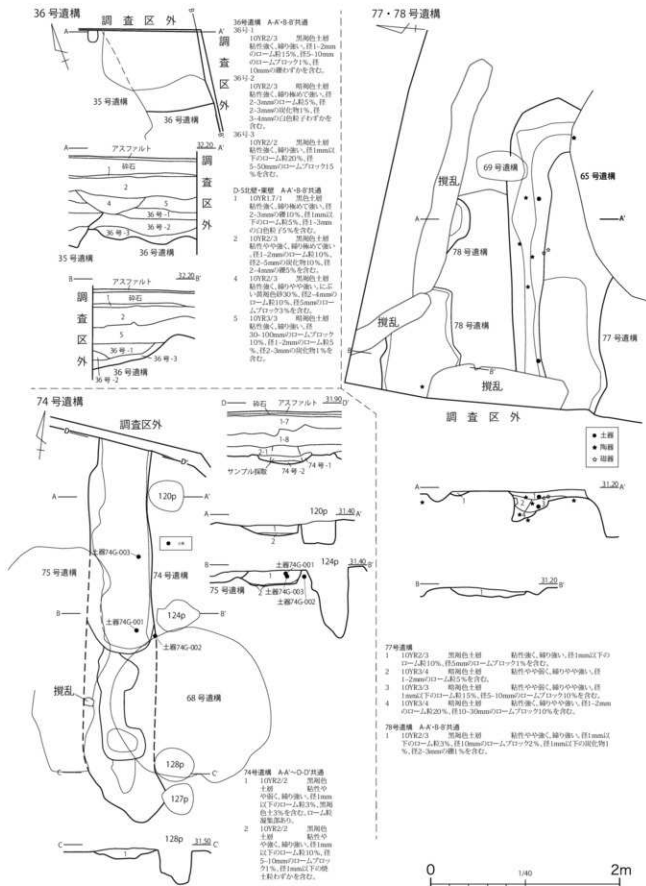
18号遺構 J J  
1 10YR2/2 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1mm以下の石と土粒1%を含む。

K 32.60



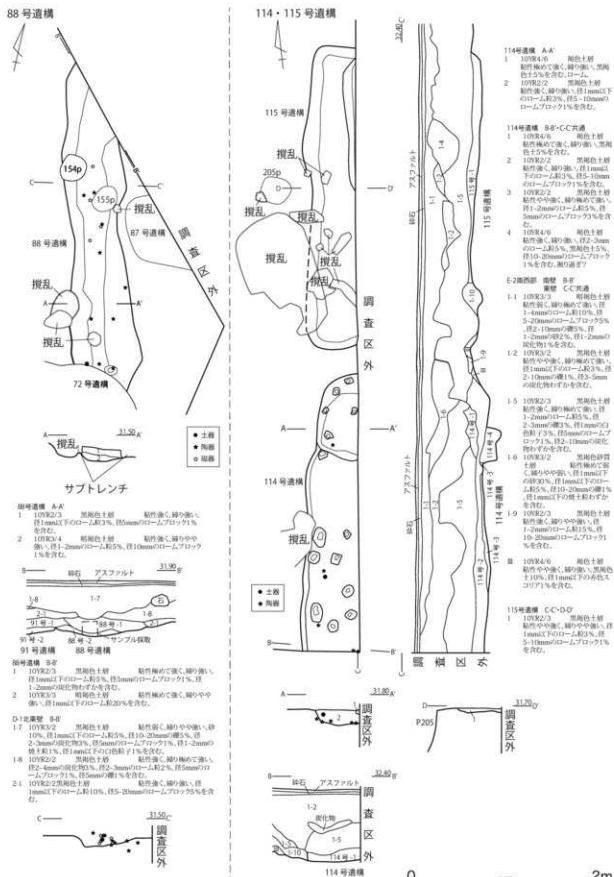
18号遺構 K K  
1 10YR2/3 黒褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-3mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。  
2 10YR2/4 暗褐色土層 黏性中中硬く、締り強い、径1-2mmの石と土粒5%、径5-10mmの石と土粒10%を含む。

第14図 溝状遺構 (1) (1/40・1/100)



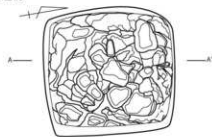
第15図 溝状遺構 (2) (1/40)



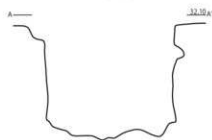


第16図 溝状遺構 (3) (1/40)

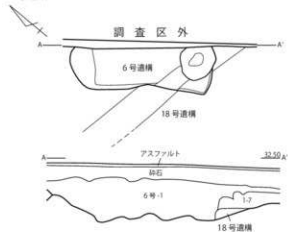
2号遺構



2号遺構



6号遺構



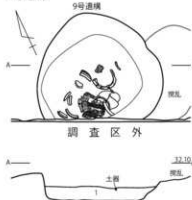
6号遺構  
 1 10YR3/4 暗褐色土層 粘性や中粘り、締り強くて強い、径5-10mmのO3-ムフロック20%、径2-3mmのO3-ムフロック10%、径5-20mmの礫10%、径2-3mmの珪石5%、径1-2mmのレンゴ1%を含む。

F-2土層  
 1.7 10YR3/4 暗褐色土層 粘性弱く、締り強くて強い、径1-2mmのO3-ムフロック20%、径1-2mmの珪石5%、径1mm以下の珪石1%を含む。

8号遺構



9号遺構



9号遺構  
 1 10YR3/4 暗褐色土層 粘性弱く、締り強くて強い、径1-5mmのO3-ムフロック15%、径1-4mmのO3-ムフロック10%、径5-20mmのO3-ムフロック5%、径1-2mmの礫5%、径1mm以下の珪石1%を含む。

10号遺構



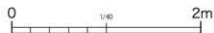
10号遺構

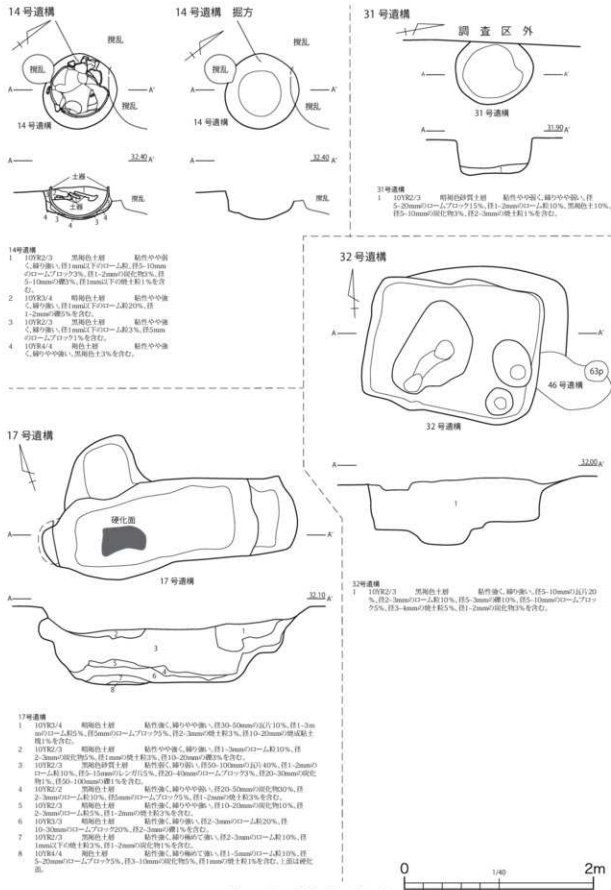
1 10YR2/3 黒褐色土層 粘性や中粘り、締り強くて強い、径10-20mmのO3-ムフロック20%、径2-5mmのO3-ムフロック10%、径2-3mmの珪石5%、径1-2mmの礫1%を含む。

2 10YR2/1 黒色砂層 粘性弱く、締り強くて強い、径1mm以下の焼土粒50%、径10-100mmの珪石10%、径5-10mmの礫5%、径5-10mmのガラス片1%を含む。

3 10YR2/2 暗褐色土層 粘性や中粘り、締り強くて強い、径1-2mmのO3-ムフロック20%、径5-10mmのO3-ムフロック10%、径5-10mmの珪石10%、径5-10mmの礫10%、径50-120mmの珪石10%、径5-10mmのガラス片3%を含む。

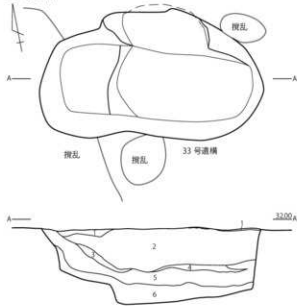
第17図 土坑 (1) (1/40)





第18図 土坑 (2) (1/40)

33号遺構



33号遺構

- 1 109R2/3 黒褐色砂質土層 黏性中～中強、締り強、径1～2mmの石一土粒10%、径30mmの片石1%、径10mmのレンガ破片5%、径5～10mmの炭化灰1%、径10mmの礫1%を含む。
- 2 7.10R2/2 粗粒砂質土層 黏性弱めて堅、締り強めて堅、径50、20mmの片石40%、径10mm以下の礫土粒5%、径10～20mmの礫5%、径1～2mmの炭化灰4%を含む。
- 3 109R2/3 黒褐色土層 黏性強、締り中～強、径10mmの石一土粒1%を含む。
- 4 109R2/3 黒褐色土層 黏性中～中強、締り強、径1～2mmの石一土粒15%、炭化灰5%を含む。
- 5 109R2/2 黒褐色土層 黏性強、締り中～強、径1～2mmの石一土粒10%、径20～30mmの片石2～5%、径30～40mmの礫土粒3%を含む。
- 6 109R2/4 粗粒砂質土層 黏性強、締り強めて強、炭化灰土30%、径10～50mmの石一土粒10～20%、径1～3mmの石一土粒10%を含む、ローム土と黒褐色土が互層状に堆積している。

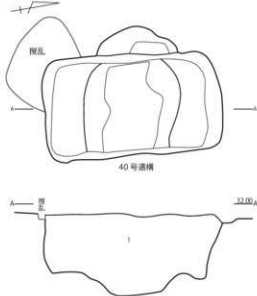
34号遺構



34号遺構

- 1 7.20R2/1 黒褐色砂質土層 黏性強めて堅、締り中～中強、径100～300mmの片石20%、径1～2mmの礫土粒10%、径3～6mmの炭化灰3%、炭化灰1.3%、径3～5mmの礫1%を含む。

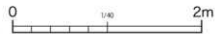
40号遺構



40号遺構

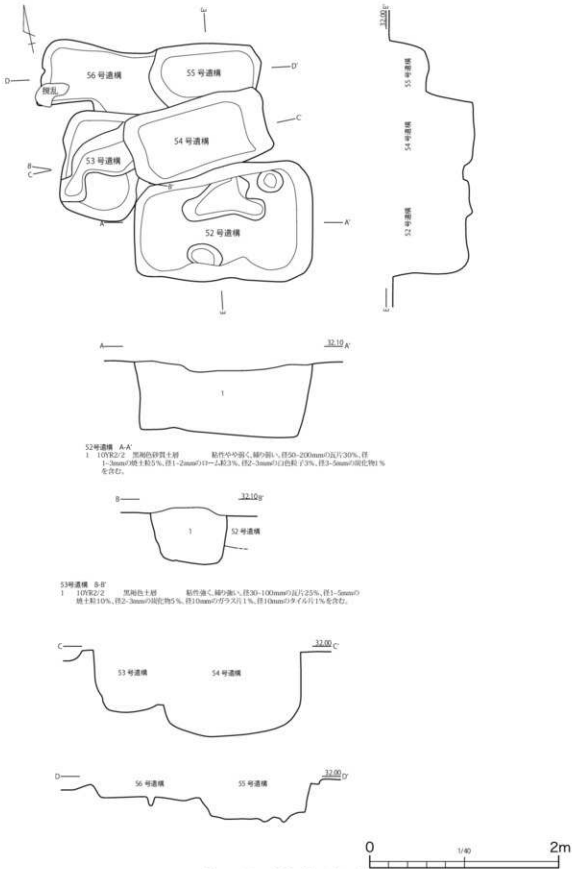
- 1 109R2/3 黒褐色砂質土層 黏性強、締り中～中強、径30～200mmの片石30%、径150～300mmのコンクリート片20%、径10～50mmの礫10%、径2～3mmの石一土粒5%、径1～2mmの炭化灰3%、径10～30mmのレンガ片1%を含む。

44号遺構



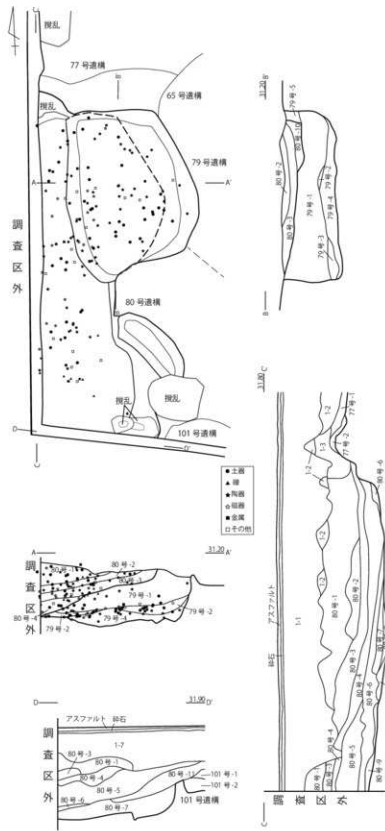
第19図 土坑 (3) (1/40)

52・53・54・55・56号遺構



第20図 土坑(4)(1/40)

79・80号遺構

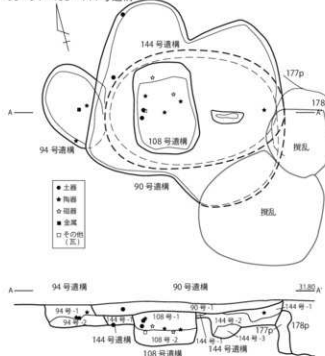


- 79号遺構 A-A・B-B断面**
- 1 10VRC2 黒褐色土層 粘性強く、締り強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 10-20mmφ以下土粒5%、 $\beta$ 5-10mmφ土粒5%、 $\beta$ 1-3mmφ級比率1%を含む。
  - 2 10VRC2 黒褐色土層 粘性強くて締り強め、締り強め、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒15%を含む。
  - 3 10VRC2 黒褐色土層 粘性強くて締りや中強い、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒15%を含む。
  - 4 10VRC4 黒褐色土層 粘性強くて締りや中強い、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 5-20mmφ以下土粒10%を含む。
  - 5 10VRC3 黒褐色土層 粘性強く、締りや中強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒40%、 $\beta$ 5-10mmφ以下土粒70%を含む。
- 80号遺構 全共通**
- 1 10VRC3 黒褐色土層 粘性強く、締り強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 10-20mmφ以下土粒5%、 $\beta$ 5-10mmφ土粒5%、 $\beta$ 1-3mmφ級比率1%を含む。
  - 2 10VRC2 黒褐色土層 粘性強く、締り強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒5%、 $\beta$ 5mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 1-2mmφ級比率3%、 $\beta$ 10mmφ土粒1%を含む。
  - 3 10VRC3 黒褐色土層 粘性強くて締り強い、 $\beta$ 1-4mmφ以下土粒15%、 $\beta$ 10-20mmφ以下土粒10%を含む。
  - 4 10VRC3 黒褐色土層 粘性強くて締り強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒15%、 $\beta$ 10-20mmφ以下土粒10%を含む。
  - 5 10VRC3 黒褐色土層 粘性強くて締りや中強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒20%、 $\beta$ 10-20mmφ以下土粒10%を含む。
  - 6 10VRC3 黒褐色土層 粘性強くて締り強め、 $\beta$ 1-2-4mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 5-10mmφ以下土粒5%、 $\beta$ 2-4mmφ土粒10%、 $\beta$ 1-2mmφ級比率1%を含む。
  - 7 10VRC4 黒褐色土層 粘性強く、締り強くて強い、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒20%、 $\beta$ 5-10mmφ以下土粒10%を含む。
  - 8 10VRC3 黒褐色土層 粘性強くて締り強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒15%を含む。
  - 9 10VRC3 黒褐色土層 粘性強くて締り強め、 $\beta$ 1-2-3mmφ以下土粒5%、 $\beta$ 5-10mmφ以下土粒10%を含む。
  - 10 10VRC2 黒褐色土層 粘性強く、締りや中強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 10-20mmφ以下土粒10%を含む。
  - 11 10VRC3 黒褐色土層 粘性や中強い、締りや強い、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒30%、 $\beta$ 5-20mmφ以下土粒25%を含む。
- 79号遺構**
- 1 10VRC3 黒褐色土層 粘性強く、締り強い、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒15%、 $\beta$ 10mmφ以下土粒1%を含む。
  - 2 10VRC3 黒褐色土層 粘性強く、締り強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒20%、 $\beta$ 5-20mmφ以下土粒15%を含む。
- D-12区画**
- 1 1 10VRC2 黒褐色土層 粘性や中強い、締りや中強い、 $\beta$ 10-20mmφ土粒5%、 $\beta$ 50-100mmφ以下土粒1%、 $\beta$ 1-4mmφ以下土粒3%、 $\beta$ 1-10mmφ級比率1%、 $\beta$ 1-2mmφ級比率1%、 $\beta$ 10-20mmφのクラスタ1%を含む。2層1.6cm厚。
  - 2 10VRC2 黒褐色土層 粘性や中強い、締りや中強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 5-20mmφ土粒5%、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒1%を含む。
  - 3 10VRC2 黒褐色土層 粘性強く、締り強い、 $\beta$ 1-2mmφ以下土粒5%、 $\beta$ 10-20mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 1-2mmφ級比率3%、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒1%を含む。
- D-13区画 D-13**
- 1 10VRC2 黒褐色土層 粘性強く、締りや中強い、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒10%、 $\beta$ 10-20mmφ土粒5%、 $\beta$ 5-20mmφ級比率1%、 $\beta$ 1-2mmφ級比率1%、 $\beta$ 1-1mmφ以下土粒1%を含む。

第21図 土坑 (5) (1/40)

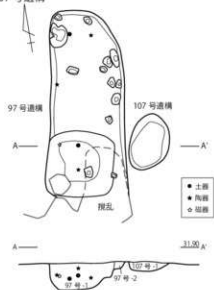


90・94・108・144号遺構



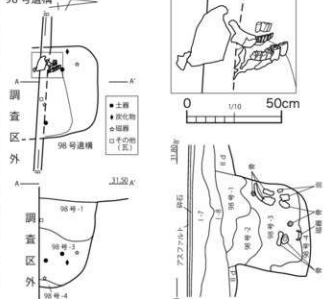
- 90号遺構**
- 1 10VR2/3 炭褐色土層 粘質中～細砂質、径5-20mmの礫15%、径50-100mmの土質10%、径1mm以下の砂1-3%、径1mm以下の炭化物1%を含む。
- 94号遺構**
- 1 10VR2/3 炭褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径1mm以下の砂1-3%を含む。
  - 2 10VR3/3 粘褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径2-3mmの砂1-3%、径5-20mmの砂1-2%を含む。
- 108号遺構**
- 1 10VR3/3 粘褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径1-2mmの砂1-3%、径10-15mmの砂1-2%を含む。
  - 2 10VR4/3 粘褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径1-2mmの砂1-3%、径20%、炭褐色土10%、径5-30mmの砂1-2%を含む。
- 144号遺構**
- 1 10VR3/3 粘褐色土層 粘質細砂質、径1-2mmの砂1-3%、径2-5mmの炭化物1%を含む。
  - 2 10VR4/4 粘褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径1-2mmの砂1-3%、径10-15mmの砂1-2%を含む。
  - 3 10VR2/3 炭褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径1mm以下の砂1-3%、径5-10mmの砂1-2%を含む。

97・107号遺構



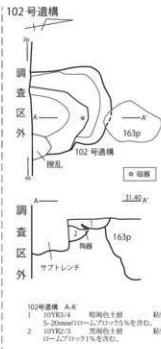
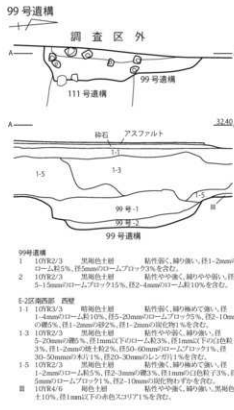
- 97号遺構**
- 1 10VR2/3 炭褐色土層 粘質中～細砂質、径1mm以下の砂1-3%、径5-10mmの砂1-2%、径2-5mmの炭化物1%を含む。
  - 2 10VR3/3 粘褐色土層 粘質細砂質、炭褐色土10%、径2-3mmの砂1-3%、径1-2mmの炭化物1%を含む。
- 107号遺構**
- 1 10VR2/3 粘褐色土層 粘質中～細砂質、径1mm以下の砂1-3%、径2-3mmの炭化物1%を含む。

98号遺構



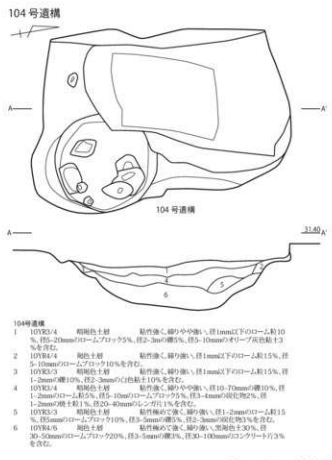
- 98号遺構 A-A-9号共通**
- 1 10VR2/3 炭褐色土層 粘質中～細砂質、径1-3mmの砂1-3%、径5-30mmの砂1-2%
  - 2 10VR3/4 粘褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径2-3mmの砂1-3%、径5-10mmの砂1-2%
  - 3 10VR2/3 粘褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径1-2mmの砂1-3%、径10-15mmの砂1-2%
  - 4 10VR4/6 粘褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径1-2mmの砂1-3%、径20%、炭褐色土10%、径5-30mmの砂1-2%
- D-2調査 9号**
- 1 7 10VR2/2 炭褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径10%、径1mm以下の砂1-3%、径10-20mmの礫2%、径2-3mmの炭化物1%、径5mmの砂1%、径10mmの砂1%、径15mmの砂1%、径20mmの砂1%、径30mmの砂1%を含む。
  - 8 10VR2/2 炭褐色土層 粘質細砂質、細砂質、径10%、径1mm以下の砂1-3%、径10-20mmの礫2%、径2-3mmの炭化物1%、径5mmの砂1%、径10mmの砂1%、径15mmの砂1%、径20mmの砂1%、径30mmの砂1%を含む。
  - 9 10VR3/4 粘褐色土層 粘質細砂質、炭褐色土3%、径1-2mmの砂1-3%を含む。

第22図 土坑(6) (1/10・1/40)



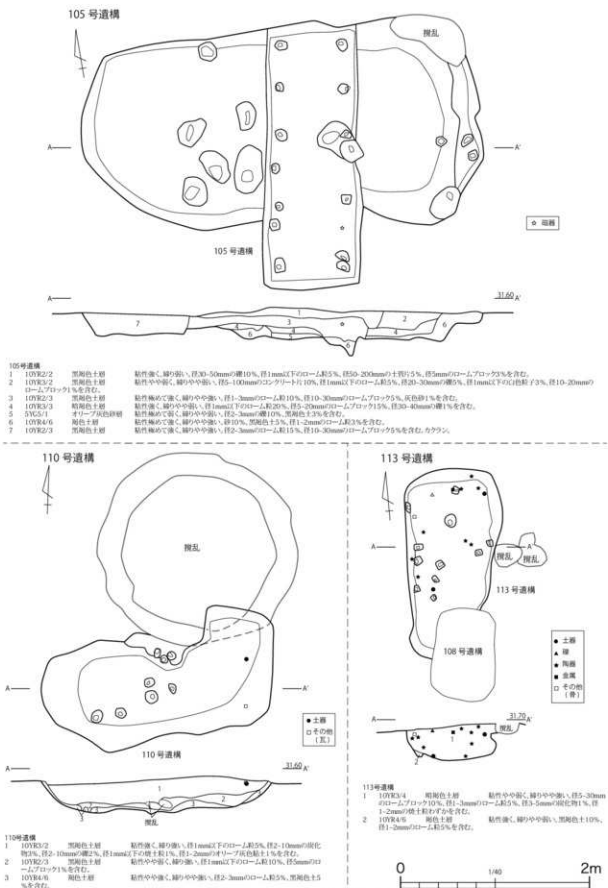
102号遺構 単層

- 1 10YR3/4 黒褐色土層 粘質中硬、締り強い、径1-2mmのローム土層15%、黒褐色土10%、径3-20mmのローム土層5%を含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土層 粘質中硬、締り強い、径1mm以下のローム土層10%を含む。



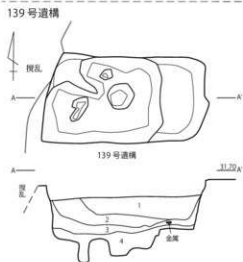
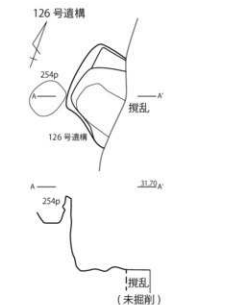
第23図 土坑 (7) (1/40)





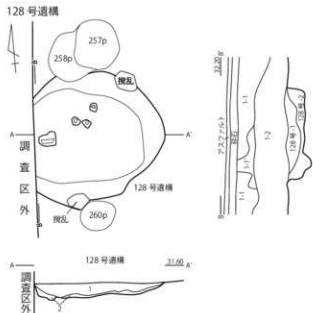
第24図 土坑 (8) (1/40)





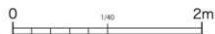
## 139号遺構

- 1 10YK2/3 黒褐色土層 粘作用中、細り強い、径2-70mmのロームブロック15%、径1-2mmのローム粒10%、径2-20mmの炭化物片、径2-3mmの礫1%を含む。
- 2 10YK2/4 暗褐色土層 粘作用中弱く、細り強い、径1-4mmのローム粒5%、径5-50mmのロームブロックを含む。
- 3 10YK2/2 黒褐色土層 粘作用の強く、細り中強い、径2-10mmの炭化物片、径1mm以下のローム粒3%、径2-3mmの礫1%、径3-10mmのオープン状炭粒1%を含む。
- 4 10YK4/6 褐色土層 粘作用強く、細り強い、径20-40mmのロームブロック70%、径2-3mmのローム粒10%、炭化物片10%を含む。総ロームブロックの埋積層。

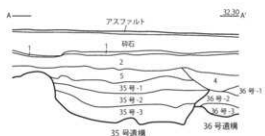
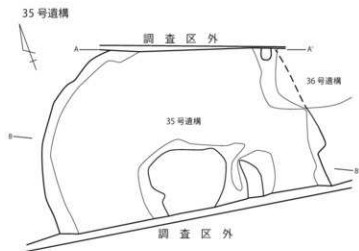


## 128号遺構

- 128号遺構 A-A-B-B断面
- 1 10YK2/3 黒褐色土層 粘作用中弱く、細り強い、径1mm以下のローム粒10%、径10mmのロームブロックを含む。
  - 2 10YK4/6 褐色土層 粘作用中弱く、細り中強い、炭化物片10%、径1-2mmのローム粒5%を含む。
- E-Ia断面 多層
- 1 1 10YK2/4 暗褐色土層 粘作用強く、細り強めて強い、径10-100mmのコンクリート10%、径20-40mmの炭化物片、径1mm以下のローム粒3%、径10mmの礫1%、径30-40mmのオープン状1%、径2-3mmの炭化物片1%、径2-3mmの炭化物片を含む。
  - 1 1 1.1 土壌コンクリート層を含む。
  - 1 2 10YK2/3 黒褐色土層 粘作用強く、細り強い、径1-2mmのローム粒5%、径1-3mmの炭化物片3%、径5mmのロームブロック1%を含む。



第26図 土坑 (10) (1/40)

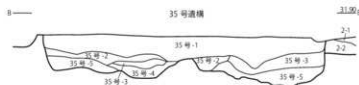


**35号遺構 A-A'**

- 1 10YR2/4 灰褐色土層 粘性土、細砂中中礫、粒径5-10mm割合10%、柱30-70mmのG-ムフコク3%、柱1-2mmのG-ムフコク1%を含有。
- 2 10YR2/4 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱1-2mmのG-ムフコク10%、灰褐色土10%、柱5-30mmのG-ムフコク5%を含有。
- 3 10YR4/2 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱1-2mmのG-ムフコク10%、灰褐色土10%、柱5-30mmのG-ムフコク5%を含有。

**D-S線 A-A'**

- 1 10YR1/1 黒色土層 粘性土、細砂中礫、柱2-3mmの礫10%、柱1mm以下のG-ムフコク5%、柱1-3mmのG-ムフコク5%を含有。
- 2 10YR2/2 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、細砂中礫、柱1-2mmのG-ムフコク10%、柱1-2mmのG-ムフコク10%、柱4mmの礫5%を含有。
- 3 10YR2/2 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、粒径5-10mm割合30%、柱2-4mmのG-ムフコク10%、柱5mmのG-ムフコク5%を含有。
- 4 10YR3/3 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱30-100mmのG-ムフコク10%、柱1-2mmのG-ムフコク5%、柱2-3mmの礫10%を含有。

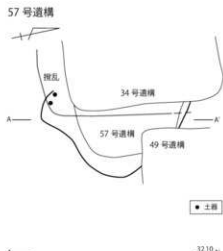


**35号遺構 B-B'**

- 1 10YR2/3 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱1mm以下のG-ムフコク5%、柱1-2mmの礫10%、柱3-5mmの礫3%、柱10-30mmのG-ムフコク1%を含有。
- 2 10YR2/3 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱2-3mmのG-ムフコク5%、柱10mmのG-ムフコク3%、柱1-2mmの礫10%、柱2-3mmの礫5%を含有。
- 3 10YR2/3 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱1mm以下のG-ムフコク20%、柱20-60mmのG-ムフコク15%、灰褐色土5%、柱30mmの礫10%を含有。
- 4 10YR4/4 褐色土層 粘性土、細砂中礫、灰褐色土10%を含有。
- 5 10YR4/6 褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱50-70mmのG-ムフコク30%、灰褐色土20%を含有。

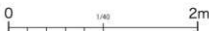
**D-S線 B-B'**

- 2-1 10YR2/3 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱1-2mmのG-ムフコク5%、柱10-30mmのG-ムフコク3%を含有。
- 2-2 10YR2/3 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱10-30mmのG-ムフコク30%、柱1-2mmのG-ムフコク10%を含有。



**57号遺構**

- 1 10YR3/2 黒褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱5mmのG-ムフコク3%、柱1-3mmのG-ムフコク1%を含有。
- 2 10YR3/4 灰褐色土層 粘性土、細砂中礫、細砂中礫、柱1-2mmのG-ムフコク3%を含有。
- 3 10YR4/6 褐色土層 粘性土、細砂中礫、柱1mmのG-ムフコク5%を含有。



第27図 植栽痕 (1) (1/40)

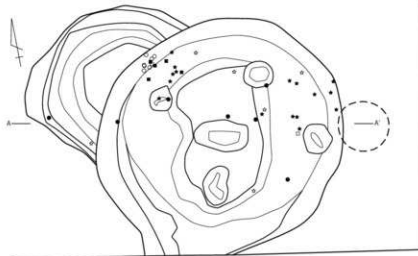
64・73号遺構



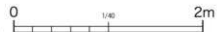
調査区外



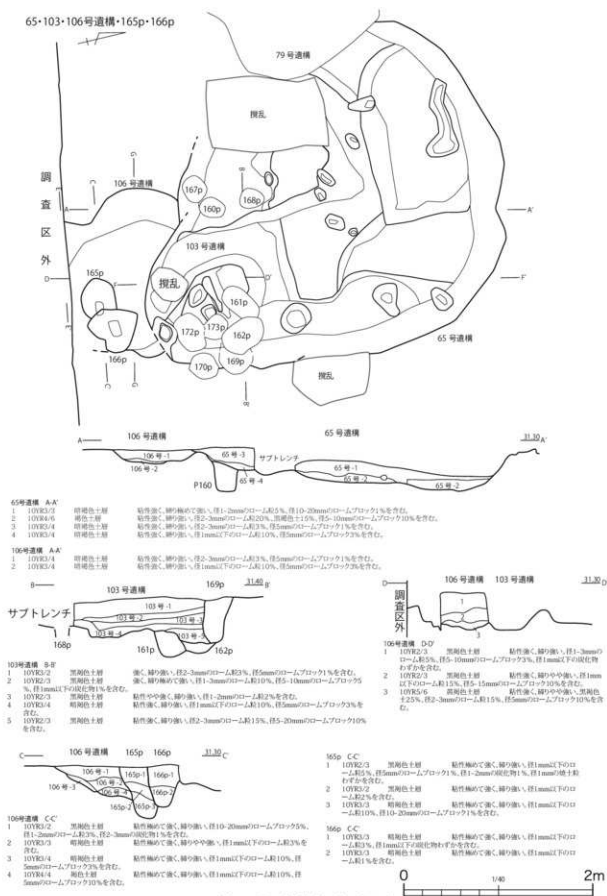
<b>64号遺構</b>			
1	10YK2/3	黒褐色土層	粘質黄・緑砂礫土、径1-3mmの石—土層15%、径5-20mmの石—土70%、径2-3mmの炭化物1%を含む。
2	10YK3/3	暗褐色土層	粘質黄・緑砂礫土、径1mm以下の小石—土層1%を含む。
3	10YK3/3	暗褐色土層	粘質黄・緑砂礫土、径1-3mmの石—土層10%、径5-10mmの石—土70%、径2-3mmの炭化物1%を含む。
4	10YK4/6	褐色土層	粘質黄・緑砂礫土、黒褐色土15%を含む。毛織物の繊維—土7%
5	10YK3/3	暗褐色土層	粘質黄・緑砂礫土、径1mm以下の小石—土層20%、径5-30mmの石—土70%、径2-3mmの炭化物1%を含む。
<b>73号遺構</b>			
1	10YK2/3	黒褐色土層	粘質黄・緑砂礫土、径1-3mmの石—土層15%、径5-20mmの石—土70%、径2-3mmの炭化物1%を含む。
2	10YK3/3	暗褐色土層	粘質黄・緑砂礫土、径10-20mmの石—土70%、径1-2mmの石—土層10%を含む。



第28図 植栽痕(2) (1/40)

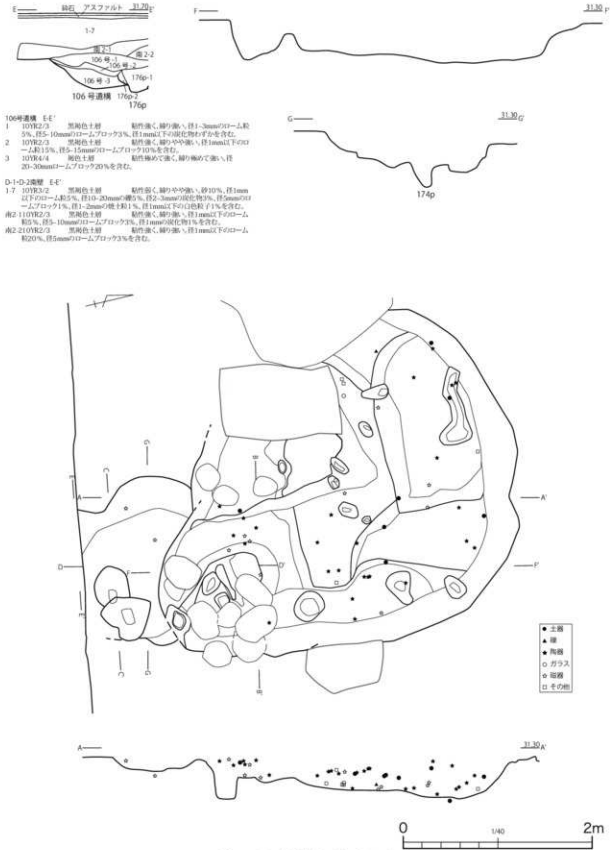


65・103・106号遺構・165p・166p

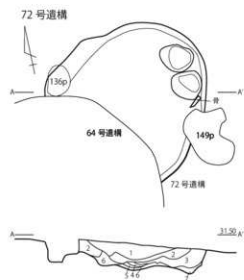


第29図 植栽痕 (3) (1/40)

## 65・103・106号遺構

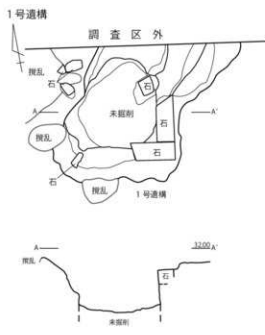


第30図 植栽痕 (4) (1/40)

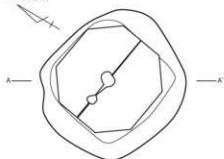


72号遺構

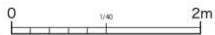
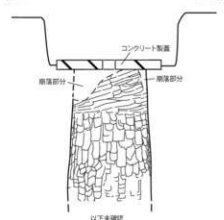
1. 10YR2/3 黒褐色土層 黏性中弱粘土、緑砂混入、径1-3mmの石を2%、径5mm以下のフラスコ片、径1mm以下の陶土粒1%を含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土層 黏性中弱粘土、緑砂中弱粘土、径10-20mmの石を2%、径1mm以下の石を10%を含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土層 黏性中弱粘土、緑砂混入、径1mm以下の石を2%、径5mm以下のフラスコ片、径20mmの陶土粒を含む。
4. 10YR4/4 褐色土層 黏性強粘土、緑砂混入、黒褐色土15%を含む。
5. 10YR3/4 暗褐色土層 黏性強粘土、緑砂混入、径1mm以下の石を2%を含む。
6. 10YR4/6 褐色土層 黏性強粘土、緑砂混入、黒褐色土20%、径10-20mmの石を2%、径1mm以下の陶土粒1%を含む。
7. 10YR2/4 暗褐色土層 黏性強粘土、緑砂混入、黒褐色土10%、径1-2mmの石を2%、径1mm以下の陶土粒1%を含む。



59号遺構



59号遺構



第31図 植栽痕 (5)・井戸 (1) (1/40)



131号遺構



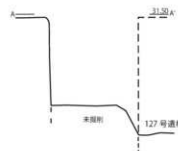
131号遺構



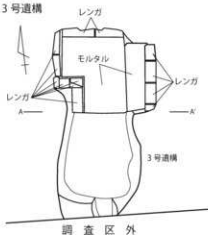
131号遺構

1 107.82% 炭褐色土層 粘性強めで重く、練り液  
 い。目10-20mmの砂25%、目2-3mmの砂1-2%、  
 目1-30mmの砂2%、目1-2mmの炭化物1%を含有。

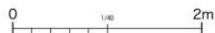
143号遺構



3号遺構

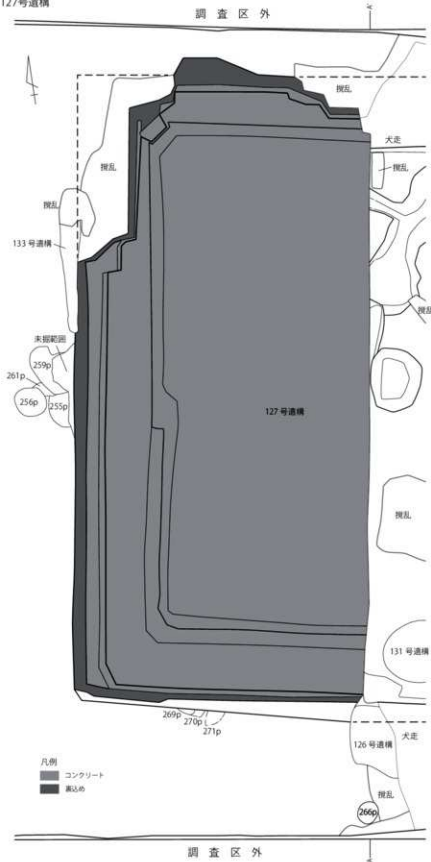


3号遺構

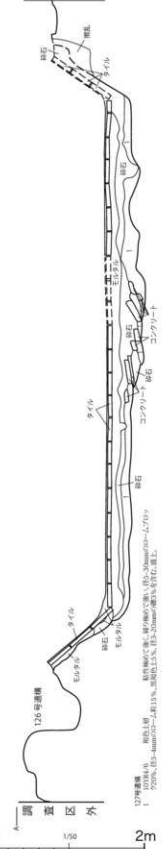


第32図 井戸(2)・レンガ拵(1/40)

127号道構



調査区外

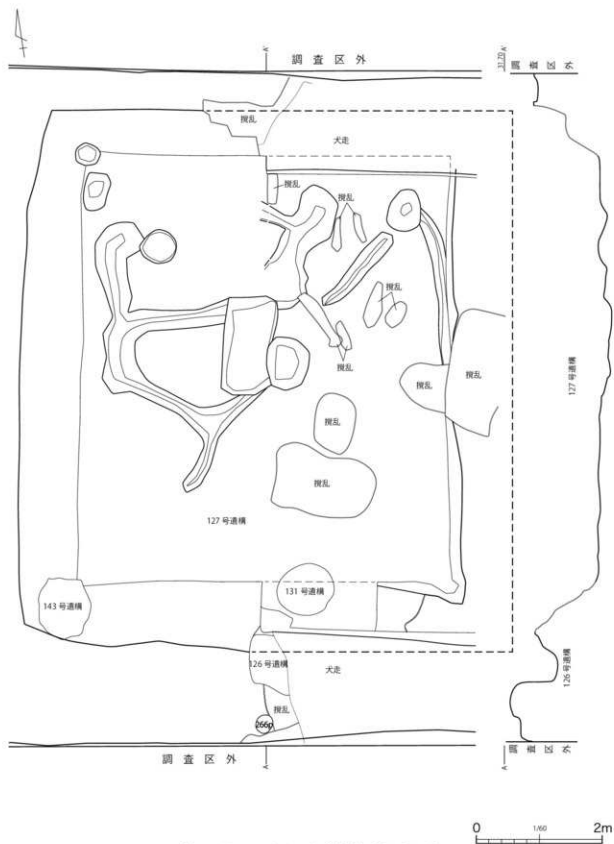


127号道構 鋼筋 鋼筋上層 鋼筋下層 鋼筋中層 鋼筋底層 鋼筋側面 鋼筋背面 鋼筋前面 鋼筋頂面 鋼筋底面 鋼筋側面 鋼筋背面 鋼筋前面 鋼筋頂面 鋼筋底面

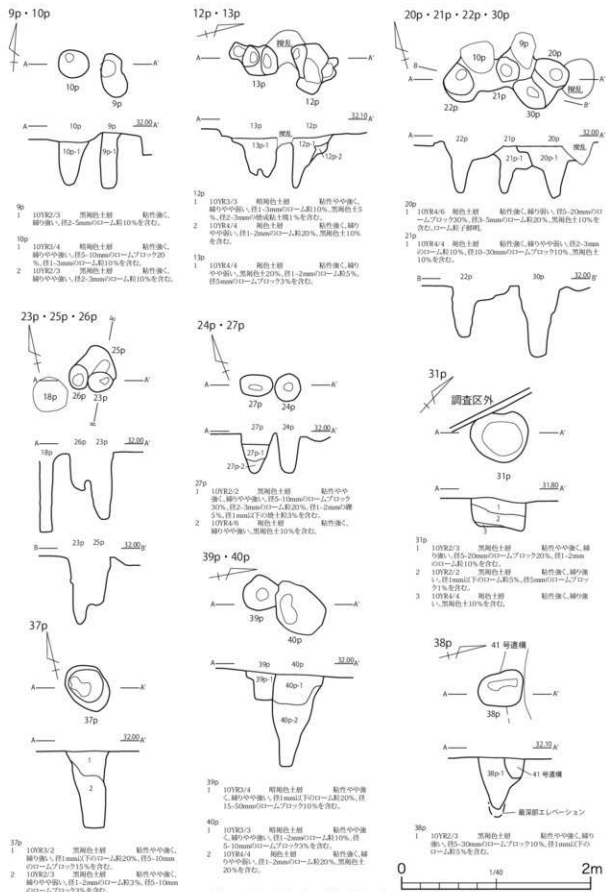
127号道構 鋼筋 鋼筋上層 鋼筋下層 鋼筋中層 鋼筋底層 鋼筋側面 鋼筋背面 鋼筋前面 鋼筋頂面 鋼筋底面

第33図 コンクリート構造物 (1) (1/50)

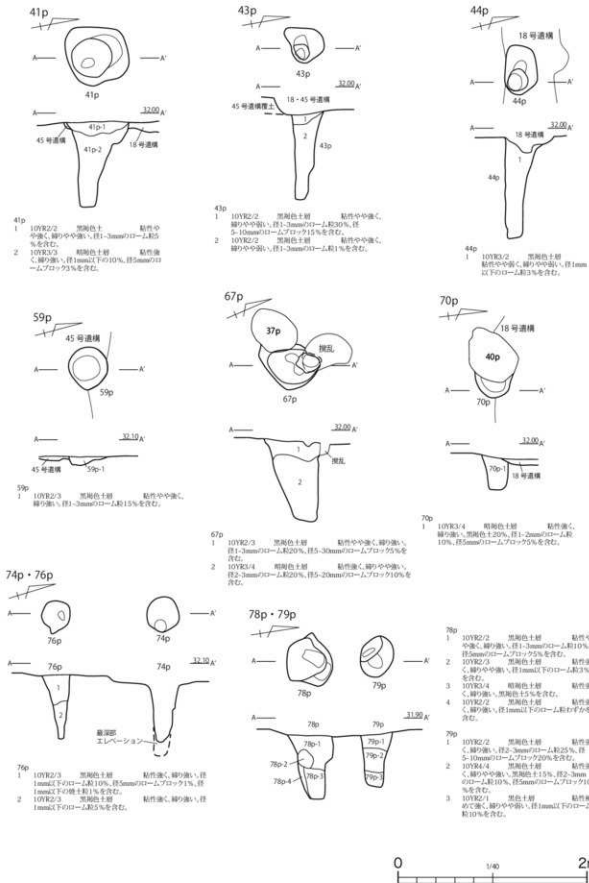
127号遺構 細方



第34図 コンクリート構造物 (2) (1/60)

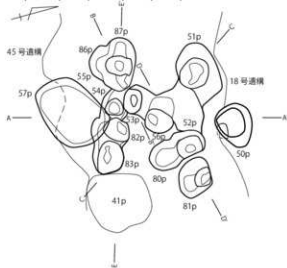


第35図 ビット (1) (1/40)

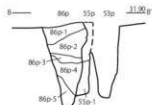
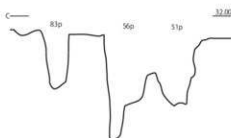


第36図 ビット(2)(1/40)

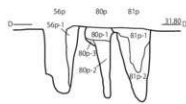
50p ~ 57p・80p ~ 83p・86p・87p



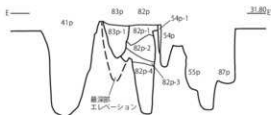
- 50p
- 109K2/3 黒褐色土層 粘性中～強、締り中～強、目1-2mmの石～土粒15%、目5-10mmの石～ムフツク15%を含む。
  - 109K3/4 黒褐色土層 粘性強、締り中～強、目1-2mmの石～土粒30%、目5-20mmの石～ムフツク20%を含む。
- 52p
- 109K2/3 黒褐色土層 粘性強、締り中～強、黒褐色土20%を含む、目2-3mmの石～土粒20%、目5-10mmの石～ムフツク15%を含む。
- 54p
- 109K2/3 黒褐色土層 粘性中～強、締り中～強、目2-3mmの石～土粒30%、目10mmの石～ムフツク15%を含む。
- 56p
- 109K2/2 黒褐色土層 粘性強、締り強、目1-3mmの石～土粒20%、目10-50mmの石～ムフツク15%を含む。
  - 109K2/3 黒褐色土層 粘性強、締り中～強、目2-3mmの石～土粒20%、目5-10mmの石～ムフツク15%を含む。
- 57p
- 109K2/2 黒褐色土層 粘性中～強、締り強、目1mm以下の小石～土粒10%、目5-10mmの石～ムフツク2%、目3-4mmの塊土粒を若干含む。



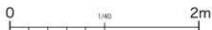
- 86p
- 109K2/3 黒褐色土層 粘性中～強、締り中～強、目1-4mmの石～土粒20%、目5-10mmの石～ムフツク15%を含む。
  - 109K2/4 黒褐色土層 粘性強、締り中～強、目1-2mmの石～土粒15%、目5mmの石～ムフツク10%、黒褐色土5%を含む。
  - 109K2/2 黒褐色土層 粘性強、締り強、目1-2mmの石～土粒15%を含む。
  - 109K4/6 褐色土層 粘性強、締り強、目1-2mmの石～土粒10%を含む。
  - 109K2/2 黒褐色土層 粘性強、締り中～強、目1mm以下の小石～土粒30%、目5mmの石～ムフツク15%を含む。
- 55p
- 109K2/3 黒褐色土層 粘性中～強、締り中～強、目1mm以下の小石～土粒10%、目5mmの石～ムフツク15%を含む。



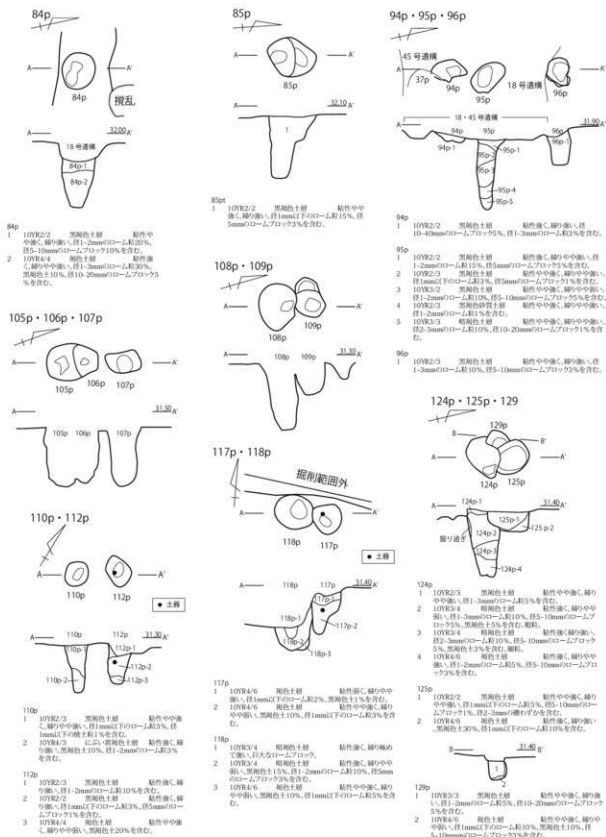
- 56p
- 109K2/2 黒褐色土層 粘性強、締り強、目1-3mmの石～土粒30%、目10-50mmの石～ムフツク15%を含む。
- 80p
- 109K2/2 黒褐色土層 粘性強、締り強、目1-2mmの石～土粒10%、目5mmの石～ムフツク15%を含む。
  - 109K2/3 黒褐色土層 粘性強、締り中～強、目1-2mmの石～ムフツク20%、目1-2mmの石～土粒10%を含む。
  - 109K3/4 褐色土層 粘性強、締り強、黒褐色土25%、目1mm以下の小石～土粒10%を含む。
- 81p
- 109K2/2 黒褐色土層 粘性強、締り強、目1-3mmの石～土粒15%を含む。
  - 109K3/4 黒褐色土層 粘性強、締り中～強、黒褐色土15%、目1-2mmの石～土粒10%、目5mmの石～ムフツク15%を含む。



- 82p
- 109K2/2 黒褐色土層 粘性強、締り強、目1-2mmの石～土粒10%、目5-10mmの石～ムフツク15%を含む。
  - 109K4/6 褐色土層 粘性強、締り強、目1-2mmの石～土粒2%、黒褐色土わずらを含む。
  - 109K2/3 黒褐色土層 粘性中～強、締り中～強、目1-3mmの石～土粒15%を含む。
  - 109K4/4 褐色土層 粘性強、締り中～強、目1-2mmの石～土粒5%、黒褐色土3%、目5mmの石～ムフツク15%を含む。
- 83p
- 109K2/2 黒褐色土層 粘性中～強、締り強、目1-3mmの石～土粒10%、目10-20mmの石～ムフツク15%を含む。

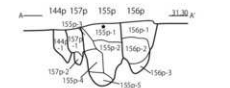
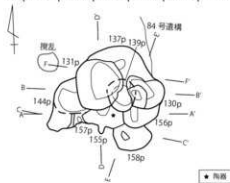


第37図 ビット (3) (1/40)



第38図 ビット (4) (1/40)

130p・131p・137p・139p・144p・155p～158p

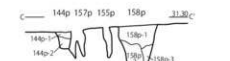


144p 10YR4/4 黒褐色土層 粘作土、粘り強い、径1-3mmのロームと細砂15%、径5-10mmのロームブロック10%を含む。

- 155p
- 10YR2/2 黒褐色土層 粘作土、粘り強い、径1-3mmのロームと粗砂10%、径5-10mmのロームブロック10%を含む。
  - 10YR2/3 黒褐色土層 粘作土、粘り強い、径2-3mmのロームと粗砂10%、径5-20mmのロームブロック10%を含む。
  - 10YR2/3 黒褐色土層 粘作土、粘り強い、径1-2mmのロームと粗砂15%、径20-40mmのロームブロックを含む。
  - 10YR2/3 黒褐色土層 粘作土、粘り強い、粘りの中強い、径1mm以下のローム粗砂10%、径30-50mmのロームブロック10%を含む。
  - 10YR2/4 黒褐色土層 粘作土、粘り強く、粘りの中強い、実質粗砂20%、径2-3mmのローム粗砂15%、径5mmのロームブロック10%を含む。

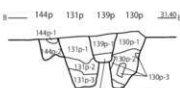
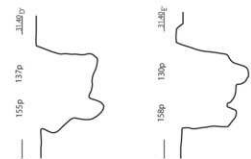
- 156p
- 10YR2/2 黒褐色土層 粘りの中強い、粘り強い、径1-2mmのローム粗砂10%、径2-3mmの粗砂10%を含む。
  - 10YR2/3 黒褐色土層 粘作土、粘り強く、粘り強い、径30mmのロームブロック10%、径1-3mmのローム粗砂20%を含む。
  - 10YR2/2 黒褐色土層 粘作土、粘り強く、粘りの中強い、径5mmのロームブロック10%、径1mm以下の粗砂10%を含む。

- 157p
- 10YR4/4 黒褐色土層 粘作土、粘り強い、径1-4mmのローム粗砂15%、径5-20mmのロームブロック10%、実質粗砂10%を含む。
  - 10YR4/6 黒褐色土層 粘作土、粘り強く、粘りの中強い、径1-2mmのローム粗砂15%、実質粗砂10%、径10mmのロームブロック10%を含む。



- 144p
- 10YR3/3 黒褐色土層 粘作土、粘り強い、径2-4mmのローム粗砂15%、径5-10mmのロームブロック10%を含む。
  - 10YR4/4 粘り強い土層 粘作土、粘り強い、径1-2mmのローム粗砂10%、径10-15mmのロームブロック10%、実質粗砂15%を含む。

- 158p
- 10YR3/3 粘り強い土層 粘作土、粘り強い、径1-2mmのローム粗砂15%、径5-20mmのロームブロック10%、径1mm以下の粗砂10%を含む。
  - 10YR4/4 粘り強い土層 粘作土、粘りの中強い、径1mm以下の粗砂10%、径5-30mmのロームブロック10%、実質粗砂10%を含む。
  - 10YR3/2 粘り強い土層 粘作土、粘り強い、径1-2mmのローム粗砂15%、径5mmのロームブロック10%を含む。

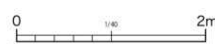


- 130p
- 10YR2/3 黒褐色土層 粘作土、粘り強い、径2-3mmのローム粗砂10%、径5mmのロームブロック2%、径1mm以下の粗砂10%を含む。
  - 10YR2/3 粘り強い土層 粘作土、粘り強い、径2-3mmの粗砂15%、径5-10mmのロームブロック10%を含む。
  - 10YR2/3 粘り強い土層 粘作土、粘りの中強い、径5-30mmのロームブロック10%、径1-4mmのローム粗砂15%を含む。
  - 10YR2/4 粘り強い土層 粘作土、粘りの中強い、径2-3mmのローム粗砂15%を含む。

- 131p
- 10YR2/3 黒褐色土層 粘りの中強い、粘り強い、径1-2mmのローム粗砂15%、径5-20mmのロームブロック10%、径1mm以下の粗砂10%を含む。
  - 10YR2/3 粘り強い土層 粘作土、粘り強い、径1mm以下のローム粗砂15%、径10mmのロームブロック10%を含む。
  - 10YR3/4 粘り強い土層 粘作土、粘りの中強い、径5-10mmのロームブロック20%、径1mm以下の粗砂10%を含む。

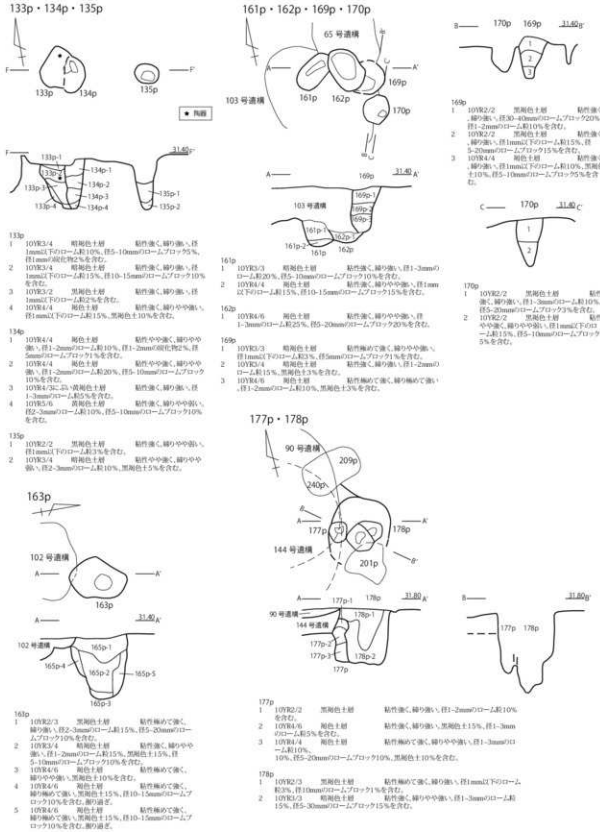
- 139p
- 10YR2/3 粘り強い土層 粘りの中強い、粘り強い、径2-3mmのローム粗砂10%、径5mmのロームブロック1%、径1mm以下の粗砂10%を含む。
  - 10YR2/3 粘り強い土層 粘作土、粘り強く、粘りの中強い、径1-3mmのローム粗砂15%、径5-10mmのロームブロック10%を含む。

- 144p
- 10YR4/6 黒褐色土層 粘作土、粘りの中強い、径2-3mmのローム粗砂10%、実質粗砂10%を含む。
  - 10YR2/3 粘り強い土層 粘作土、粘り強い、径1mm以下のローム粗砂15%を含む。



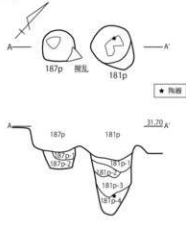
第39図 ビット (5) (1/40)





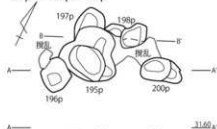
第40図 ビット (6) (1/40)

181p・187p



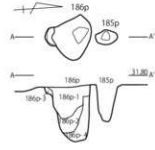
- 181p
- 1 1093C/2 黒褐色土層 黏性土、締り中強、径1-2mmの石と土層20%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 2 1093C/3 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-4mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 3 1093C/3 黒褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層15%、径5-20mmの石とムフロックが主を成す。
  - 4 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-2mmの石と土層15%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
- 187p
- 1 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り強、径1-3mmの石と土層10%、径1-3mmの埋石が主を成す。

195p~198p・200p



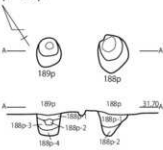
- 195p
- 1 1093C/3 黒褐色土層 黏性土、締り中強、径1-2mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 2 1093C/3 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-4mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
- 198p
- 1 1093C/3 黒褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層20%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 2 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-2mmの石と土層15%、径5-10mmの石と土層20%、径1-3mmの石と土層15%、径3-10mmの埋石が主を成す。
- 200p
- 1 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-2mmの石と土層15%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 2 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-3mmの石と土層15%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 3 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層15%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。

185p・186p



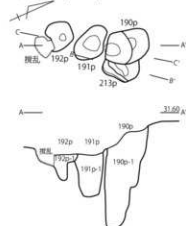
- 185p
- 1 1093C/3 黒褐色土層 黏性土、締り中強、締り強、径1-4mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 2 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-2mmの石と土層15%、径1-2mmの石と土層10%を成す。
  - 3 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層10%、黒褐色土10%を成す。
  - 4 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層15%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。

188p・189p

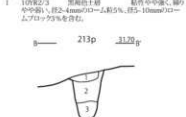


- 188p
- 1 1093C/3 黒褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層10%を成す。
  - 2 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-2mmの石と土層15%、径1-2mmの石と土層10%を成す。
- 189p
- 1 1093C/3 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-4mmの石と土層10%を成す。
  - 2 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-3mmの石と土層15%を成す。
  - 3 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-2mmの石と土層10%、黒褐色土15%を成す。
  - 4 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-2mmの石と土層15%を成す。

190p~192p・213p

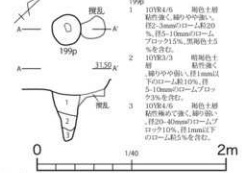


- 190p
- 1 1093C/3 黒褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-3mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。単層、ボリナ、埋石無し。
- 191p
- 1 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-2mmの石と土層10%、径3-4mmの石と土層10%を成す。
- 192p
- 1 1093C/3 黒褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-4mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。



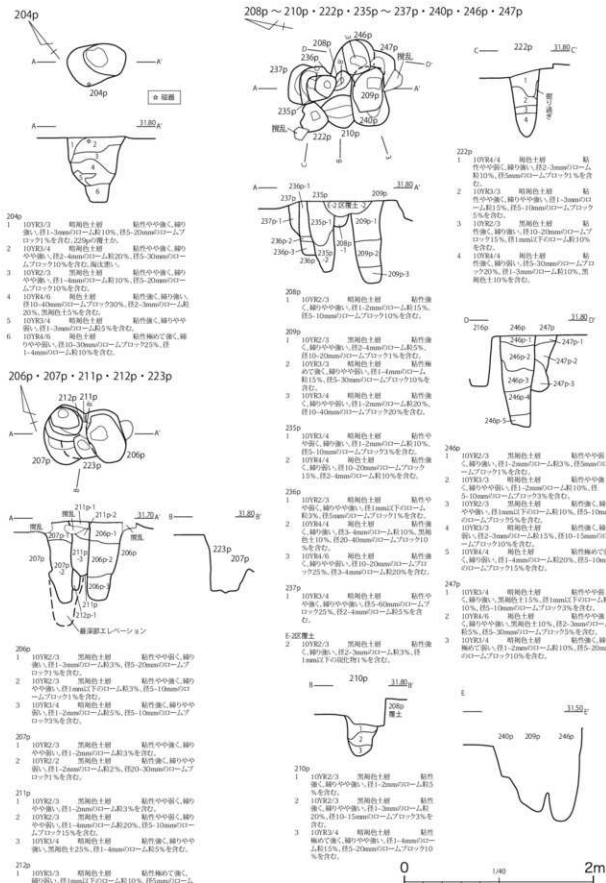
- 213p
- 1 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、締り中強、径1-2mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 2 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層10%、径10-15mmの石と土層10%を成す。
  - 3 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-4mmの石と土層25%、径1-4mmの石と土層20%を成す。

199p

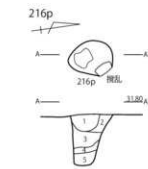


- 199p
- 1 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-2mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 2 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層10%、径5-10mmの石とムフロックが主を成す。
  - 3 1093C/4 暗褐色土層 黏性土、締り中強、径1-3mmの石と土層10%、径10-40mmの石と土層10%を成す。

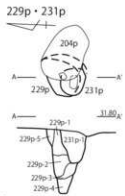
第41図 ビット (7) (1/40)



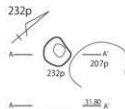
第42図 ビット(8)(1/40)



- 216p
- 1 10YR2/3 暗褐色土層 粘質中～強中～中強、目1mm以下コロム約5%、径5mmのコームフロック10%を含む。
  - 2 10YR3/3 暗褐色土層 粘質中～強中～中強、目1mm以下コロム約15%、径5-10mmのコームフロック10%を含む。
  - 3 10YR3/4 暗褐色土層 粘質中～強中～中強、目1mm以下コロム約10%、径5-10mmのコームフロック10%を含む。
  - 4 10YR2/2 暗褐色土層 粘質強、強中～中強い、目1-2mm/コロム約20%を含む。
  - 5 10YR4/6 褐色土層 粘質強、強中～中強い、径5-20mm/コロム約20%、目1-4mm/コロム約15%を含む。

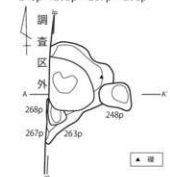


- 229p・231p
- 1 10YR2/3 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1mm以下コロム約10%、径5mmのコームフロック10%を含む。ローム層中強～強褐色土の互層。
  - 2 10YR3/3 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1mm以下コロム約15%、径5mmのコームフロック3%を含む。ローム層中強～強褐色土の互層。
  - 3 10YR2/2 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1-2mm/コロム約10%を含む。
  - 4 10YR4/6 褐色土層 粘質極めて強、目1-2mm/コロム約10%、径5-10mm/コロム約10%、黒褐色土も含む。
  - 5 10YR2/3 暗褐色土層 粘質中～中強、強中～中強、目1-2mm/コロム約5%を含む。

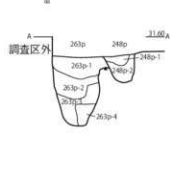


- 232p
- 1 10YR2/4 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1-2mm/コロム約15%、径5mmのコームフロック10%を含む。
  - 2 10YR2/3 暗褐色土層 粘質中～中強、強中～中強、目1mm/コロム約5%、径2-10mm/コロム約3%を含む。
  - 3 10YR4/4 褐色土層 粘質強、強中強、目1-2mm/コロム約20%、径5-10mm/コロム約10%を含む。

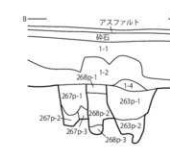
248p・263p・267p・268p



- 248p
- 1 10YR2/2 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1-2mm/コロム約5%、径5mm/コロムフロック10%を含む。
  - 2 10YR4/6 褐色土層 粘質強、強中強、目1mm以下コロム約15%、径5-10mm/コロムフロック3%を含む。



- 263p
- 1 10YR3/4 暗褐色土層 粘質中～中強、強中強、目1-2mm/コロム約10%、径5-10mm/コロムフロック10%を含む。
  - 2 10YR2/3 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1-2mm/コロム約5%、径1-3mm/コロム約3%を含む。
  - 3 10YR4/6 褐色土層 粘質極めて強、強中～中強、目1-4mm/コロム約15%、径5-30mm/コロムフロック10%を含む。
  - 4 10YR4/6 褐色土層 粘質極めて強、強中～中強、目1-4mm/コロム約15%、径5-30mm/コロムフロック10%を含む。

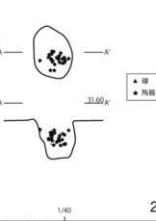
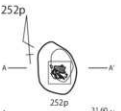


- 267p
- 1 10YR2/3 暗褐色土層 粘質中～中強、強中～中強、目1-4mm/コロム約5%、径5-15mm/コロムフロック10%を含む。
  - 2 10YR4/6 褐色土層 粘質中～中強、強中～中強、目1-2mm/コロム約10%、径5-10mm/コロムフロック10%、黒褐色土5%を含む。
  - 3 10YR4/6 褐色土層 粘質強、強中強、目1-2mm/コロム約10%、径20-40mm/コロムフロック10%、黒褐色土10%を含む。黒リ顔面?

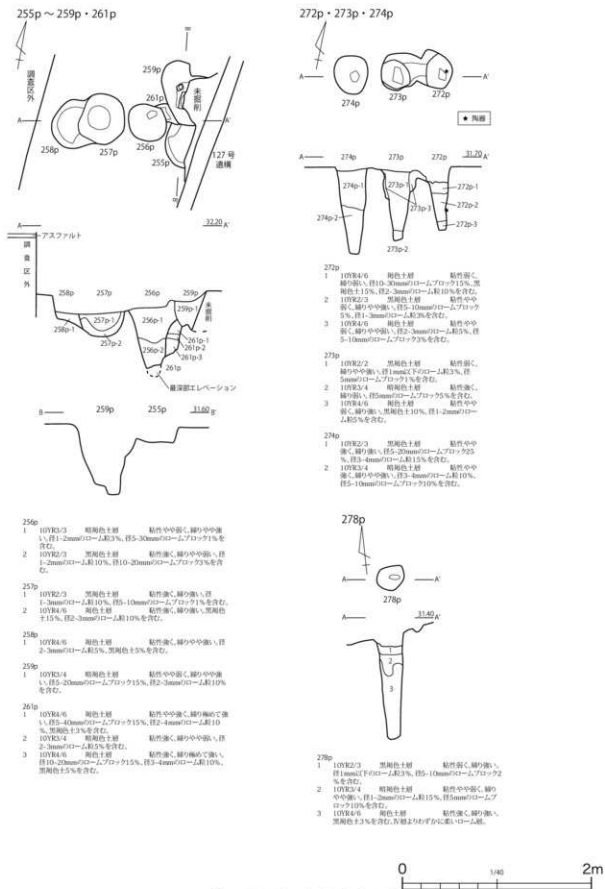


- 268p
- 1 10YR2/3 暗褐色土層 粘質中～中強、強中～中強、目1-3mm/コロム約3%を含む。
  - 2 10YR2/3 暗褐色土層 粘質中～中強、強中～中強、目1-2mm/コロム約10%、径10-20mm/コロムフロック10%を含む。
  - 3 10YR2/3 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1mm以下コロム約20%、径20-40mm/コロムフロック10%を含む。

- E-1a 隠層
- 1 10YR2/4 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1mm以下コロム約10%、径20-40mm/コロムフロック10%、径10-20mm/コロムフロック10%を含む。
  - 2 10YR2/3 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1-2mm/コロム約5%、径1-3mm/コロム約3%を含む。
  - 3 10YR2/3 暗褐色土層 粘質強、強中強、目1-2mm/コロム約5%、径1-3mm/コロム約3%を含む。
  - 4 10YR2/3 暗褐色土層 粘質中～中強、強中～中強、目1-2mm/コロム約10%、径10-20mm/コロムフロック10%を含む。



第 43 図 ピット (9) (1/10・1/40)



第44図 ピット(10) (1/40)









## IV 遺構と遺物

層位	範囲	陶器		土器		瓦	石	骨角製品	銅製品	有	石製・石製品	漆	金属製品	シロコ	電磁器	合計	種類
		点数/重量 (g)	点数/重量 (g)	点数/重量 (g)	点数/重量 (g)												
76		1	0.9													1	0.9
77	3	14.0	4	52.1	2	13.0										9	81.1
78		1	3.5	1	16.8											2	19.3
79	10	32.4	51	448.1	30	217.0	9	192.2					9	26.3		100	910.0
80	5	37.4	23	127.1	15	40.2	3	92.8					14	21.7		60	309.2
81	1	1.8	1	4.6												2	6.4
82		4	27.1	2	15.6											6	42.7
83	2	15.9	9	39.0	6	6.6							3	4.9		20	66.4
84																0	0.0
85																0	0.0
86																0	0.0
87	1	7.2	6	52.9	1	1.0										8	61.1
88	2	9.1	12	121.5												14	130.6
89																0	0.0
90	3	11.4		1	31.1	1	56.0	2	26.2							7	118.7
91																0	0.0
94		2	60.5										1	未詳		3	60.5
95																0	0.0
98		2	5.3													2	5.3
97	2	16.1	3	14.3	1	1.2										6	31.6
98	2	85.1		2	27.5	1	57.8			付中2枚						5	170.4
99																0	0.0
100																0	0.0
101																0	0.0
102		1	81.2													1	81.2
103																0	0.0
104	4	34.7	15	750.1	21	471.7	111	7970.0					19	534.6		170	9761.1
105	3	501.5	187	30792.1	3	88.4	5	1120.0	9	449.8			1	3440.0		1	1245.0
106		2	11.0													2	11.0
107																0	0.0
108	1	1.2	5	84.5									1	1.8		7	87.5
109	1	0.5														1	0.5
110	17	134.2	27	205.8	18	163.2	28	1290.0	2	5.8			14	173.9		106	1829.0
111		1	2.6										1	0.8		2	3.4
112		1	11.3	1	6.2	4	200.0									6	217.5
113	1	2.3	7	51.0	2	3.3							1	2.0		11	58.6
114	2	2.2	3	8.6	1	6.1										6	16.9
115																0	0.0
116																0	0.0
117		1	3.4	1	1.6								2	7.4		4	12.4
118				1	3.2											1	3.2
119																0	0.0
121	13	164.1	20	302.4	9	77.0	1	12.0					4	11.7		47	597.2
122	1	31.7											1	13.5		2	45.2
123	2	38.8	7	90.1	12	161.8										21	280.7
124		6	148.7										52	891.3		58	1040.0
125	52	393.0	47	594.5	16	130.7	84	3800.0	7	43.4			11	283.9		83	538.3
126	50	868.4	21	4375.3	73	1344.7	1	480.0	18	931.6			1	1.4		4	154.5
127	16	87.8	9	251.0			3	1880.0	8	553.1						4	439.0
128	3	6.2	4	25.8	4	16.2										11	43.2
129	2	26.3	3	9.7	1	1.8							1	0.7		7	38.5
130	2	5.0	5	94.2												7	99.2
131		2	5.1													2	5.1
132	1	3.0	3	20.5												4	23.5
133	1	5.0														1	5.0
135		4	9.6	1	2.3											5	11.9
136																0	0.0
137																0	0.0
138																0	0.0
139	9	159.0	8	197.1	3	59.8	8	200.0	8	38.6			72	228.2		1	54.3
140																100	937.0
141																0	0.0
142																0	0.0
143	1	3.3	1	65.8												2	69.1
144	1	3.3		1	17.3											2	20.6







遺構番号	調査年度	位置	平面形状	上層(m) 長径×短径	下層(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	構造高(m)	構造出	年代	備考	採回	写真
229p	E-2	Q-15	櫛形	0.41×0.34	0.15×0.08	0.50	N27°E	31.67	2面	不明			
229r	E-2	P-14	不整櫛形	0.45×0.35	0.12×0.10	0.29	N26°W	31.41	2面	遺址以降			
229s	E-2	P-13	櫛形	(0.29×0.23)	0.15×0.08	0.49	N4°W	31.62	2面	遺址以降			
229t	E-2	P-14	櫛形	(0.42×0.34)	0.08×0.05	0.68	-	31.63	2面	遺址以降		43	18
230p	E-2	P-14	不整櫛形	0.40×0.34	0.09×0.08	0.58	N82°W	31.66	2面	遺址以降			
231p	E-2	P-14	櫛形	(0.29×0.26)	0.14×0.08	0.35	N84°W	31.65	2面	遺址以降		43	18
232p	E-2	Q-14	不整櫛形	0.30×0.28	0.15×0.12	0.93	-	31.71	2面	遺址以降		43	
233p	E-2	Q-14	櫛形	0.34×0.31	0.12×0.12	0.37	N20°E	31.46	2面	遺址以降			
234p	E-2	Q-14	櫛形	0.25×0.19	0.10×0.08	0.17	N12°W	31.55	2面	遺址以降			
235p	E-2	P-14	櫛形	0.29×0.28	0.07×0.06	0.76	-	31.65	2面	遺址以降		42	18
236p	E-2	P-14	不整櫛形	0.45×0.10	0.24×0.08	0.57	-	31.65	2面	遺址以降		42	18
237p	E-2	P-14	櫛形	0.43×0.12	(0.23×0.03)	0.35	-	31.65	2面	遺址以降		42	18
238p	E-2	P-14	不整櫛形	0.48×0.38	0.15×0.08	0.62	-	31.59	2面	遺址以降			
240p	E-2	P-14	正方形	0.38×0.17	(0.13×0.07)	0.33	-	31.13	2面	不明		42	18
242p	E-2	P-Q-14	櫛形	(0.55×0.44)	0.16×0.06	0.46	-	31.63	2面	遺址以降			
243p	E-2	P-14	櫛形	(0.19×0.02)	(0.14×0.11)	0.41	-	31.58	2面	遺址以降			
244p	E-2	P-14	櫛形	0.43×0.30	0.17×0.04	0.20	N42°W	31.32	2面	不明			
245p	E-2	P-14	櫛形	0.33×0.28	0.13×0.06	0.24	N82°E	31.30	2面	不明			
246p	E-2	P-14	櫛形	(0.36×0.26)	0.18×0.10	0.97	-	31.63	2面	遺址以降		42	18
247p	E-2	P-14	櫛形	(0.23×0.17)	(0.15×0.12)	0.59	-	31.63	2面	遺址以降		42	18
248p	E-1a	R-10	不整櫛形	0.34×0.29	0.18×0.17	0.20	N89°W	31.42	2面	遺址以降		43	
249p	E-1a	S-9-10	櫛形	0.47×(0.20)	(0.22×0.04)	0.69	-	31.58	2面	遺址以降			
250p	E-1a	Q-9	不整櫛形	(0.48×0.40)	0.08×0.08	0.39	N10°W	31.52	2面	近世?			
251p	E-1a	R-9-10	円形	(0.44×0.14)	(0.20×0.02)	0.62	-	31.50	2面	遺址以降			
252p	E-1a	Q-9-10	櫛形	0.57×0.40	0.35×0.24	0.43	N13°W	31.42	2面	近世 17世紀後半		43	18
253p	E-1a	R-9-10	円形	0.27×0.27	0.15×0.12	0.35	-	31.48	2面	遺址以降			
254p	E-1a	Q-10	櫛形	0.39×0.31	0.22×0.10	0.35	N2°E	31.67	2面	不明			
255p	E-1a	R-10	櫛形	(0.44×0.25)	(0.40×0.24)	0.15	-	31.44	2面	近世		44	
256p	E-1a	R-10	櫛形	0.43×0.38	0.10×0.09	0.80	N66°W	31.41	2面	遺址以降		44	18
257p	E-1a	R-10	不整櫛形	0.54×0.49	0.26×0.24	0.25	-	31.27	2面	遺址以降		44	18
258p	E-1a	R-9-10	不整櫛形	0.50×0.29	0.40×0.34	0.19	-	31.27	2面	遺址以降		44	
259p	E-1a	R-10	櫛形	0.68×(0.48)	(0.12×0.03)	(0.75)	-	31.48	2面	遺址以降		44	18
260p	E-1a	R-10	櫛形	0.39×0.31	0.06×0.05	0.40	N77°E	31.66	2面	遺址以降			
261p	E-1a	R-10	櫛形	(0.21×0.10)	(0.14×0.04)	0.40	-	31.20	2面	遺址以降		44	
262p	E-1a	Q-9-10	櫛形	0.47×0.40	0.34×0.24	0.36	N19°E	31.48	2面	遺址以降			
263p	E-1a	R-9-10	不整櫛形	0.87×(0.68)	0.26×0.18	0.72	-	31.38	2面	近世			
264p	E-1a	S-10	櫛形	0.36×0.36	0.24×0.08	0.65	N19°E	31.36	2面	不明		43	18
265p	E-1a	R-S-10	櫛形	0.36×0.30	0.19×0.09	0.45	-	31.50	2面	遺址以降			
266p	E-1a	Q-10	櫛形	0.30×0.26	0.17×0.06	0.54	N21°E	31.63	2面	不明			
267p	E-1a	R-9	円形	-	(0.12×0.02)	0.45	-	31.50	2面	遺址以降		43	
268p	E-1a	R-9-10	櫛形	(0.29×0.18)	(0.15×0.10)	0.53	-	31.50	2面	遺址以降		43	
269p	E-1a	Q-10	櫛形	0.28×0.18	0.09×0.07	0.46	N71°W	31.32	2面	遺址以降			
270p	E-1a	Q-10	櫛形	0.21×0.15	0.11×0.09	0.41	-	31.31	2面	遺址以降			
271p	E-1a	Q-10	櫛形	(0.33×0.25)	0.18×0.10	0.15	-	31.31	2面	遺址以降			
272p	E-1b	Q-13	櫛形	0.37×0.27	0.14×0.08	0.67	-	31.60	2面	遺址以降		44	
273p	E-1b	Q-13	櫛形	0.40×0.30	0.19×0.11	0.75	-	31.57	2面	遺址以降		44	
274p	E-1b	Q-13	櫛形	0.42×0.36	0.11×0.09	0.90	N39°W	31.58	2面	遺址以降		44	
275p	E-1b	R-13	櫛形	0.28×0.26	0.16×0.11	0.25	N68°W	31.51	2面	遺址以降			
276p	E-1b	Q-13	櫛形	(0.38×0.25)	0.10×0.09	0.59	-	31.56	2面	遺址以降			
277p	E-1b	Q-13	不整櫛形	0.28×0.22	0.14×0.08	0.45	N58°W	31.59	2面	不明			
278p	E-1b	Q-12+13	櫛形	0.31×0.26	0.11×0.04	1.06	N58°E	31.18	2面	遺址以降			
279p	E-1b	R-13+14	正方形	0.32×0.26	0.12×0.10	0.59	N32°E	31.50	2面	不明			
280p	D-1	W-4	櫛形	(0.59×0.26)	(0.21×0.20)	0.29	-	31.15	2面	遺址以降			

第6表 ビット出土遺物一覧表

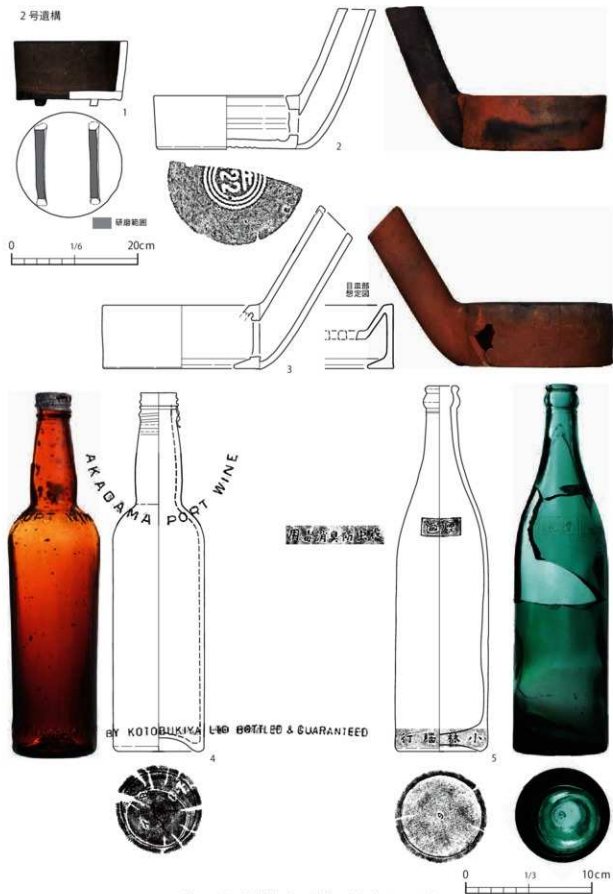
遺物 番号	銅器 点数/重量 (g)	陶器 点数/重量 (g)	土器 点数/重量 (g)	瓦 点数/重量 (g)	ガラス製品 点数/重量 (g)	石製・石製品 点数/重量 (g)	金属製品 点数/重量 (g)	合計 点数/重量 (g)	掲載 遺物
1p		1 57.8			1 0.6			2 58.4	
2p			2 0.8					2 6.8	
44p	1 4.6							1 4.6	
112p			1 1.6					1 1.6	
117p		1 29.7						1 29.7	
127p		2 2.6				1 2.0		3 4.6	
128p		1 12.8						1 12.8	
133p		1 1.1						1 1.1	
140p	1 0.3	5 24.0	3 4.4					9 28.7	
151p		1 122.3						1 122.3	
155p		1 5.2						1 5.2	
181p		1 25.7						1 25.7	
204p	1 7.9							1 7.9	
218p				1 30.0				1 30.0	
219p				1 310.0				1 310.0	
249p	1 5.0							1 5.0	
250p			3 10.0		1 28.7		1 未計測	5 38.7	
252p		34 1114.0				1 780.0		35 1894.0	○
255p	1 1.5	2 7.1						3 8.6	
256p		2 3.8						2 3.8	
262p		1 30.0						1 30.0	
263p		2 13.2	2 16.2			1 49.8		5 79.2	
272p		1 25.7						1 25.7	

第7表 一括出土・合計遺物一覧表

遺物 番号	銅器 点数/重量 (g)	陶器 点数/重量 (g)	土器 点数/重量 (g)	瓦 点数/重量 (g)	ガラス製品 点数/重量 (g)	石製・石製品 点数/重量 (g)	金属製品 点数/重量 (g)	レンガ 点数/重量 (g)	電磁石 点数/重量 (g)	合計 点数/重量 (g)	掲載 遺物			
D-1 Ⅸ	80 1,637.6	89 1,388.3	47 1,000.8	30 4,405.6	9 796.9				7 406.5		262 6,637.7	○		
B-2 Ⅸ	12 101.8	9 66.3	7 87.0						1 9.9		29 265.0			
D-1 Ⅹ	4 76.1	8 822.2	4 133.1	4 530.7					1 33.5		27 1,365.6			
D-4 Ⅸ	38 348.8	11 77.3	3 27.2	5 288.0	6 649.0	1 6.1	1 1.9		1 42.5		66 1,449.8	○		
D-5 Ⅸ	4 62.0	21 760.2	25 401.4	7 7,128.0	4 58.0		1 90.0				62 8,499.6	○		
F-6 Ⅸ	21 116.5	11 124.4	7 42.5	2 190.0	1 17.1				1 3.1		43 493.6	○		
F-8 Ⅸ	103 2,195.1	68 3,187.7	9 2,087.7	24 3,130.0	26 1,336.3			1 228.8	12 133.4		243 12,225.3	○		
F-1 Ⅸ											1 未計測	○		
E-2 Ⅸ	180 1,963.7	202 8,152.6	107 2,675.1	55 5,020.0	39 1,757.2	6 5.3	2 185.5		143 2,862.4	7 139.6	3 51.0	744 35,258.8	○	
F-1 Ⅸ	102 2,786.8	72 6,059.7	81 3,633.3	142 165,090.0	59 1,532.3	2 1.7	2 27.2		32 33,303.4	2 77.1	1,773 215,711.5	○		
E-2 Ⅸ	102 3,677.7	41 1,204.0	13 334.0	14 2,540.0	14 103.8				6 60.3			192 7,988.8	○	
合計	1,986 43,992.2	2,148 83,392.2	1,051 55,493.2	21,861 248,672.2	403 27,033.1	4 40.7	40 735.5	13 179.7	1 42.8	968 61,963.3	16 31,281.0	75 1,841.0	38,279 238,286.8	



第45図 遺構出土の遺物 (1) (1/1・1/3)



第46図 遺構出土の遺物 (2) (1/3・1/6)

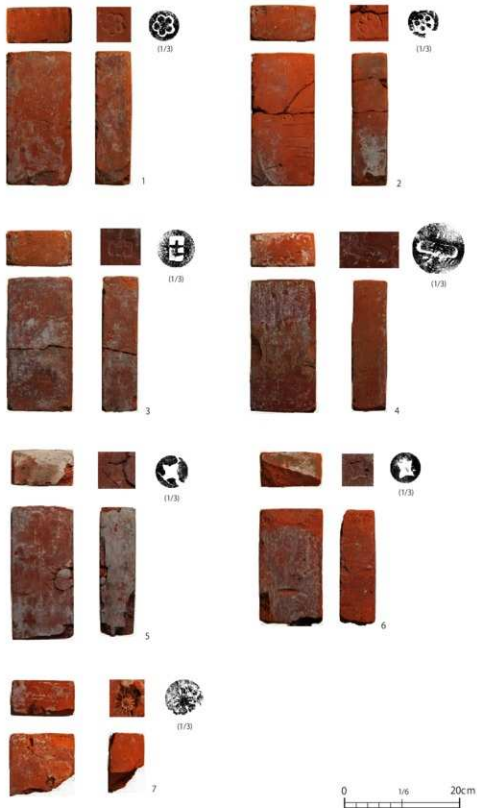




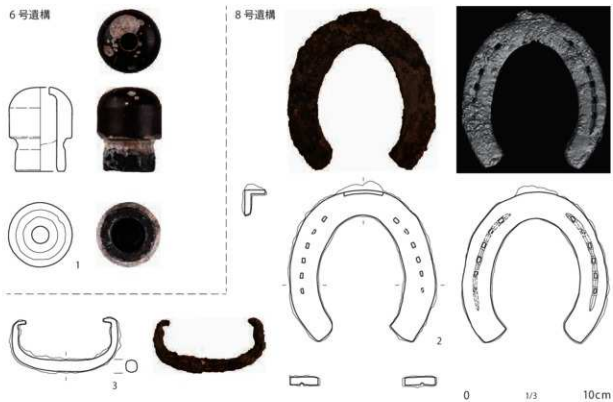
第47図 遺構出土の遺物 (3) (1/3)



3号遺構



第49図 遺構出土の遺物 (5) (1/3・1/6)

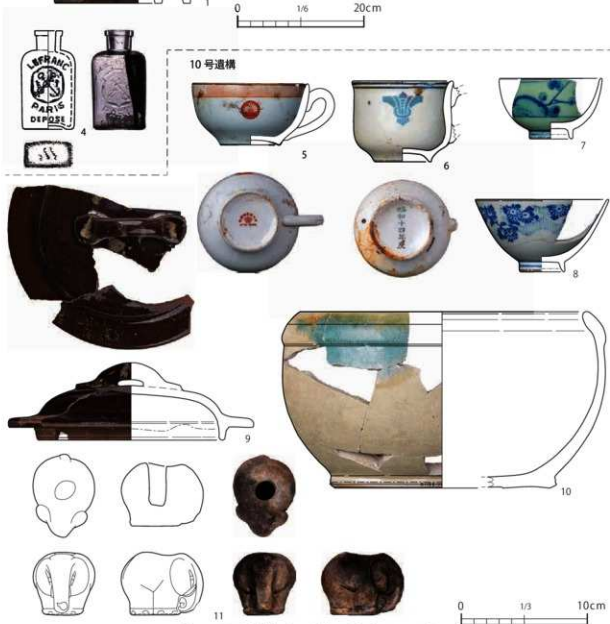


9号遺構



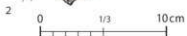
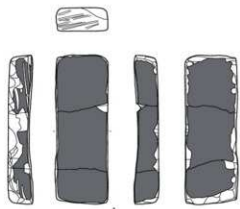
第50図 遺構出土の遺物 (6) (1/3・1/6)

9号遺構

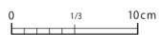


第51図 遺構出土の遺物 (7) (1/3・1/6)

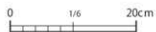
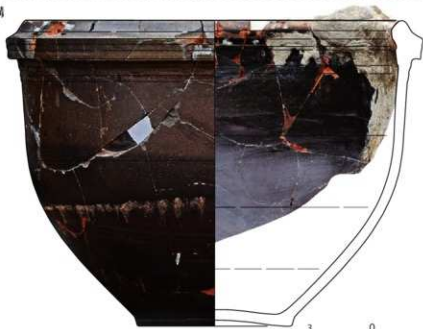
10号遺構



17号遺構



14号遺構

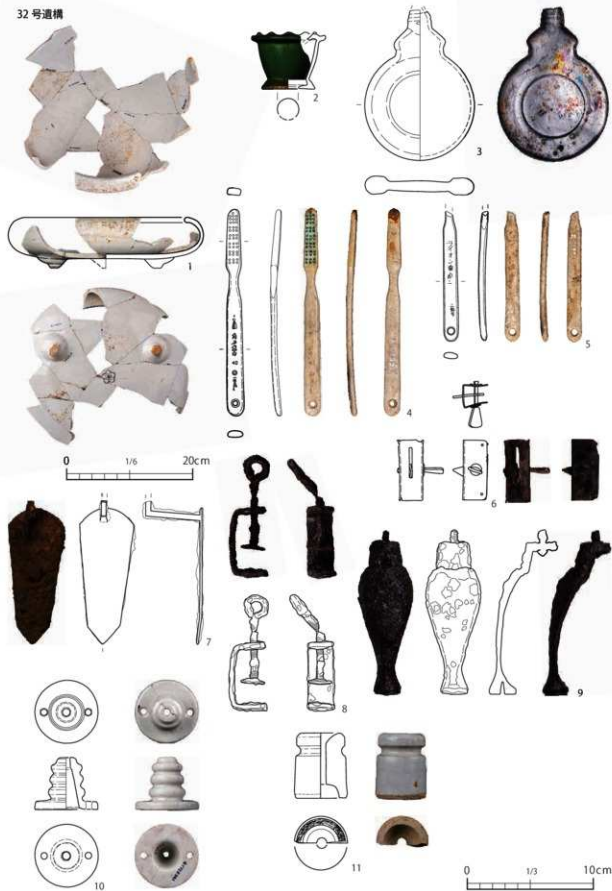


第52図 遺構出土の遺物(8) (1/3・1/6)



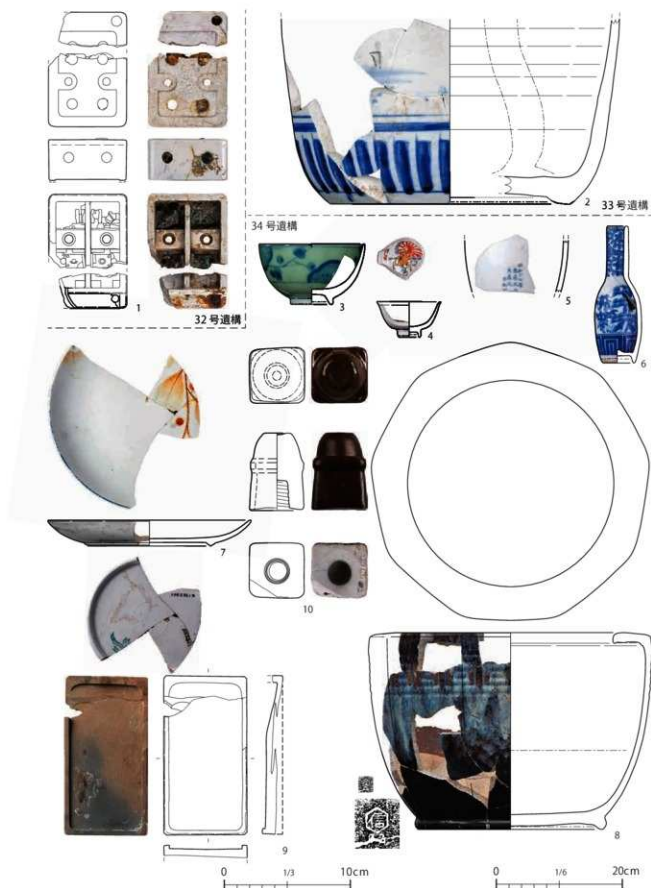
第53図 遺構出土の遺物 (9) (1/3)

32号遺構



第54図 遺構出土の遺物 (10) (1/3・1/6)





第55図 遺構出土の遺物 (11) (1/3・1/6)



第56図 遺構出土の遺物 (12) (1/3・1/6)



第57図 遺構出土の遺物 (13) (1/3・1/6)



第58図 遺構出土の遺物 (14) (1/1・1/3・1/6)



第59図 遺構出土の遺物 (15) (1/1・1/3)



127号遺構



126号遺構



第60図 遺構出土の遺物 (16) (1/3・1/6)



第 61 図 遺構出土の遺物 (17)・遺構外出土の遺物 (1) (1/3・1/6)



第62図 遺構外出土の遺物 (2) (1/1・1/3)





第 63 図 遺構外出土の遺物 (3) (1/1・1/3・1/6)





国名	品名	通関名	種類	高標	法標 (cm)			重量 (g)	成	
					a	b	c			
								成：成印 調：調整 文：文線 形：形飾 飾：飾土 材：材質 飾：裝飾 産：産地 版等 時：時代 型：型式 産：産地生産地 備：備考		
48	10	F2	3号	銅製品	線輪	2.8	2.8	1.0	3.0	成：プレスウ、孔部押出 材：真鍮 (Cu76.6%, Zn22.6%, Pb0.5%, Sn0.3%) 備： 48国目の本体飾
48	11	F2	3号	銅製品	線輪	1.9	6.3	6.0	13.0	成：押し型 飾：外面スクリーニング 材：真鍮 (Cu64.4%, Zn31.9%, Pb2.4%, Sn1.3%) 飾：型打開閉 (人工物) 備：48国目の線部
49	1	F2	3号	レンガ	壁型	11.9	23.2	6.1	4262.0	成：手取 飾：2.5YR5/8赤褐色 飾：刷印 (乾草文) 時：19C4/4～20C1/4 産： 小呂宋産 備：3号道横レンガ積構成材
49	2	F2	3号	レンガ	壁型	11.0	23.3	6.2	4268.0	成：手取 飾：2.5YR5/8赤褐色 飾：刷印 (乾草文) 時：19C4/4～20C1/4 産： 小呂宋産 備：3号道横レンガ積構成材
49	3	F2	3号	レンガ	壁型	11.0	23.5	6.3	4280.0	成：手取 飾：10R6/8赤褐色 飾：刷印 (長方形内に「七」) 産：不明 備：3号道 横レンガ積構成材
49	4	F2	3号	レンガ	壁型	11.6	23.0	6.0	4251.0	成：手取 飾：10R5/8赤褐色 飾：刷印 (楕円形内に「十一」) 産：不明 備：3号道 横レンガ積構成材
49	5	F2	3号	レンガ	壁型	10.9	23.0	6.3	4221.0	成：手取 飾：10R6/4に赤い赤褐色 飾：刷印 (四芒星状) 産：不明 備：3号道 横レンガ積構成材
49	6	F2	3号	レンガ	壁型	11.0	20.3	6.4	1990.0	成：手取 飾：2.5YR5/8赤褐色 飾：刷印 (四芒星状) 産：不明 備：3号道横レ ンガ積構成材
49	7	F2	3号	レンガ	壁型	11.1	10.8	6.1	800.0	成：手取 飾：10R6/8赤褐色 飾：刷印 (放射状) 時：19C末 産：横浜煉瓦製造 会社 備：3号道横レンガ積構成材
48	12	F2	5号	磁器	小皿	10.8	2.7	4.6	92.6	成：型成 飾：手取 飾：手面 (内底面凹線付 (コア5.6ト輪、丸 松葉?)、手端1.2 (丸・松、松葉?)、底面高内面内打開閉線 (規、205)、ゴム印 (丸、 丸に「市」/「27341」) 時：1940年代前半 産：手造り
48	13	F2	6号	磁器	湯たんぽ	18.2	9.6	9.3	3348.0	飾：内白色 飾：ゴム印染付 (コア5ト輪、華唐草文、圓周中央に型による陽刻 (花?)、 底面に底面凹線付 (水取用付))
50	1	F2	6号	磁器製品	電気部品	4.9	6.6	3.8	171.0	成：型成 飾：2.5YR5/8赤褐色 飾：下部がぼやちり1面が段状の形状 飾：内外面上 半部魚輪、内外面下部凹線 時：近代以降 産：刷子
50	2	F2	8号	鉄製品	脚鉄	11.7	12.7	0.9	277.0	成：鍛造、打穴穿孔 飾：前面に鉄線あり 材：鉄
50	3	F2	8号	鉄製品	引手	8.9	4.5	0.9	40.0	成：鍛造? 材：鉄 備：磁漆の引手 (磁子)
50	4	F2	9号	土器	火鉢	28.6	32.2	25.6	7800.0	飾：10YR1/1黒色、鐵砂粒・微小内嵌・長石・雲母片 飾：口内縁部→外面底部黒色染付、 外面縁部染付 (横凹線文・松木・丸・松、横凹線付・竹・松・輪の丸・七芒・白目?) 高弁、「青松赤魚骨目?」青褐色)、外面縁部赤色染料染付、体部下四方に横凹線付、 皿?、2.5mm幅、内部に51国1が収まる性能あり
51	1	F2	9号	土器	七輪	22.4	17.7	16.8	6220.0	成：型成形 (含むわ?) 飾：10YR7/2に赤い赤褐色、鐵砂粒・微小内嵌・長石・雲母片 飾： 内外面凹線付後に底面に凹線部高弁穿孔、外面縁部部分に赤色染付 産：内面上 半部凹線無くなる赤染 備：丸型、体外部に嵌合部、内部に51国2が収まる可能 性あり
51	2	F2	9号	土器	七輪	22.0	13.7	18.8	2060.0	成：型成形 (含むわ?) 飾：10YR7/2に赤い赤褐色、鐵砂粒・微小内嵌・雲母目立つ 外面縁部に様式工具による凹線部付 既施2条→既施内面に施された金線部付、外面口縁 部→口内縁部黒色染付 産：内面底部→底部→外面底部染付 備：丸型、内部に51国3 が収まる性能あり
51	3	F2	9号	土器	日皿	13.3	3.6	10.0	6277.0	成：型打 飾：7.5YR5/8明褐色、鐵砂粒・微小内嵌・雲母目立つ 飾：外面体部窪内 面に施した鉄線1条付着 産：内面底部黒染 備：型打品
51	4	F2	9号	ガラス製品	瓶	2.7	7.8	3.6	49.4	成：吹成 材：無色透明 飾：両面型打開閉 (LEFRANC、円形の枠内に「L」、縦七 直線と横線を組み合わせたマーク、「P」、PARIS、DEPOSE)、底面型打開閉 (GL / 35?) 産：青褐色、埋込した内容物残存、容量約40ml 飾：外面口縁部手摺染付開閉 (朱)、染付 (朱)、ゴム印染付開閉 (朱)、外面体部ア クリル染付 (朱、円内に鉄輪?「弘」、外面高内面プリント部「名古屋製陶會社」/「江 注のマーク」/「MF (注か) ITO CHINA」 備：ティールップ、52国5と似た、製造 品
51	5	F2	10号	磁器	小碗	9.1	4.9	4.6	147.0	成：コクロ 飾：外面口縁部手摺1線凹線、外面体部ゴム印嵌合 (平線?)、外面 高内面口印線「昭和十四年度」 備：ティールップ (徳字火丸)
51	6	F2	10号	磁器	小碗	7.9	6.4	4.4	191.0	飾：内外面ケラム青磁地に手摺染付 (コア5ト輪、輪)、高台手摺染付二重線部 産： 差漆 備：高台内白磁
51	7	F2	10号	磁器	小碗	8.0	4.8	3.2	70.3	調：高台部外面面取付 飾：外面体部ゴム印染付 (コア5ト輪、輪?)、体部下方～高 弁部凹線付 (凹線部 飾：20C2/4前半 備：長弁部分無目輪)
51	8	F2	10号	磁器	小碗	10.5	5.7	3.4	63.5	調：高台部外面面取付 飾：外面体部ゴム印染付 (コア5ト輪、輪?)、体部下方～高 弁部凹線付 (凹線部 飾：20C2/4前半 備：長弁部分無目輪)
51	9	F2	10号	磁器	覆面	19.4	6.1	14.6	623.0	調：高台部外面面取付 飾：10YR8/4灰白色 飾：外面体部→内面底部凹線、外面 口縁部線部輪化線取付、高台部無輪 備：内面底部約10mm前後目輪、外面底部約 30mm前後目線部
51	10	F2	10号	陶器	鉢	23.6	14.0	17.0	6906.0	調：丸蓋取付有蓋式工具か 飾：成 (背面に不規則柱状のくぼみあり) 飾：10YR8/6 明褐色 飾：丸・鉄輪、輪と重さか
52	1	F2	10号	石製品	砥石	8.4	23.6	4.0	1473.0	成：上磁面・左側面に磨製 調：差・左側面凹線 材：燧灰岩? 産：差・右側面凹線部 飾、被熱後破損 備：砥紙、仕上砥
52	2	F2	10号	磁器製品	磁製印金	4.5	5.3	0.9	9.0	成：型成形 (表裏面毎日目) 調：断面三角形の欄干状で目立つ 飾：灰白色輪 時： 近代 (1940年代前半) 備：近代陶器
52	3	F2	14号	陶器	甕	59.6	48.3	24.4	26600.0	飾：外面体部中央に凹線部付 飾：近代 産：差漆 備：外面体部中央に凹線部 凹線部の垂れ染部、内面体部→口内縁部部分にモタタ付着、石灰の付着ははれられない が接合部
52	4	F2	17号	磁器	小碗	10.4	5.4	3.6	62.1	飾：輪花 飾：外面凹線口ケラム青磁地に体部手摺染付片立文、口内口縁、内面口縁部 凹染付 (コア5ト輪、手摺・青褐色)、見込み二重線部内に埋込した水 備：高台内白 磁
52	5	F2	17号	磁器	小碗	9.1	5.1	4.6	65.1	飾：外面口縁部手摺染付開閉 (朱)、染付 (朱)、ゴム印染付開閉 (朱)、外面体部ア クリル染付 (朱、円内に鉄輪?「弘」、外面高内面プリント部「名古屋製陶會社」/「江 注のマーク」/「MF (注か) ITO CHINA」 備：ティールップ、51国5と似た、被熱 により染付の赤色が部分的に褪色、鉄道引嵌合と関連?



図番	図名	遺構名	種別	高標	法長(cm)			重要級	成・成形 調・調整 文・文様 形・形態 彫・彫刻 材・材質 装・裝飾 産・使用 級等 時・時代 型・型式 産・産定産地 産・産者
					a	b	c		
56	2-F1	40号	磁器	小瓶	10.4	5.5	3.8	(47) 成・成形 調・調整 文・文様 形・形態 彫・彫刻 材・材質 装・裝飾 産・使用 級等 時・時代 型・型式 産・産定産地 産・産者	
56	3-F1	40号	磁器	中瓶	12.5	6.4	6.0	(169) 調・高台内外面取付 飾・土呂印・手摺突付(コバルト軸・山・帆形並と舟・桜園山水文?)・手摺二重彫刻。コバルト軸付文・手摺彫刻。高台手摺二重彫刻	
56	4-F1	40号	陶器	急須	6.5	7.0	6.1	(115) 成・ロクロ 飾・口縁部手摺上総彫刻(文)。胴部アクリン上総(花文文)。胴部下方手摺上総二重彫刻。底部無輪。足込み手摺上総彫刻(文)。フジント上総(花文文)	
56	5-F1	40号	陶器	飯印	8.4	4.9	6.3	(78) 成・ロクロ 飾・灰輪・手摺突付(葉)・手摺上総(扇形の花?)。鼻受部・底部外面無輪 時・大正一 産・方吉(三郎)	
56	6-F1	40号	土器	飯印	25.6	14.6	27.2	(2460) 成・型? 調・緑土で火口穿孔 飾・外面全体・内面部分的に鉄黒焼成 時・近代(1940年代前半) 産・代用陶器(赤上用ガスコン)	
56	7-F1	40号	土器	飯印	25.6	14.6	27.2	(2460) 成・ロクロ・棒造部取付。棒造部成前孔。調・筒付内外面取付 飾・10YR1.7/1 黒色。焼砂粒・微小内塵・長石・雲母目立つ 飾・外面部エンボス処理。部分的なミナギ。外面1層部。底部・腰部上端噴付のミナギ。内外面黒色化処理	
56	8-F1	40号	ガラス製品	瓦	5.9	7.4	4.3	(212) 成・型吹 飾・口縁外面スクラウー 材・無色透明 飾・胴部型内隔断(みづは染料) 産・松浦株式会社染料部。容積約25ml	
56	9-F1	40号	ガラス製品	瓶	2.4	8.3	2.8	(47) 成・型吹 材・褐色透明 飾・底面型打隔断(134) / (菱形内) [5]。内面口縁部及び蓋外面に込部打りガラス状 産・産付。日本硝子硝子業。容積約55ml	
56	10-F1	40号	ガラス製品	瓶	2.4	4.5	2.8	(32) 成・型吹 飾・口縁外面スクラウー 材・無色透明 飾・胴部型内隔断(みづは染料) (2) 緑茶色発色?)。底面型打隔断(1) 産・松浦アインダグズ株式会社染料部。容積約20ml	
57	1-F1	40号	鉄製品	銅形1巻	9.9	20.5	1.2	(176) 成・プレス? 材・鉄	
57	2-F1	40号	磁器	電気部品	10.0	6.4	5.0	(62) 成・型? 時・25Y8/1 灰白 飾・右側成前穿孔。内外外面無輪。底面打込み模4か所 時・近代以降 産・全金属品店 飾・硝子	
57	3-F1	44号	瓦葺土器	植木鉢	(23.5)	20.5	(1770) 成・ロクロ 飾・底面・高台取付 飾・高台・底面部分成前穿孔。外面黒色処理。外面体部取付した全輪彫付 飾・内面体部・底面無輪 産・丸太焼用?		
57	4-F1	52号	磁器	小瓶	6.0	6.4	3.0	(59) 飾・体外部面ロクロ彫刻・手摺突付(コバルト軸・□口?)。高台内口上印彫(脚285) 時・近代(1940年代前半)	
57	5-F1	52号	磁器	中瓶	13.2	2.2	7.5	(102) 成・型? 調・高台内外面取付。胴1層。内面1層部・体部上総アクリン(花文文) 飾・土呂印・手摺上総(文)・「ヤマガタ高台取付」(不明)内隔断「M」全部内合せ社マーク / YAMAGATAKAWASHA / 経254) 時・近代(1940年代 産・ソーラー	
57	6-F1	52号	陶器	火鉢	35.2	28.8	27.6	(5000) 成・ロクロ 飾・高台費付内面体部下方無輪。底部成前穿孔 内面底部構付無輪 成・内面底部無輪 産・常滑 産・穿孔は台の固定のため	
57	7-F1	52号	陶器	火鉢	(17.7)	21.5	(1039) 成・ロクロ 飾・無輪。窓付に扇形噴染山水文。内外外面黒色化処理 飾・内面体部・底部部分的に無輪		
57	8-F1	52号	陶器	飯印	8.0	4.6	5.5	(84) 成・型? 時・五徳取付 調・棒状工具で火口穿孔 飾・内外外面無輪彫刻(貫入あり) 時・近代(1940年代前半) 産・代用陶器(赤上用ガスコン)	
57	9-F1	52号	瓦	平瓦	22.6	28.1	4.5	(2020) 飾・7.5Y2/1 灰白。焼砂合 飾・焼 時・近代	
58	1-F1	52号	瓦	枕瓦	29.9	30.0	5.5	(1995) 飾・7.5Y2/1 黒色。焼砂合 飾・焼 時・近代	
58	2-F1	53号	磁器	中瓶	11.0	5.8	4.6	(58) 調・高台内外面取付 飾・外面体部手摺突付(瓦筒?)。青釉・内面に「赤塚屋/足尾堂」等字あり。蓋合部取付。高台一重彫刻。高台取付無	
58	3-F1	53号	土製品	帯留	5.7	3.9	1.3	18.6	成・型・帯通し部取付 調・管状工具で取付 飾・木 材・10YR1.1 灰白。焼砂合
58	4-F1	53号	銅製品	差	0.5	(12.2)	0.5	(4) 成・削削 材・象牙	
58	5-F1	53号	銅製品	較細加輪	5.2	5.2	(10) 30	成・鍛造 材・青銅(Cu84.0%、Zn15.5%、Pb0.5%) 飾・型打間口門状縦線彫	
58	6-F1	53号	銅製品	較粗	3.2	3.0	0.5	(2) 成・プレス 材・青銅(Cu70.4%、Zn28.4%、Pb1.0%、Sn0.3%) 飾・型打間口縦高。 産・徳川大学附属城西高等学校習字?。クロム鍍金?	
58	7-F1	54号	鉄製品	スターター	(11.5)	8.8	(27)	(232) 成・鑄造 材・鉄	
58	8-D1	64号	磁器	小瓶	8.0	4.5	3.2	(50) 飾・外面口縁部手摺突付(コバルト軸) 無輪。体部平口。体部下方一高台取付 時・近代 産・美濃	
58	9-D1	64号	陶器	中瓶	3.6	18.6	6.0	(434) 飾・灰輪彫刻二合タイプ 飾・外面体部下方・底部無輪。体部下方無輪時取付。 時・19C前半 産・瀬戸美濃	
58	10-D1	64号	ガラス製品	瓶	(1)	(5.1)	1.7	(10) 成・型吹 材・無色透明 飾・底面型打隔断「5」 産・口縁部は意図的な変曲が。容積約15ml	
58	11-D1	64号	ガラス製品	瓶	(1)	(5.6)	2.0	(10) 成・型吹 材・淡青色透明 飾・口縁部取付輪部に薄く・薄く・無彫削しを載置している。意図的な変曲が。容積約15ml	
58	12-D1	64号	ガラス製品	瓶	(1.8)	(5.0)	2.4	(13) 成・型吹 材・淡青色透明 飾・口縁部は意図的な変曲が。インク無?。容積約15ml	
58	13-D1	65号	磁器	(中瓶)	(1.8)	6.0	(71.8)	飾・足込み手摺突付(瓦筒。扇型) 時・19C前半 産・肥後高	
58	14-D1	65号	磁器	瓶	(4.0)	(1)	(11.5)	飾・外面無輪。上総コバニヤク(文・三重彫刻)。内面無輪 時・18~19C前半 産・肥後 産・赤松	
59	1-D1	79号	陶器	鉢	(6.2)	(8.0)	0.9	(44.1) 成・ロクロ 飾・内面口縁部取付無付文。体部上方彫刻梅花文?。白釉足込み 時・18C前半	
59	2-D2	98号	磁器	小瓶	(4.7)	4.9	(85.0)	飾・外面体部手摺突付(瓦筒。扇園山水文・青草文)。高台手摺突付無付文。高台内口縁部取付。手摺取付無? 時・19C前半	
59	3-D2	102号	陶器	瓶	(3.2)	4.2	(81) 0	成・ロクロ 飾・胴部全体・内面外面無輪。高台費付に成前穿孔した丸筒の軸付付 時・18C後半	
59	4-E2	105号	磁器	中瓶	20.6	3.1	10.0	(495) 飾・内面体部取付取付(コバルト軸。室形無時取付)。手摺突付二重彫刻。足込み型取付(複合扇文・松竹輪)。口押部手摺突付口押。外面体部取付無付無付文。高台内面口縁部取付無付文・青釉取付。 時・明治10年代末一 産・肥後高 飾・イノダ	
59	5-E1b	110号	土製品	美顔子	2.2	2.1	0.9	4.7	成・手捏 調・無面ヘラミナギ? 飾・10YR7/6 明黄褐色。細砂粒・雲母片 飾・筒状器具による取付(管?) 飾・表面磨後再加工?
59	6-E1b	110号	土製品	美顔子	2.4	2.5	0.9	6.2	成・手捏 調・無面ヘラミナギ? 飾・10YR7/6 明黄褐色。細砂粒・雲母片 飾・筒状器具による取付(管?) 飾・10YR7/6 明黄褐色。細砂粒・雲母片 飾・筒状器具による取付(管?) 飾・表面磨後再加工?
59	7-E1b	110号	土製品	美顔子	2.4	2.4	0.9	5.4	成・手捏 調・無面ヘラミナギ? 飾・10YR7/6 明黄褐色。細砂粒・雲母片 飾・筒状器具による取付(管?) 飾・表面磨後再加工?
59	8-E2	121号	石部	火打石	(2.1)	(3.2)	(0.7)	(2.9) 材・メノウ 飾・割線彫刻・黒化 時・近代一 産・水戸 飾・内面両面打削	



順 番	品 名	遺構名	種別	高標	法長(cm)			重量(kg)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
					a	b	c		
62 9	E-1b	一括	銅製品	銭貨	2.7	2.7	0.1	1.3	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
62 10	E-1b	一括	銅製品	電気部品	3.4	4.8	3.7	71.4	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
62 11	E-1	一括	木製品	下駄	8.5	21.5	1.6	234.0	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 1	E-2	一括	土製品	ミニチュア	5.8	11.6	6.0	(159.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 2	E-2	一括	瓦	浮瓦	(13.6)	(20.2)	(2.2)	(366.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 3	E-2	一括	ガラス製品	瓶	1.8	4.7	3.5	(46.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 4	E-2	一括	ガラス製品	瓶	1.8	19.6	4.6	453.0	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 5	E-2	一括	ガラス製品	蓋置き?	(4.3)	(3.4)	1.7	(4.9)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 6	E-2	一括	銅製品	銭貨	2.2	2.2	0.1	1.7	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 7	F-1	一括	磁器	小碗	6.4	7.1	4.4	(22.4)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 8	F-1	一括	磁器	中碗	11.4	6.0	3.9	(105.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 9	F-1	一括	磁器	小皿	11.4	2.8	8.0	(106.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 10	F-1	一括	ガラス製品	瓶	1.9	14.6	4.6	93.6	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 11	F-1	一括	鉄製品	角形土籠	14.4	23.0	6.8	270.0	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
63 12	F-1	一括	鉄製品	袴袷	3.9	8.0	0.5	22.0	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 1	F-1	一括	鉄製品	噴水器	37.6	37.8	8.4	(33000.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 2	F-1	一括	銅製品	電気部品	8.2	2.0	(3.0)	(56.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 3	F-2	一括	磁器	小碗	7.0	(3.0)	-	(6.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 4	F-2	一括	ガラス製品	瓶	1.9	10.5	2.8	50.6	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 5	F-2	一括	ガラス製品	置物	6.2	6.2	0.3	24.3	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 6	F-2	一括	銅製品	ペーパーナイフ	3.6	12.1	0.5	49.4	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 7	F-2	一括	銅製品	電気部品	(3.4)	4.4	2.0	(26.2)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 8	F-2	一括	銅製品	電気部品	4.4	3.4	2.3	(49.7)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡
64 9	F-2	一括	銅製品	電気部品	1.8	(7.3)	1.0	(17.0)	成・成形 調・調整 文・文様 形・形跡 胎・胎跡 材・材質 器・裝飾 産・産地 版等 時・時代 型・型式 産・産定産地 胎・胎跡

調査全量記述の分析には、SHIMADZU EDX-8540(東京即興文化センター)を用いた。



## V 自然科学分析

### 1 長崎一丁目周辺遺跡出土の動物遺体

港区立郷土歴史館 山根洋子

はじめに

本遺跡では令和2年度に実施された都道補助第172号線整備事業に伴う調査において、近世や近代の遺構からイヌ、ウマなどの動物遺体が出土している。

今回の調査でも、近代の遺構を中心に魚類・鳥類・哺乳類等の動物遺体が確認された。以下に出土した動物遺体の内容を報告する。

#### 1. 資料と分析方法

動物遺体は発掘調査時に目視により確認・採集されたものである。

魚類・鳥類・哺乳類等、いずれも種の同定が可能な主要部位について、現生標本（以下、標本とする）（註1）を用いて同定を行った。また、同定作業と共に、解体痕・病変等の観察および必要に応じて計測を実施した。

#### 2. 出土した動物遺体（第9表）

##### 【魚類】

魚類はE-1b区126号遺構（近代以降）からタイ類の椎骨が1点出土したのみであった。大型の個体である。

##### 【鳥類】

E-2区の遺構外でニワトリの大腿骨、脛骨、中足骨が出土した。大腿骨は標本白色レグホンに比べて小さい。脛骨と中足骨は同一個体と思われ、標本白色レグホンよりも大きな個体である。

##### 【哺乳類】

D-2区98号遺構（近代）からウマがまとめて出土しており、上顎歯、下顎骨、第一頸椎、大腿骨・中足骨等の四肢骨を確認した。全体に遺存状態は悪い。限られた部位の出土ではあるが、これらは同一個体の骨と思われ、出土状況の写真からは四肢骨の一部が解剖学的位置を留めていることが窺える。上顎歯が並んだ状態で確認され、下顎骨も出土していることから、元々は頭蓋骨が存在していたであろう。当遺構は調査区外に延びており、今回出土していない部位が調査区外に存在する可能性がある。歯高から推定される年齢は12歳前後と思われる（註2）。

哺乳類は他に、F-1区32号遺構（近代）からイノシシ類の肩甲骨、肋骨が出土した。肩甲骨はその形態からブタの可能性が高い。肋骨の1点には切断痕が見られた。

また、F-1区52号遺構（近代）からは、ウサギ類の寛骨と椎骨が出土している。江戸時代中期以降には日本でカイウサギの飼育が広まることが知られるが、当資料がノウサギかカイウサギかは判断

としない。

(註1) 現生標本は港区立郷土歴史館所蔵の資料を使用した。

(註2) 歯高から推定される年齢については、久保和士・松井章「家畜 その2—ウマ・ウシ」(西本豊弘・松井章編 1999『考古学と動物学』考古学と自然科学②) P.176の表を参照した。

〔参考文献〕

梶島孝雄 1997『資料 日本動物史』八坂書房

山根洋子 2021「長崎一丁目周辺遺跡出土の動物遺体」『豊島区 長崎一丁目周辺遺跡—都道補助第172号線整備事業に伴う調査—』東京都埋蔵文化財センター調査報告 第364集

第9表 出土動物一覧

調査区	遺構	時代		No.	種名	部位	左右	現存部分	数	同一 個体	備考	
D-1区	72号遺構	近世以降	哺乳類	001	ウシ or ウマ	脛骨	R	中間破片	+			
				007-002	ウマ	大腿骨	L	上～中間	1	a	破損著しい	
				007-003	ウマ	中足骨	R		1	a		
				007-003	ウマ	距骨	L		1	a		
				007-003	ウマ	足指骨			1	a		
				007-004	ウマ?	四肢骨		破片	+	a?		
				007-012	ウマ	第一指骨		破片	1	a		
				007-012	ウマ	脛骨		破片	+	a		
				007-012	ウマ	道歯骨		後道歯	1	a		
				D-2区	98号遺構	近代	哺乳類	007-013	ウマ	下顎骨	R	(P234M123)
007-014	ウマ	下顎骨	L					(P234M123)	1	a	咬痕あり [歯高] P2-18.4	
007-014	ウマ	上顎P2	L						1	a	咬痕あり 非測不可	
007-014	ウマ	上顎P3	L						1	a	咬痕あり 非測不可	
007-014	ウマ	上顎P4	L						1	a	咬痕あり 非測不可	
007-014	ウマ	上顎M1	L						1	a	咬痕あり 非測不可	
007-014	ウマ	上顎M2	L					破片	1	a	咬痕あり 非測不可	
007-014	ウマ	上顎M3	L						1	a	咬痕あり 非測不可	
				007-016	ウマ	切歯			6	a	破損著しい	
E-1b区	126号遺構	近代以降		タイ銀	脛骨			1		長さ:21.1 履径:15.3		
E-2区	遺構外		鳥類	041	ニワトリ	大腿骨	R	上～中間	1			
					ニワトリ	脛骨	R	中間	1	b		
					ニワトリ	脛骨	R	中間～下	1	b		
					ニワトリ	中足骨	R	上	1	b?		
F-1区	32号遺構	近代	哺乳類		イノシシ類	肩甲骨	L		1	関節窩未癒合 若		
					イノシシ類	肋骨		破片	23		内1点切斷痕あり	
F-1区	32号遺構	近代	哺乳類		ウサギ類	寛骨	L	髌一白	1	C		
					ウサギ類	脛骨			1	C		

〔現存部分欄〕 記載のないものはほぼ存在 上: 道歯部分 中: 脛骨部分 下: 道歯部分

上・下顎の項 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯 数字は順序番号。( ) は骨体のあることを示す。

〔数値欄〕 +: 未カウント (破片)

〔同一個体欄〕 同一個体と考えられるものには、同じ記号を記す。

〔備考欄〕 数値は非測値 (単位: mm) 年齢の記載のないものは成獣。

## 2 豊島区長崎一丁目周辺遺跡のテフラ分析

藤根 久・高木康裕 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

東京都豊島区に所在する長崎一丁目周辺遺跡の発掘調査で検出された遺構の覆土について、堆積年代を明らかにするためにテフラ分析を行った。

## 2. 試料と方法

分析試料は、D1区およびF1区で検出された18号・45号・74号・87号・88号遺構（いずれも溝状遺構）の覆土で、合計9試料である（第10表）。

試料は、以下の方法で処理

第10表 分析試料とその特徴

し、火山ガラスの形態、鉱物組成を調べた。

各試料30g程度を超音波ホモジナイザー（BRANSON製）で分散させた後、1φ（0.500mm）、2φ（0.250mm）、

試料No.	調査区	遺構名	採取層位	試料の特徴	採取日時
1	D1区	74号（溝状遺構）	2層	黒地（10YR2/3）、粘土質シルト	2022/11/30
2		74号（溝状遺構）	1層	黒地（10YR2/3）、粘土質シルト	2022/11/30
3		74号（溝状遺構）	直上2層	黒地（10YR2/3）、粘土質シルト	2022/11/30
4		88号（溝状遺構）	1層	黒地（10YR2/3）、粘土質シルト	2022/12/2
5		87号（溝状遺構）	1層	黒地（10YR2/3）、粘土質シルト	2022/12/2
6	F1区	88号（溝状遺構）	2層	暗地（10YR3/4）、粘土質シルト	2022/12/2
7		18号（溝状遺構）	1層	黒地（10YR2/2）、粘土質シルト	2022/12/26
8		18号（溝状遺構）	2層	黒地（10YR2/3）、粘土質シルト	2022/12/26
9		45号（溝状遺構）	1層	黒地（10YR2/2）、粘土質シルト	2022/12/26

3φ（0.125mm）、4φ（約0.063mm）の4枚の篩を重ね、湿式篩分けを行った。また、10g程度を秤量し、恒温乾燥機105度24時間で乾燥して、含水率（%）を求めた。

4φ篩残渣について、重液（テトラブプロモエタン、比重2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。軽鉱物と重鉱物は、封入剤ガムクロラールを用いてプレパラートを作製した。

軽鉱物は、火山ガラス、石英（qu）、長石（pl）、不明（opq）を同定・計数した。火山ガラスは、町田・新井（2003）の分類基準に従って、バブル型平板状（b1）、バブル型Y字状（b2）、軽石型繊維状（p1）、軽石型スポンジ状（p2）、急冷破砕型フレーク状（c1）、急冷破砕型塊状（c2）に分類した。重鉱物は、斜方輝石（opx）、単斜輝石（cpx）、角閃石（ho）、カンラン石（ol）、イディングサイト（id:町田ほか、1983）、スコリア（sc）、磁鉄鉱（mg）、不明（opq）を同定・計数した。

なお、スコリアの特徴や軽石の有無を調べるために、1φ篩残渣と2φ篩残渣について実体顕微鏡を用いて観察し、記載した。

## 3. 結果

以下に、各遺構から採取された試料の分析結果について述べる。

[分析No.1（D1区74号遺構2層採取試料）]

試料は、黒褐色（10YR2/3）の粘土質シルトである。篩分けでは、4φ篩残渣が特に多い（第11表）。軽鉱物では、不明（opq）が非常に多く、次いで長石（pl）と火山ガラスを少量含み、石英（qu）を僅かに含む。火山ガラスは、バブル型平板状（b1）、バブル型Y字状（b2）、軽石型スポンジ状（p2）

を含む。重鉱物では、斜方輝石 (opx) と不明 (opq) が最も多く、次いで単斜輝石 (cpx)、カンラン石 (ol)、イディングサイト (id) が多く、スコリア (sc)、角閃石 (ho)、磁鉄鉱 (mg) を僅かに含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中のスコリアは、黒色と黒灰色が目立ち、赤色を僅かに含む。なお、2 φ 篩残渣において軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図-1)。

[ 分析 No.2 (D1 区 74 号遺構 1 層採取試料) ]

試料は、黒褐色 (10YR2/3) の粘土質シルトである。篩分けでは、4 φ 篩残渣が特に多い (第 11 表)。

軽鉱物では、不明 (opq) が非常に多く、長石 (pl) と火山ガラスを少量含む。火山ガラスは、バブル型平板状 (b1) と軽石型スポンジ状 (p2) を含む。重鉱物では、不明 (opq)、斜方輝石 (opx)、カンラン石 (ol) が多く、イディングサイト (id)、単斜輝石 (cpx)、スコリア (sc) を少量含む、角閃石 (ho) を僅かに含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中のスコリアは、黒色と黒灰色が目立ち、赤色を僅かに含む。なお、2 φ 篩残渣において軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図-2)。

[ 分析 No.3 (D1 区 74 号遺構直上 2 層採取試料) ]

試料は、黒褐色 (10YR2/3) の粘土質シルトである。篩分けでは、4 φ 篩残渣が特に多い (第 11 表)。

軽鉱物では、不明 (opq) が非常に多く、長石 (pl) と火山ガラスを少量含む。火山ガラスは、バブル型平板状 (b1) と軽石型スポンジ状 (p2)、急冷破碎型フレーク状 (c1) を含む。重鉱物では、不明 (opq)、斜方輝石 (opx)、カンラン石 (ol)、イディングサイト (id) が多く、単斜輝石 (cpx)、スコリア (sc)、角閃石 (ho)、磁鉄鉱 (mg) を少量含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中のスコリアは、黒色と黒灰色が目立つ。なお、2 φ 篩残渣において軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図-3)。

[ 分析 No.4 (D1 区 88 号遺構 1 層採取試料) ]

試料は、黒褐色 (10YR2/3) の粘土質シルトである。篩分けでは、4 φ 篩残渣が特に多い (第 11 表)。

軽鉱物では、不明 (opq) が非常に多く、長石 (pl) と火山ガラスを少量含む。火山ガラスは、バブル型平板状 (b1)、軽石型繊維状 (p1)、軽石型スポンジ状 (p2)、急冷破碎型フレーク状 (c1) を含む。重鉱物では、不明 (opq) と斜方輝石 (opx) が多く、次いで単斜輝石 (cpx) とスコリア (sc) が多く、磁鉄鉱 (mg)、イディングサイト (id)、角閃石 (ho) を僅かに含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中のスコリアは、黒色と黒灰色が目立つ。なお、2 φ 篩残渣において軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図-4)。

[ 分析 No.5 (D1 区 87 号遺構 1 層採取試料) ]

試料は、黒褐色 (10YR2/3) の粘土質シルトである。篩分けでは、4 φ 篩残渣が特に多い (第 11 表)。

軽鉱物では、不明 (opq) が非常に多く、長石 (pl) と火山ガラスを僅かに含む。火山ガラスは、バブル型平板状 (b1) と軽石型スポンジ状 (p2) を含む。重鉱物では、不明 (opq) と斜方輝石 (opx) が多く、次いでカンラン石 (ol) とイディングサイト (id) が多く、単斜輝石 (cpx)、スコリア (sc)、

磁鉄鉱 (mg)、角閃石 (ho) を少量含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中のスコリアは、黒色と黒灰色が目立ち、赤色を僅かに含む。なお、2 φ 篩残渣において軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図 -5)。

[ 分析 No.6 (D1 区 88 号遺構 2 層採取試料) ]

試料は、暗褐色 (10YR3/4) の粘土質シルトである。篩分けでは、4 φ 篩残渣が特に多い (第 11 表)。

軽鉱物では、不明 (opq) が非常に多く、長石 (pl) と火山ガラスをわずかに含む。火山ガラスは、バブル型平板状 (b1)、バブル型 Y 字状 (b2)、軽石型スポンジ状 (p2) を含む。重鉱物では、不明 (opq) と斜方輝石 (opx) が多く、単斜輝石 (cpx)、イディングサイト (id)、スコリア (sc) を少量含む、磁鉄鉱 (mg)、角閃石 (ho)、カンラン石 (ol) を僅かに含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中のスコリアは、黒色と黒灰色が目立つ。なお、2 φ 篩残渣において軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図 -6)。

[ 分析 No.7 (F1 区 18 号遺構 1 層採取試料) ]

試料は、黒褐色 (10YR2/2) の粘土質シルトである。篩分けでは、4 φ 篩残渣が特に多い (第 11 表)。

軽鉱物では、不明 (opq) が非常に多く、長石 (pl)、火山ガラス、石英 (qu) を僅かに含む。火山ガラスは、バブル型平板状 (b1)、軽石型繊維状 (p1)、軽石型スポンジ状 (p2) を含む。重鉱物では、不明 (opq) と斜方輝石 (opx) が多く、カンラン石 (ol)、イディングサイト (id)、単斜輝石 (cpx)、スコリア (sc) を少量含む、角閃石 (ho)、磁鉄鉱 (mg) を僅かに含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中には、褐鉄鉱が多く、黒色と黒灰色のスコリアを含む。なお、2 φ 篩残渣において軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図 -7)。

[ 分析 No.8 (F1 区 18 号遺構 2 層採取試料) ]

試料は、黒褐色 (10YR2/3) の粘土質シルトである。篩分けでは、4 φ 篩残渣が多い (第 11 表)。

軽鉱物では、不明 (opq) が非常に多く、長石 (pl)、火山ガラスを少量含む、石英 (qu) を僅かに含む。火山ガラスは、バブル型平板状 (b1)、バブル型 Y 字状 (b2)、軽石型スポンジ状 (p2)、急冷破砕型ブレイク状 (c1) を含む。重鉱物では、不明 (opq) と斜方輝石 (opx) が多く、イディングサイト (id)、カンラン石 (ol)、単斜輝石 (cpx) を少量含む、スコリア (sc)、角閃石 (ho)、磁鉄鉱 (mg) を僅かに含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中には、褐鉄鉱が多く、黒色と黒灰色のスコリアを含む。なお、2 φ 篩残渣において軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図 -8)。

[ 分析 No.9 (F1 区 45 号遺構 1 層採取試料) ]

試料は、黒褐 (10YR2/2) の粘土質シルトである。篩分けでは、4 φ 篩残渣が多い (第 11 表)。

軽鉱物では、不明 (opq) が非常に多く、長石 (pl) と火山ガラスを少量含む。火山ガラスは、バブル型平板状 (b1)、軽石型繊維状 (p1)、軽石型スポンジ状 (p2) を含む。重鉱物では、不明 (opq) と斜方輝石 (opx) が多く、イディングサイト (id)、カンラン石 (ol)、単斜輝石 (cpx)、スコリア (sc)

を少量含み、角閃石 (ho)、磁鉄鉱 (mg) を僅かに含む (第 12 表)。

1 φ 残渣中には、褐鉄鉱が多く、黒色と黒灰色のスコーラを含む。なお、2 φ 篩残渣において、軽石は含まれていなかった (第 13 表、第 66 図 -9)。

第 11 表 試料の湿式篩分け・重液分離の結果

分析 No.	調査区	遺構名	採取層位	含水率 (%)	炭素含量 (g)	窒素含量 (g)	陽性率 (g)	篩分け (重量 g)				軽・重鉱物組成 (重量%)	
								1 φ	2 φ	3 φ	4 φ	軽鉱物	重鉱物
1	D1K	74号 (溝状遺構)	2層	45.61	10.13	5.51	30.06	0.04	0.18	0.62	1.31	0.01	0.00
2		74号 (溝状遺構)	1層	45.46	10.47	5.71	30.11	0.12	0.24	0.86	1.68	0.03	0.00
3		74号 (溝状遺構)	直上2層	44.68	10.05	5.56	30.03	0.08	0.24	0.86	1.67	0.03	0.00
4		88号 (溝状遺構)	1層	45.85	10.01	5.42	30.08	0.02	0.13	0.54	1.03	0.03	0.01
5	F1K	87号 (溝状遺構)	1層	42.18	10.10	5.84	30.53	0.42	0.21	0.97	1.85	0.04	0.00
6		88号 (溝状遺構)	2層	49.11	10.06	5.12	30.18	0.03	0.07	0.33	0.68	0.03	0.00
7		18号 (溝状遺構)	1層	39.98	10.28	6.17	30.06	0.16	0.30	1.05	1.74	0.03	0.00
8		18号 (溝状遺構)	2層	44.51	10.11	5.61	30.02	0.20	0.27	0.79	1.18	0.03	0.01
9		45号 (溝状遺構)	1層	38.82	10.15	6.21	30.21	0.32	0.38	1.05	2.01	0.04	0.00

第 12 表 4 φ 篩残渣中の鉱物組成

分析 No.	石英 spq	長石 ipd	不明 opq	火山ガラス										重鉱物	重鉱物の合計											
				パブル (高) 型	軽石型	急冷磁鉄砂型	斜方晶	斜輝石	斜方輝石	斜方輝石	斜方輝石	斜方輝石	斜方輝石			斜方輝石										
1	4	12	222	5	2										12	250	84	21	4	23	26	11	4	80	250	
2	13	228	3			6									9	250	57	23	5	48	24	15			78	250
3	12	228	2			5	3								10	250	62	13	4	52	37	8	4	70	250	
4	19	218	7		1	4	1								13	250	88	27	2			4	18	9	102	250
5	7	237	3			3									6	250	58	22	5	42	31	17	10		65	250
6	9	235	2	1	3										6	250	77	29	4	1	12	10			108	250
7	2	12	227	4		1	4								9	250	75	19	2	23	21	15	2		63	250
8	1	20	218	2	3			1							11	250	70	13	5	17	26	9	1		109	250
9	17	223	5		2	3									10	250	64	18	6	23	35	13	4		87	250

第 13 表 篩残渣中のスコリア・軽石

試料 No.	調査区	遺構名	採取層位	1 φ 篩残渣のスコーラ等の特徴	2 φ 篩残渣のスコーラ等の特徴
1	D1K	74号 (溝状遺構)	2層	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)
2		74号 (溝状遺構)	1層	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)
3		74号 (溝状遺構)	直上2層	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)
4		88号 (溝状遺構)	1層	黒色、黒灰色 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)
5	F1K	87号 (溝状遺構)	1層	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)
6		88号 (溝状遺構)	2層	黒色、黒灰色 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)
7		18号 (溝状遺構)	1層	黒色、黒灰色、磁鉄鉱多量 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)
8		18号 (溝状遺構)	2層	黒色、黒灰色、磁鉄鉱多量 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)
9		45号 (溝状遺構)	1層	黒色、黒灰色、磁鉄鉱多量 (軽石)	黒色、黒灰色、赤色 (軽石)

#### 4. 考察

2 調査区における 9 遺構 (溝状遺構) の 1 層または 2 層について、テフラ分析を行った。なお、これらの遺構は、表土とその下位の耕作土直下に位置する遺構であり、下位にはローム層が堆積する (遺跡調査の項を参照)。

いずれの遺構も、火山ガラスは非常に少ない。また、重鉱物は、斜方輝石やカンラン石が多く、単斜輝石やスコリアあるいは角閃石を伴う。これらの火山ガラスやカンラン石などの鉱物は、下位層の立川ローム層あるいは武蔵野ローム層を構成する鉱物群と推定される。

これらの遺構埋土に見られるスコリアは、富士火山起源のスコリア (テフラ) と考えられる。

この地域周辺に降灰する弥生時代以降の富士火山のスコリアとして、湯船第 2 スコーラ (Yu-2: ca 2200 BP)、延暦貞観スコリア (S-24-LS-24-J ~ K: ca 9 世紀)、宝永スコリア (Ho: AD 1707 年) などが知られている (辻, 1989; 宮地, 1988)

このうち、宝永スコリア (Ho: AD 1707 年) は、噴火初期において灰白色の軽石を噴出し、富士

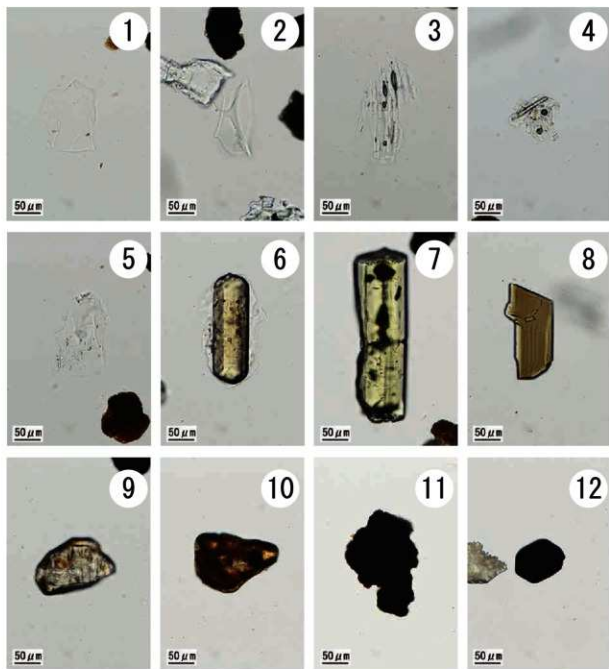
火山スコリアのうち唯一軽石を噴出したテフラである（宮地，1984）。今回の遺構の1層または2層中には、軽石を含んでいないため、宝永スコリアの可能性は低いと考えられる。

今回の遺構埋土が弥生時代以降であれば、湯船第2スコリア（Yu-2：ca 2200 BP）もしくは延暦貞観スコリア（ca 9世紀）の可能性が考えられる。

なお、各遺構の関係については、鉱物組成あるいはスコリアの特徴の観察において明瞭な違いはない。

#### 引用文献

- 町田 洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス，336p，東京大学出版会。
- 町田瑞男・村上雅博・齊藤幸治（1983）南関東の火山灰中の変質鉱物“イディングサイト”について，第四紀研究，22，69-76。
- 宮地直道（1984）富士火山1707年火砕物の降下に及ぼした風の影響，火山，2，29，17-30。
- 宮地直道（1988）新富士火山の活動史，地質学雑誌，94，6，433-452。
- 辻 誠一郎（1989）開析谷の遺跡とそれをとりまく古環境復元：関東平野中央部の川口市赤山陣屋跡遺跡における完新世の古環境，第四紀研究，27，4，331-356。



1. バブル型平板状ガラス (No.3) 2. バブル型Y字状ガラス (No.1) 3. 軽石型繊維状ガラス (No.9) 4. 軽石型スポンジ状ガラス (No.1) 5. 急冷破砕型フレーク状ガラス (No.3)  
 6. 斜方輝石 (No.6) 7. 単斜輝石 (No.5) 8. 角閃石 (No.2) 9. カンラン石 (No.3)  
 10. イデイングサイト (No.3) 11. スコリア (No.6) 12. 磁鉄鉱 (No.5)

第 65 図 分析試料中の鉱物の顕微鏡写真





1.No.1 2.No.2 3.No.3 4.No.4 5.No.5 6.No.6 7.No.7 8.No.8 9.No.9

第 66 図 1φ 篩残渣中のスコリア粒子の顕微鏡写真

## VI 調査の成果

今回の調査では、遺構は溝状遺構 16 条・土坑 71 基・植栽痕 17 基・欅間溝 22 条以上・井戸 4 基・レンガ柵 1 基・コンクリート構造物 1 基・コンクリートブロック柵 1 基・礎石? 3 基・建物基礎? 1 基・ビット 272 基が検出された。遺物は縄文時代の土器・石器、古代の土器、近世以降の陶磁器・土器・瓦・ガラス製品・骨角製品・動物骨・石器・石製品・木製品・金属製品・レンガ・電気製品などが出土した。主体をなすのは近代以降の遺構・遺物である。

### 1 中世以前

縄文土器は早期前半から前期後半までの小片が出土しているが、いずれも近世以降の遺構覆土からの出土であり、縄文時代に帰属すると判断できる遺構は検出されていない。また、長崎一丁目周辺遺跡の過去の調査では、古墳時代末から奈良時代初頭のカマドを伴う竪穴住居跡が 1 軒検出されている（豊島区教育委員会 2010『長崎並木Ⅱ』）が、今回の調査で出土した古代の遺物は、8 世紀後半から 9 世紀の台付甕の小片 1 点のみである。中世に帰属する遺物も見られなかったことから、今回の調査地点においては、中世以前の人類活動はごく低調であったと考えられる。

### 2 近世以降

調査区別してみると、西側に位置する D・E 区で近世の遺構・遺物がより多く検出され、やや離れて東側に位置する F 区では近代以降の遺構・遺物が主体となる傾向がみられる。

#### 252p 出土の播鉢と板碑

252p からは、17 世紀後半の丹波産の播鉢と共に板碑片が出土した。板碑は側縁を欠き摩耗も著しく紀年銘などは読み取れなかったが、長崎一丁目周辺遺跡の過去の調査でも中世の板碑が砥石などに転用されたとみられる資料が多数出土していることから、252p 出土の板碑片も同様の経過をたどったと考えられる。播鉢の内面の観察では摩耗は顕著には見受けられなかったが、共存して出土した板碑片と組み合わせて使用されたものかもしれない。

#### 「馬埋葬遺構」

D-2 区に位置する 98 号遺構は、一個体分と考えられるウマの骨や歯が検出された土坑である。近世の江戸近郊の農村周辺においては、全身骨格が揃ったウマが検出される例が多く、死んだ牛馬を処理・利用する社会システムが整備されていたこと、そうした「馬捨場」が村落の境界域や道路付近に占地していたことが指摘されている（大八木 2001）。98 号遺構は D-1・2 区の調査区南端に位置し、東西に走る区道に接しているが、この道路はいつから存在していたのであろうか。

第 67・68 図は、鴨下亨氏所蔵の長崎地区東側を描いた魚絵図である。谷端川、水田、主な道路、他村との境界などが色を塗り分けて描かれ、土地利用の概況、道幅やランドマーク間の距離、神社仏閣や旗本の所有する土地の広さなどが記されている。「金剛院」や「鎮守十羅刹（長崎神社）」などの寺社は、現在と同じ位置に描かれている。地図の西側で文字や図が途切れていることから、本来は長崎地区全域を描いていたものと考えられるが、現在は谷端川周辺のみが残されている。「嘉永六丑年

十月」の記載から、嘉永6（1953）年当時の長崎地区の情勢を今に残す貴重な資料である。龜絵図北側に記載のある「岡部庄九郎」は家禄702石4斗の旗本で、武家屋敷の台帳「諸向地面取調書」（安政3年頃）によれば、長崎村に抱屋敷・抱地3000坪ずつを所持していたとあり、絵図の記載の通りだったことが確認されている。

この龜絵図の中で、「八幡社」と「羽黒社」の間を逆S字クランク状に曲がりながら結ぶ赤い線で描かれた道路は、「東京府区郡町村区分全図 東京府北豊島郡長崎村、豊多摩郡落合村（明治44（1911）年発行）」や後年の地図にもみられる。それらを現在の地図と照らし合わせると、D区とE区を区切っている区道がこれにあたり、98号遺構構築当時からそれに接する道路が存在していた可能性が高い。98号遺構は、前述の「斃牛馬処理」システムに相当する人類活動の痕跡であると考えられる。

#### 溝状遺構とピット

F区では、調査区全体にわたって東西に延びる18・45号遺構に沿うようにピットの多くが位置している。ピットも含め遺物がほとんど出土しなかったため、溝状遺構の帰属時期は決定しがたい。土壌のテフラ分析では、18・45号ともに鉱物組成やスコリアの特徴に大差はなく、湯船第2スコリア（Yu-2：ca2200BP）及び延暦貞観スコリア（ca9世紀）の可能性あるスコリアが検出されている。また軽石は検出されず宝永スコリア（Ho：AD1707年）が含まれている可能性は低いと指摘されている（第V章第2節）。D-1区の溝状遺構である74号遺構直上の2-1層（黒褐色土層）でも同様であり、溝状遺構の覆土は近世以降の盛土・耕作土とみられる2層の土壌を基調としておりと考えられる。

D-1区の溝状遺構では、77・78・87・88号から18～19世紀に帰属する近世の遺物が出土しているが、これらの周囲のピットの分布は希薄である。同じく溝状遺構とみられる84号遺構の周辺には、F区と同様にピットが複数重複していたり南北方向に列状とも見える配置と並んでいる。E-2区でも114・115号遺構の西側に複数のピットが南北方向に連なるように位置している。これら溝状遺構が区画溝であったとすれば、時期や場所によってそれが柵などに作り替えられていた可能性も考えられるが、ピットの配列や深度に規則性などは見いだせない。

#### 震災の遺構・遺物

豊島区は、昭和20（1945）年4月13日深夜から翌14日未明にかけての空襲によって大きな被害を受けている。長崎は豊島区の中では比較的被害の軽微な地域であったが、F区は震災で焼失した区域にほぼ接しており、火事後の片付け遺構と思われる土坑や被熱した遺物が多数検出されている。被熱によって変形したガラス製品（巻頭写真11）はその好例である。17号遺構出土の時計（第53図2）は置時計の一部であると考えられ、元々の設置角度が不明なものの、内部の針は11時30分もしくは12時30分前後を指している可能性があり、上記の空襲の時間帯に合致する。

E-1b区で検出された127号遺構は、正方形のコンクリートタイルとモルタルで構築された大規模な構造物である。東半を攪乱によって失っているが、残された形状は溜池に近似しており、貯水施設もしくは防火水槽であると考えられる。

特徴的なのは、場所によって用いられているタイルの寸法が異なることである。タイルの厚さはいずれの場所でも約6cmで共通しているが、底面・北壁・西壁のタイルは約30cm四方で鉢盤の目状に敷き詰められているのに対し、南壁のみ約36cm四方のタイルが用いられ、1段ごとにタイル幅半分だけ列がずれている。各壁面の傾斜も北壁で33.7°～36.4°、西壁で35.5°～36.9°、南壁で38.9°

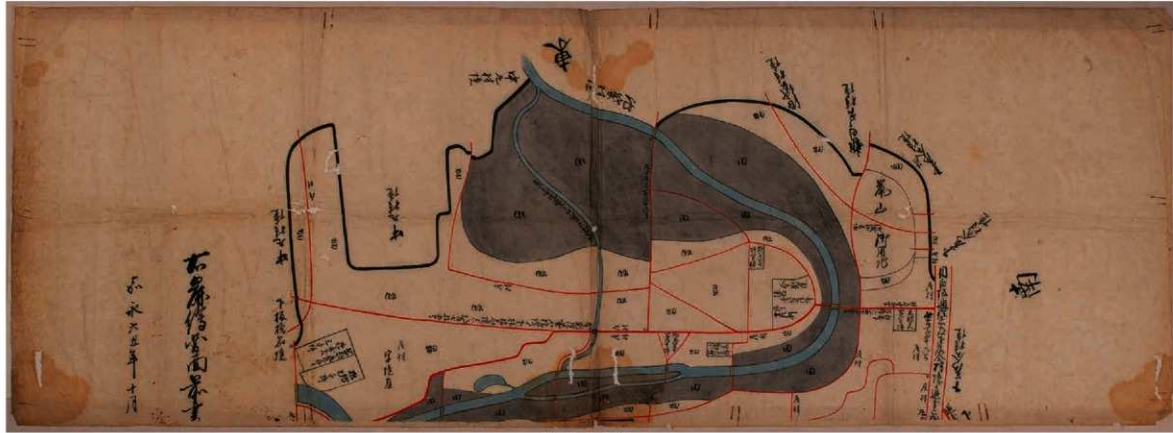
～39.9°（いずれも垂直からの角度）とやや差異がある。壁面の立ち上がり部分はモルタルが厚く塗布され緩やかな曲線を描いているが、西壁南半や南壁の立ち上がりのみ、底面と壁面の間でモルタルが段状を呈している。掘方に充填されている盛土や碎石にもタイルが混入しているほか、西壁上端付近ではタイルの表側に碎石が付着している箇所があるなど、全体的に粗雑に構築されたような印象を受ける。

構築された時期は判然としませんが、聞き取りから先述の鴨下亨氏の父親に召集令状が来た時期にはこの場所に「池」が存在していたことが明らかになっている。1936年及び1947年の航空写真では本遺構に相当する構造物を確認できないため、その間に構築・廃絶されたのであろう。先述の通り、池袋周辺は空襲の被害を受けていることから、空襲に備えて急造された可能性が考えられる。

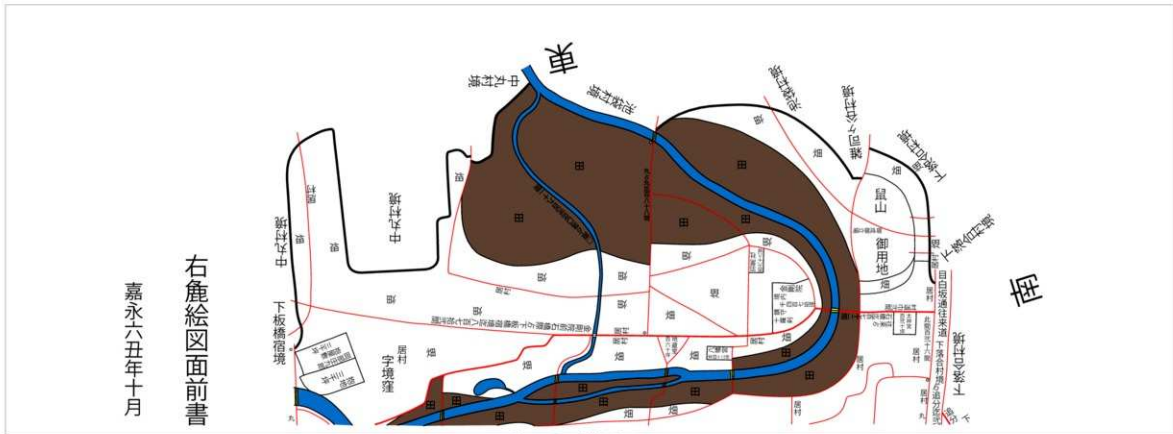
F-1区の一括遺物としての出土ではあるが、焼夷弾のノーズブロック（第64図1）も特筆すべき遺物である。ノーズブロックはM69焼夷弾を38本集束したE46集束焼夷弾の弾頭に搭載された重りであり、投下されたE46集束焼夷弾が空中で散開した際にM69焼夷弾と共に落下してきたものと考えられる。風化が著しく進んでいる範囲とそれほど風化していない範囲がみられることや、ローム面に斜位で半ばまで埋まったような状況で出土したことから、投下されて地面に斜めに突き刺さったのち、一定期間放置されていた可能性がある。出土した地点は戦災によって焼失したとされる区域からはわずかに外れるが、豊島区が受けた空襲の被害を現在にまで伝える遺物である。

これまでの長崎一丁目周辺遺跡における発掘調査では、中世後期以降の長崎村としての土地利用痕跡が主に把握されてきた。今回の調査で検出された遺構・遺物は近代以降が主体を占めるため、長崎村について得られた知見は少ない。その中では、「馬埋葬遺構」と考えられる98号遺構の検出は、江戸近郊の農村であった長崎村における人類活動の復元に新たな一面を付け加えたといえるだろう。また、近代以降では戦災に関連する遺構・遺物の検出が多数を占めた。そうした時代の知見の蓄積も進みつつあり、今後の調査によって長崎地域の幅広い時代の人類活動の復元がさらなる進展を遂げることに期待したい。

（橋本）



第 67 図 鹿絵図



第 68 図 鹿絵図トレース



## 引用・参考文献

- 天内克史 1989 「統制経済下における陶磁器生産の一様相」『村上徹君追悼論文集』村上徹君追悼論文集編集委員会
- 江戸遺跡研究会編 2018 『遺物にみる幕末・明治』江戸遺跡研究会大会発表要旨
- 大八木謙司 2001 「37号遺構に「埋葬」されたウマをめぐる」豊島区遺跡調査会『染井VII』豊島区遺跡調査会調査報告2
- 貝塚実平 1979 『東京の自然史 改訂第二版』紀伊國屋書店
- 久保純子 1988 『相模野台地・武蔵野台地を刻む谷の地形—風成テフラを供給された名残川谷地形—』『地理学評論』61巻1号
- 田島俊雄 1996 「長崎村の昔を訪ねて」『長崎村物語—江戸近郊農村の伝承文化—』豊島区立郷土資料館
- 東京都埋蔵文化財センター編 2021 『豊島区 長崎一丁目周辺遺跡—都道補助第172号線整備事業に伴う調査—』東京都埋蔵文化財センター調査報告第364集
- 豊島区教育委員会 2001 『豊島区文化財年報』第1号
- 豊島区教育委員会 2003 『雑司が谷1—東京都豊島区・雑司が谷遺跡（豊島区立みみずく公園地区）の発掘調査—』豊島区埋蔵文化財調査報告17
- 豊島区教育委員会 2004 『椎名町1』豊島区埋蔵文化財調査報告18
- 豊島区教育委員会 2006 『長崎並木1』豊島区遺跡調査会調査報告11
- 豊島区教育委員会 2007 『豊島区文化財年報』第5号
- 豊島区教育委員会 2008 『豊島区文化財年報』第6号
- 豊島区教育委員会 2010 『豊島区埋蔵文化財調査概報集5』豊島区埋蔵文化財調査報告30
- 豊島区教育委員会 2010 『長崎並木II』豊島区埋蔵文化財調査報告29
- 豊島区教育委員会 2011 『豊島区埋蔵文化財調査概報集6』豊島区埋蔵文化財調査報告33
- 豊島区教育委員会 2012 『旧感応寺I』豊島区埋蔵文化財調査報告37
- 豊島区教育委員会 2012 『豊島区埋蔵文化財調査概報集7』豊島区埋蔵文化財調査報告38
- 豊島区教育委員会 2013 『豊島区埋蔵文化財調査概報集8』豊島区埋蔵文化財調査報告41
- 豊島区教育委員会 2014 『豊島区埋蔵文化財調査概報集9』豊島区埋蔵文化財調査報告45
- 豊島区教育委員会 2015 『豊島区埋蔵文化財調査概報集10』豊島区埋蔵文化財調査報告47
- 豊島区教育委員会 2017 『長崎並木III』豊島区埋蔵文化財調査報告51
- 豊島区教育委員会 2018 『豊島区埋蔵文化財調査概報集13』豊島区埋蔵文化財調査報告53
- 豊島区教育委員会 2019 『豊島区文化財年報』第17号
- 豊島区教育委員会 2019 『豊島区埋蔵文化財調査概報集14』豊島区埋蔵文化財調査報告54
- 豊島区教育委員会 2021 『豊島区文化財年報』第18号
- 豊島区教育委員会 2021 『豊島区埋蔵文化財調査概報集16』豊島区埋蔵文化財調査報告57
- 豊島区教育委員会 2022 『豊島区埋蔵文化財調査概報集17』豊島区埋蔵文化財調査報告59
- 豊島区教育委員会 2023 『豊島区埋蔵文化財調査概報集18』豊島区埋蔵文化財調査報告60
- 豊島区立郷土資料館 1987 『長崎アトリエ村史料』豊島区立郷土資料館調査報告書第3集
- 長佐古真也 2007 『続・お茶碗考—近代・現代の中形碗に飯碗を探る—』『考古学が語る日本の近現代』ものが語る歴史14
- 中野晴久 1997 「<寄稿>トイレと常滑焼」『トイレの考古学』大田区立郷土博物館





# 写 真 图 版





1. 調査区D-1区2面東側全景（東から）



2. 調査区D-2区全景（西から）

図版2



1. 調査区D-1区2面西側全景（北から）



2. 調査区D-3区全景（南から）



3. 調査区D-4区全景（南から）



4. 調査区D-5区全景（東から）



5. 調査区E-1a区2面全景（西から）



1. 調査区E-1b区2面全景（東から）



2. 調査区E-2区2面全景（西から）

図版4



1. 調査区F-1区全景（東から）



2. 調査区F-2区2面全景（東から）



1. D-1区北壁土層断面 (南から)



2. E-2区南西部南壁土層断面 (北から)



3. F-1区北壁土層断面西側 (南から)



4. E-2区旧石器時代調査坑北壁土層断面 (南から)



5. E-2区旧石器時代調査坑西壁土層断面 (東から)



6. F-1区旧石器時代調査坑東壁土層断面 (西から)



7. 18号遺構・45号遺構土層断面A-A' (東から)



8. 18号遺構土層断面B-B' (西から)

図版6



1. 18号遺構・45号遺構土層断面D-D' (西から)



2. 18号遺構土層断面E-E' (西から)



3. 18号遺構土層断面F-F' (西から)



4. 45号遺構土層断面G-G' (西から)



5. 18号遺構土層断面H-H' (西から)



6. 18号遺構土層断面I-I' (西から)



7. 18号遺構土層断面J-J' (東から)



8. 36号遺構土層断面 (西から)





1. F-1区18号遺構・45号遺構完掘 (東から)



2. F-2区18号遺構完掘 (西から)



3. 74号遺構完掘 (北から)



4. 77号遺構・78号遺構完掘 (西から)



5. 114号遺構・115号遺構・ビット群全景 (南から)



1. 84号遺構完掘 (北から)



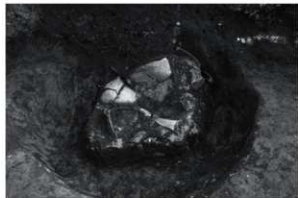
2. 2号遺構完掘 (南から)



3. 6号遺構完掘 (西から)



4. 8号遺構完掘 (北から)



5. 9号遺構遺物出土状況 (北から)



6. 10号遺構土層断面 (南から)



7. 14号遺構遺物出土状況 (西から)



8. 17号遺構完掘 (北から)



1. 31号遺構完掘（東から）



2. 32号遺構土層断面（南から）



3. 33号遺構土層断面（南から）



4. 34号遺構土層断面（南から）



5. 40号遺構土層断面（西から）



6. 44号遺構完掘（南から）



7. 52号遺構土層断面（北から）



8. 53号遺構土層断面（北から）



1. 54号遺構・55号遺構完掘（東から）



2. 56号遺構完掘（東から）



3. 79号遺構・80号遺構完掘（東から）



4. 90・94・108・144号遺構完掘（南から）



5. 97号遺構完掘（南から）



6. 98号遺構動物骨出土状況2回目（北から）



7. 98号遺構動物骨出土状況6回目（北から）



8. 99号遺構完掘（東から）



1. 102号遺構完掘 (東から)



2. 104号遺構完掘 (西から)



3. 105号遺構完掘 (北から)



4. 109号遺構土層断面 (北から)



5. 110号遺構完掘 (南から)



6. 113号遺構完掘 (南から)



7. 117号遺構・119号遺構完掘 (東から)



8. 121号遺構完掘 (東から)



1. 125号遺構完掘 (南から)



2. 126号遺構完掘 (東から)



3. 128号遺構完掘 (東から)



4. 139号遺構完掘 (南から)



5. 35号遺構土層断面 (北から)



6. 57号遺構完掘 (西から)



7. 64号遺構・73号遺構完掘 (南から)



8. 65号遺構・103号遺構完掘 (西から)



1. 72号遺構完掘 (南から)



2. 106号遺構完掘 (東から)



3. 11号遺構完掘 (西から)



4. 1号遺構完掘 (南から)



5. 59号遺構蓋撤去後完掘 (南から)



6. 131号遺構完掘 (北から)



7. 143号遺構完掘 (北東から)



8. 3号遺構土層断面 (南から)



1. 127号遺構完掘（東から）



2. 127号遺構南西角突出部構造検出状況（南東から）



3. 127号遺構掘方（北から）



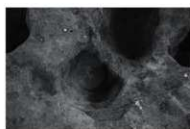
図版15



1. 12p土層断面 (西から)



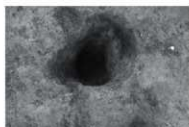
2. 20p・21p土層断面 (北から)



3. 22p完掘 (南から)



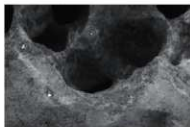
4. 23p・25p・26p完掘 (北から)



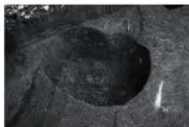
5. 24p完掘 (東から)



6. 27p完掘 (南から)



7. 30p完掘 (南から)



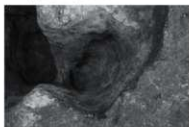
8. 31p完掘 (南西から)



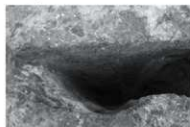
9. 37p土層断面 (西から)



10. 37p完掘 (西から)



11. 39p完掘 (西から)



12. 40p土層断面 (西から)



13. 40p完掘 (西から)



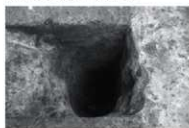
14. 41p土層断面 (東から)



15. 41p完掘 (東から)



16. 43p完掘 (西から)



17. 44p土層断面 (西から)



18. 50p完掘 (西から)

図版16



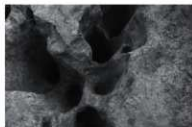
1. 51p完掘 (西から)



2. 54p・56p・57p土層断面 (西から)



3. 56p土層断面 (北西から)



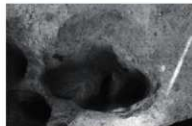
4. 54p完掘 (西から)



5. 56p完掘 (西から)



6. 55p・86p土層断面 (北西から)



7. 86p完掘 (北から)



8. 58p・18・45号遺横土層断面 (西から)



9. 59p完掘 (西から)



10. 67p土層断面 (西から)



11. 67p完掘 (西から)



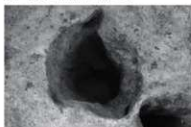
12. 70p土層断面 (西から)



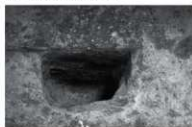
13. 70p完掘 (西から)



14. 78p土層断面 (東から)



15. 78p完掘 (東から)



16. 79p土層断面 (東から)



17. 79p完掘 (東から)



18. 81p土層断面 (北西から)

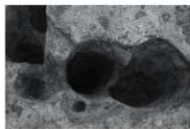
図版17



1. 81p完掘 (北西から)



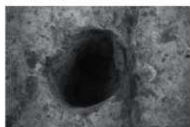
2. 82p・83p土層断面 (南から)



3. 82p・83p完掘 (南から)



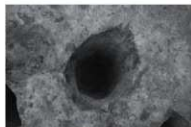
4. 84p土層断面 (西から)



5. 84p完掘 (西から)



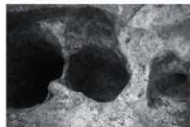
6. 95p土層断面 (東から)



7. 95p完掘 (東から)



8. 108p完掘 (東から)



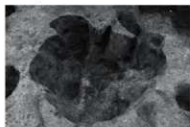
9. 109p完掘 (東から)



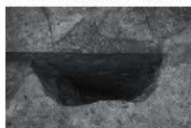
10. 130・131p他土層断面 (北から)



11. 155p・156p土層断面 (北から)



12. 130p・158p他完掘 (北から)



13. 163p土層断面 (東から)



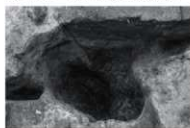
14. 177p・178p土層断面 (南から)



15. 181p土層断面 (北西から)



16. 184p土層断面 (北から)



17. 195p完掘 (南東から)



18. 197p完掘 (南東から)

図版18



1. 204p土層断面 (南西から)



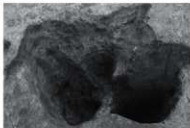
2. 204p完掘 (南西から)



3. 206p・211p土層断面 (北から)



4. 207p・211p他土層断面 (北から)



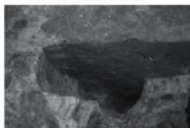
5. 206p・223p完掘 (北から)



6. 207p・211p・212p完掘 (北から)



7. 209p土層断面 (西から)



8. 235p~237p土層断面 (西から)



9. 246p・247p土層断面 (西から)



10. 209p他完掘 (西から)



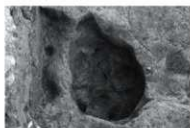
11. 229p・231p土層断面 (東から)



12. 252p土層断面 (南から)



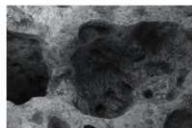
13. 252p遺物出土状況 (南から)



14. 252p完掘 (南から)



15. 256p完掘 (北から)



16. 257o完掘 (北から)



17. 259o完掘 (西から)



18. 263p完掘 (北から)



1. 近世遺物集合写真



2. 40号遺構出土近代以降遺物集合写真



3. 2号遺構出土近代以降遺物集合写真



4. 2号遺構出土ガラス製品集合写真



5. 金属製品集合写真



6. 銭貨集合写真



7. 代用陶器集合写真



8. 電気製品集合写真



## 報告書抄録

ふりがな	ながさきいっちょうめしゅうへんいせき2							
書名	長崎一丁目周辺遺跡2							
副書名	都道補助第172号線整備事業に伴う調査							
シリーズ名	東京都埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第383集							
編著者名	橋本望 西山博章 山根洋子							
編集機関	公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター							
所在地	〒206-0033 東京都多摩市落合一丁目14番2 TEL.042-374-8044							
発行年月日	西暦 2024年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ながさきいっちょうめ 長崎一丁目 しゅうへんいせき 周辺遺跡	とうきょうとふし 東京都豊島区 ながさきいっちょうめちかい 長崎一丁目地内	13116	10	35°43'43"	139°41'40"	20220720 ～ 20230316	1,363㎡	都道補助 第172号線 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長崎一丁目 周辺遺跡	包蔵地	縄文時代 古代 近世以降	溝状遺構 16条 土坑 71基 植栽痕 17基 井戸 4基 畝間溝 22条以上 コンクリート構 造物 1基 ピット 272基	土器・石器 土器 陶磁器・土器・瓦・ガラス製品・ 骨角製品・動物骨・石器・石製 品・木製品・金属製品・レンガ 電気製品		近代以降の遺構・遺 物が主体的に検出 土坑から埋葬された 可能性のあるウマー 個体分の骨や歯が出 土 第二次世界大戦期の コンクリートタイル・ モルタル製の貯水施設 検出、焼夷弾の親 爆弾のノーズブロッ ク(重り)出土		
要約	<p>長崎一丁目周辺遺跡は、豊島区长崎一丁目に所在し、武蔵野台北東部にあたる豊島台と呼ばれる台地に立地している。</p> <p>本遺跡は中世・近世の散布地(包蔵地)と把握されており、これまでの調査では主に近世以降の礎石建物跡・溝・畝間溝・井戸などの土地利用の痕跡などが検出されている。</p> <p>今回の調査で検出された遺構・遺物は、主に近世・近代・現代に属する。主な遺構は溝・畝間溝・井戸・土坑・ピットなどが検出され、遺物は縄文土器・石器・近世以降の陶磁器・土製品・瓦・金属製品・ガラス製品・骨角製品・動物骨などが出土した。</p> <p>D-1・2区では、主に近世に属する遺構・遺物が検出されている。土坑からは埋葬された可能性のあるウマー個体分の骨や歯が出土しており、共存する遺物から年代の上限は幕末と考えられる。</p> <p>E区では主に近代に属する遺構・遺物が検出されている。E-1a区では、貯水施設と考えられる大規模なコンクリート構造物を検出した。ピットからは、板碑片及び摺鉢片が検出された。</p> <p>F区では、主に近現代に属する遺構・遺物が検出されている。第二次世界大戦の際に投下されたと思われる焼夷弾の親爆弾のノーズブロック(重り)が出土した。</p>							

印刷仕様

表紙	レザック	215kg (四六判)
見返し	上質紙	135kg (四六判)
本文	マットコート紙	90kg (四六判)
写真図版	マットコート紙	90kg (四六判)
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク	エコマーク商品認定基準適合	
製版線数	150線 (カラー175線)	

本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用

豊島区

長崎一丁目周辺遺跡 2

一都道補助第172号線整備事業に伴う調査—

東京都埋蔵文化財センター調査報告 第383集

---

2024年3月31日 発行

編集・発行 公益財団法人東京都教育支援機構  
東京都埋蔵文化財センター

東京都多摩市落合一丁目14番2  
TEL 042 - 374 - 8044

印刷 信毎書籍印刷株式会社  
長野県長野市西和田1-30-3

---